

# **不登校児童生徒の実態把握に関する 調査報告書**

**不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議**

**令和3年10月**

# 目次

<b>第 1 章 調査概要</b> .....	1
1-1 調査目的 .....	1
1-2 調査方法 .....	1
<b>第 2 章 不登校児童生徒に対する調査</b> .....	3
2-1 対象者自身の状況 .....	3
2-2 学校に行きづらいつ感じ始めたときのこと .....	8
2-3 学校を休んでいる間 .....	25
2-4 今のこと .....	35
2-5 最後に .....	38
2-6 その他 .....	45
<b>第 3 章 不登校児童生徒の保護者に対する調査</b> .....	47
3-1 子どもの状況 .....	47
<b>第 4 章 クロス集計</b> .....	82
4-1 不登校の状況に影響を与える要素 .....	82
4-2 児童生徒の個々の状況に応じた支援策 .....	89
4-3 児童生徒が最初に 30 日以上の欠席をした学年別の児童生徒の状況 .....	99
<b>第 5 章 まとめ・考察</b> .....	102
5-1 まとめ・考察 .....	102
5-2 結び .....	107

# 第1章 調査概要

---

## 1-1 調査目的

不登校児童生徒への支援については、平成 28 年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立し、平成 29 年には同法に基づき「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」が策定され、学校以外の場を含めた教育機会の確保や支援策が進められている。また、令和 2 年度からは文部科学省において新たに教育支援センターを中核とした関係機関との連携体制の整備等に係る事業が創設されるなど、支援策の充実が図られてきたところである。

今般、不登校児童生徒への更なる支援の充実等について検討する上での基礎資料とするため、また同法第 16 条において、「国は、義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の実態の把握に努める」こととされていることも踏まえ、不登校児童生徒本人や保護者の協力を得て、その実態を把握することを目的とした調査を行った。

## 1-2 調査方法

調査時点において、調査への協力が得られた学校に通う小学校 6 年生又は中学校 2 年生で、昨年度（令和元年度）に不登校であった者のうち、調査対象期間に、学校に登校又は教育支援センターに通所の実績がある者及びその保護者を対象としたアンケートを実施した。

### 1-2-1 調査対象

調査への協力が可能と回答のあった対象学校 7,161 校（22,009 人）。

（小学 6 年生）6,080 人、3,498 校

（中学 2 年生）15,929 人、3,663 校

### 1-2-2 調査手法

調査対象校から調査対象児童生徒及び保護者への調査票の配付及び調査対象児童生徒及び保護者から調査実施業者への直接送付

### 1-2-3 調査時期

令和 2 年 12 月 1 日～令和 2 年 12 月 28 日（令和 3 年 1 月 19 日までの回収分を集計）

#### 1-2-4 回収状況（有効回収数）

	児童生徒	保護者
小学6年生	713件（回収率 11.7%）	754件（回収率 12.4%）
中学2年生	1,303件（回収率 8.2%）	1,374件（回収率 8.6%）

なお、文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（平成30年度、令和元年度）」によると、不登校の状態が前年度から継続している（前回調査でも不登校に計上されていた）児童生徒数の割合は、下記の通り。

	前年度（平成30年度）の不登校者数（A）	令和元年度に前年度から継続している不登校者数（B）	令和元年度に不登校でなくなった人数（A-B）	昨年度に不登校であった者で、当該年度に不登校でなくなった割合（A-B/A）
小学校6年生	11,172	8,272	2,900	26.0%
中学校2年生	29,754	25,063	4,691	15.8%

前頁で示した調査対象数のうち、令和2年度に不登校でなくなった割合が上記だと仮定した場合、不登校でなくなった児童生徒を母数とした場合の回収率は、下記の通り。

	対象数（今年度に登校したもののみ：推計値）	回答数	回収率
小学校6年生	1,578	713	45.2%
中学校2年生	2,511	1,303	51.9%

※ ただし、本調査では、調査対象期間中に登校又は教育支援センターに通所の実績がある者であれば、令和2年度においても不登校の状態が継続していても調査対象としている。

## 第2章 不登校児童生徒に対する調査

### 2-1 対象者自身の状況

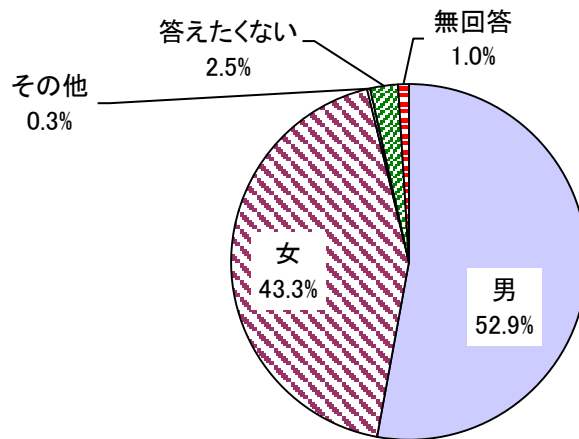
#### 2-1-1 性別

【問1】 あなたの性別をお答えください。(単一回答)

#### (1)小学校

性別は、「男 (53%)」、「女 (43%)」で「男」の回答がやや多い。

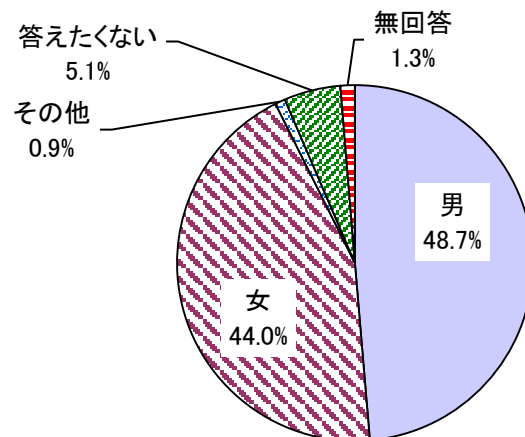
図表 2-1 性別 (小学校 n=713)



#### (2)中学校

性別は、「男 (49%)」、「女 (44%)」で「男」の回答がやや多い。

図表 2-2 性別 (中学校 n=1,303)



## 2-1-2 夏休み以降の出席状況

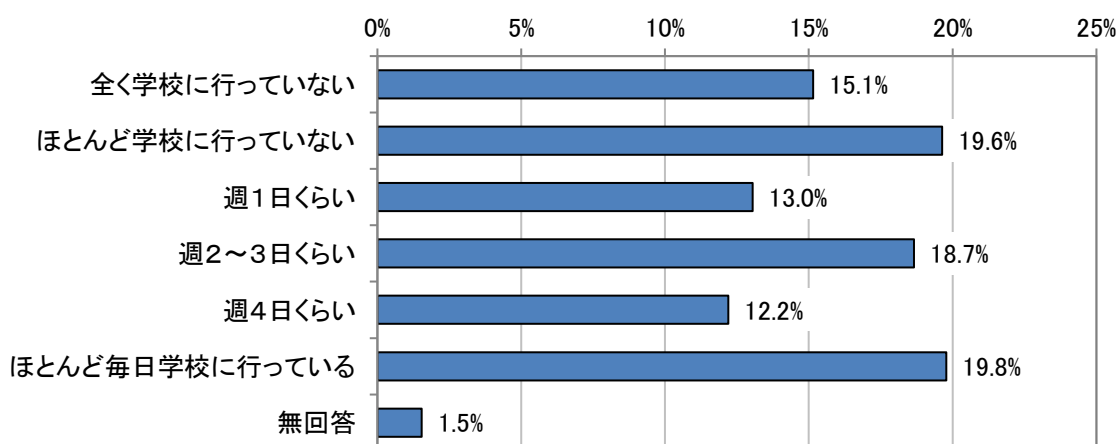
【問2】 あなたは今年の夏休みが終わり学校が始まってから、どのくらい学校に行っていますか。

(単一回答)

### (1) 小学校

夏休み以降の出席状況は、小学校では、「全く学校に行っていない (15%)」と「ほとんど学校に行っていない (20%)」を合わせて4割弱がほとんど登校していない。

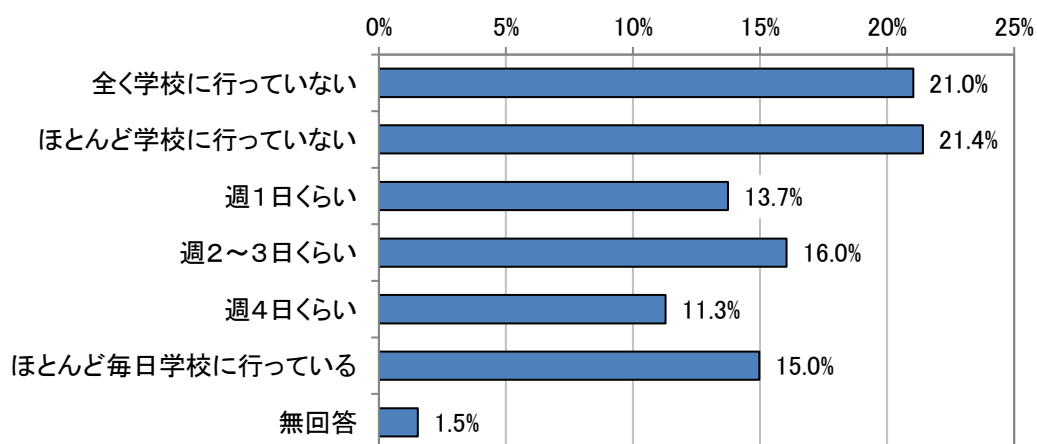
図表 2-3 今年の夏休み以降の出席状況 (小学校 n=713)



### (2) 中学校

中学校でも、小学校と同様、「全く学校に行っていない (21%)」と「ほとんど学校に行っていない (21%)」を合わせて約4割がほとんど登校していない。

図表 2-4 今年の夏休み以降の出席状況 (中学校 n=1,303)



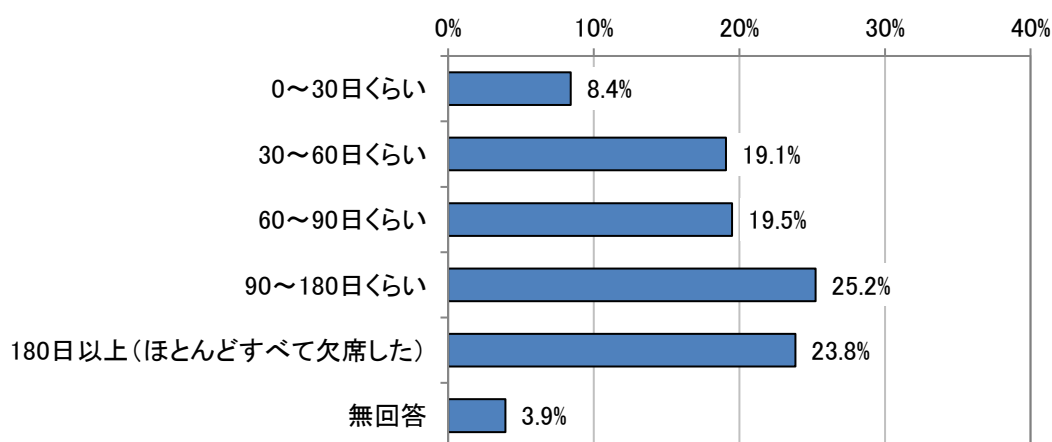
### 2-1-3 昨年（小学5年生・中学1年生）の欠席状況

【問3】 あなたが小学5年生（中学1年生）のとき、1年間で学校を欠席した日数をお答えください。（夏休み等の長期休暇中は除く。大体の日数で構いません。）（単一回答）

#### (1) 小学校

昨年（小学5年生）の欠席状況は、「90～180日くらい」が最も高い割合で25%、次いで、「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」が24%である。

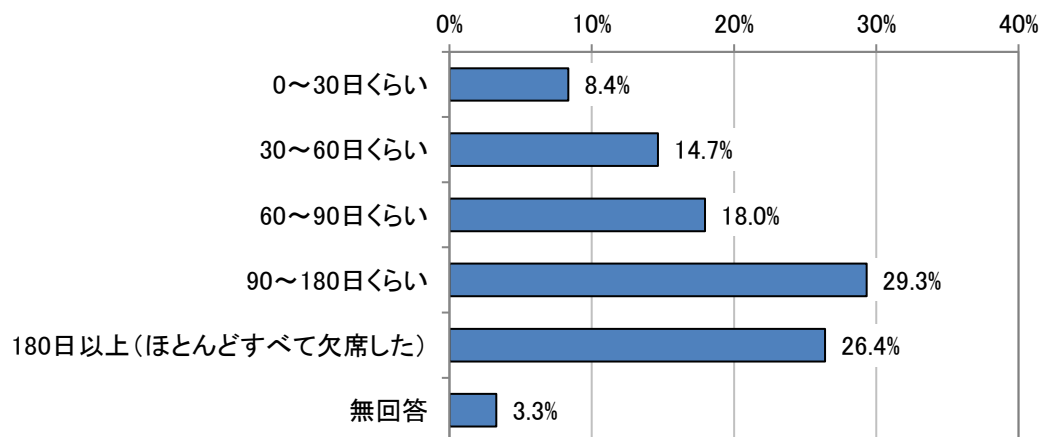
図表 2-5 性別（小学校 n=713）



#### (2) 中学校

昨年（中学1年生）の欠席状況は、「90～180日くらい」が最も高い割合で29%、次いで、「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」が26%である。

図表 2-6 性別（中学校 n=1,303）



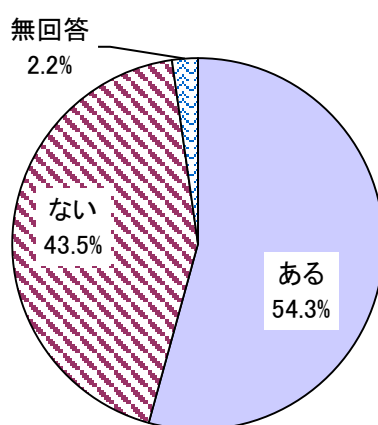
#### 2-1-4 以前の欠席の有無

【問4】① 小学校4年生以前（小学生のとき）にも、1年間に約30日以上学校を欠席したことがありますか。（病気やけがによる欠席は除く）（単一回答）

##### (1) 小学校

小学校4年生以前にも1年間に約30日以上を欠席したことがあるかどうかについては、54%が「ある」と回答している。

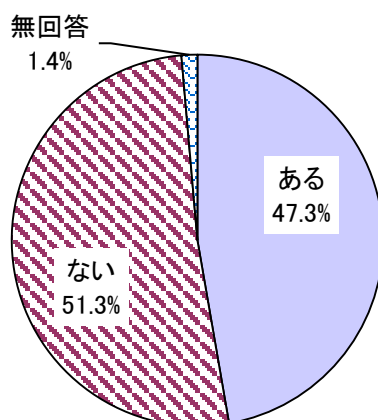
図表 2-7 以前の欠席の有無（小学校 n=713）



##### (2) 中学校

小学生のときにも1年間に約30日以上を欠席したことがあるかどうかについては、47%が「ある」と回答している。

図表 2-8 以前の欠席の有無（中学校 n=1,303）





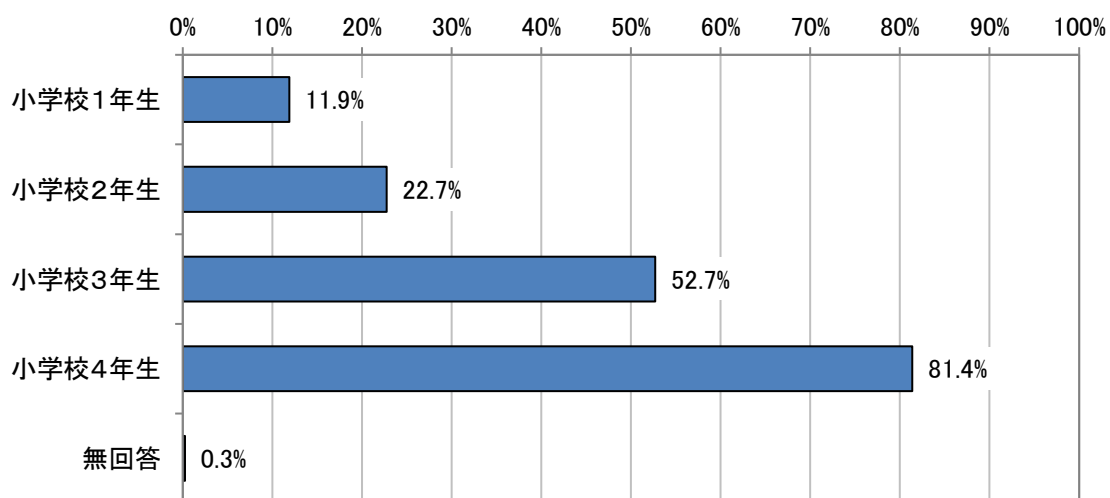
## 2-1-5 欠席したことがある学年

【問4】② 問4①で「ある」と答えた場合、それは何年生の時ですか。(複数回答)

### (1)小学校

小学校4年生以前に欠席したことがある学年については、「小学校4年生」が81%で最も高い割合である。

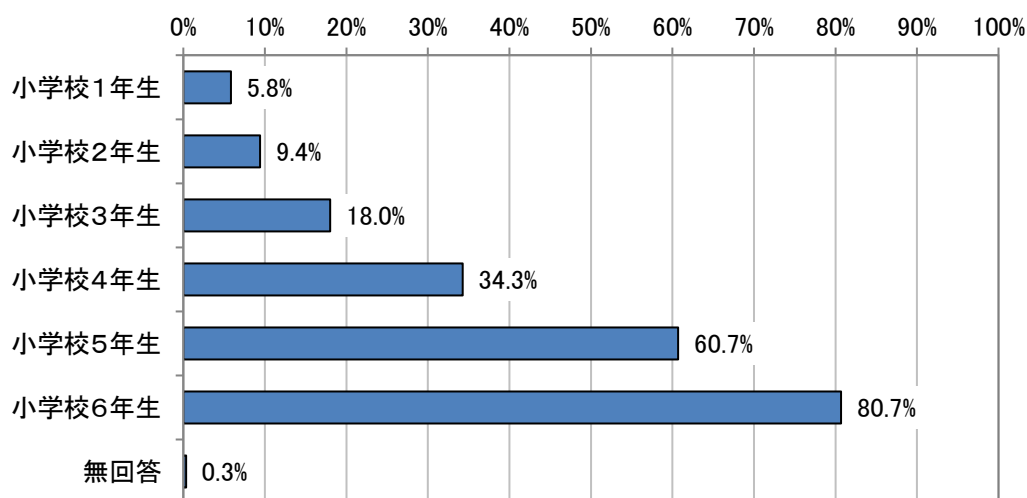
図表 2-9 欠席したことがある学年 (小学校 n=387)



### (2)中学校

小学校のときに欠席したことがある学年については、「小学校6年生」が81%で最も高い。

図表 2-10 欠席したことがある学年 (中学校 n=616)



## 2-2 学校に行きづらいつと感じ始めたときのこと

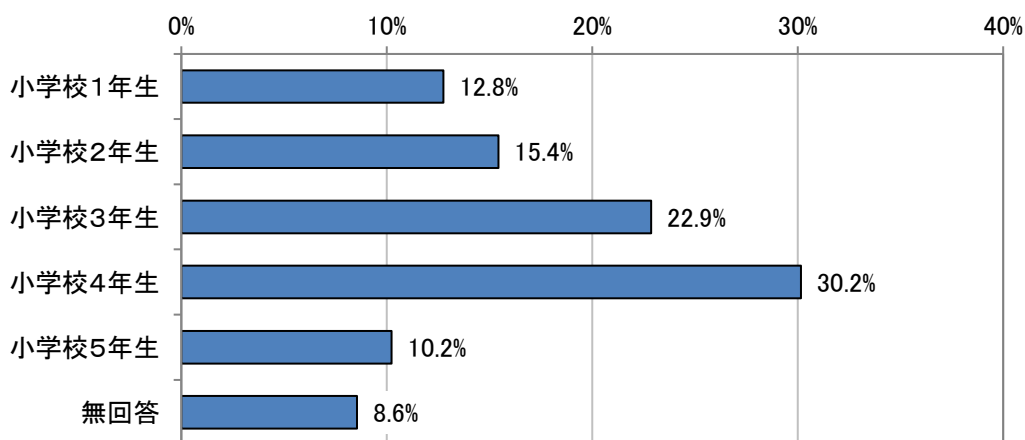
### 2-2-1 最初に行きづらいつと感じ始めた学年

【問5】 あなたが一番最初に学校に行きづらいつ、休みたいと感じ始めたのはいつでしたか。(単一回答)

#### (1) 小学校

最初に学校に行きづらいつと感じ始めた学年は、「小学校4年生」が30%で最も高い。

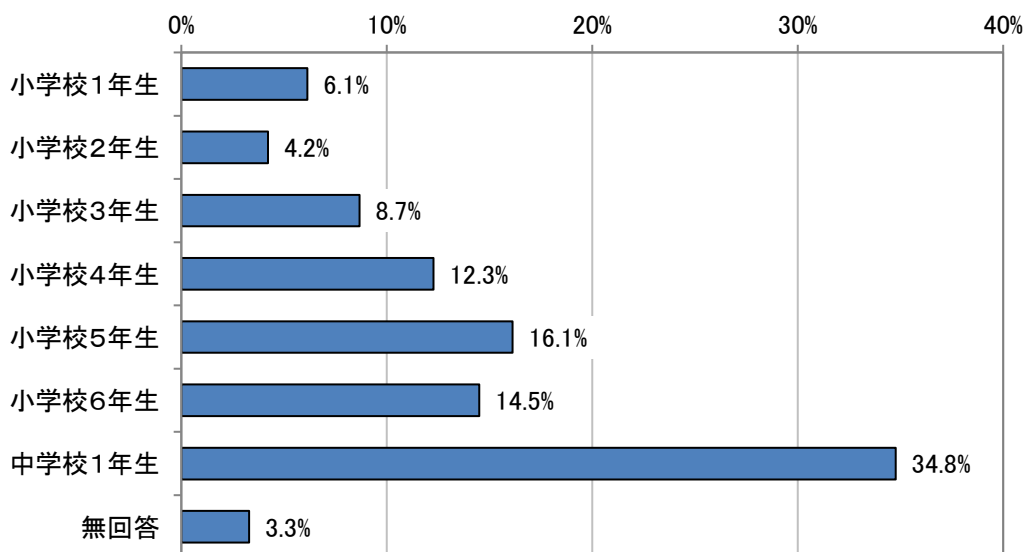
図表 2-11 最初に行きづらいつと感じ始めた学年（小学校 n=713）



#### (2) 中学校

最初に学校に行きづらいつと感じ始めた学年は、「中学校1年生」が35%で最も高い。

図表 2-12 最初に行きづらいつと感じ始めた学年（中学校 n=1,303）



## 2-2-2 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ

【問6】 あなたが一番最初に学校に行きづらいつ、休みたいと感じ始めたときのきっかけは何でしたか。  
(複数回答)

最初に学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけは、多岐にわたる。一番割合が高いものは、小学生は「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）（30%）」、中学生は「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）（33%）」である。

学校生活のいずれかがきっかけの児童生徒は 8 割弱。身体的な不調や生活リズム変調がきっかけは 4 割強。

2 割強（小学生（26%）、中学生（23%））は、「きっかけが何か自分でもよくわからない」と回答している。

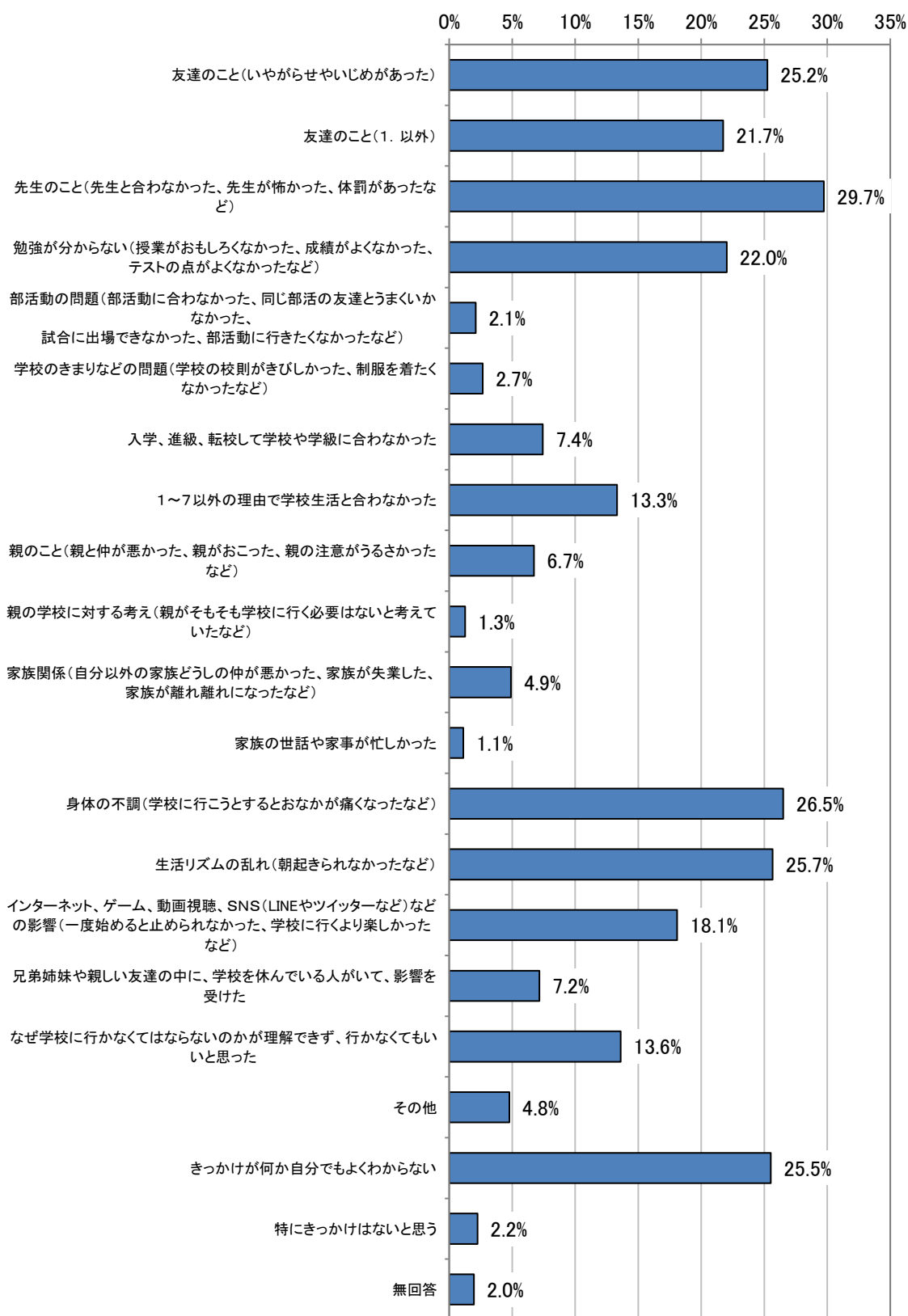
図表 2-13 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ

	小学生	中学生
学校生活がかきっかけ	548 ( 76.9%)	1034 ( 79.4%)
身体の不調・生活リズム	291 ( 40.8%)	573 ( 44.0%)
合計	713 ( 100.0%)	1303 ( 100.0%)

- ※「学校生活がかきっかけ」：以下のいずれかにあてはまる場合  
「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」「友達のこと（1. 以外）」「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」「勉強が分からない（授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど）」「部活動の問題（部活動に合わなかった、同じ部活の友達とうまくいかなかった、試合に出場できなかった、部活動に行きたくなかったなど）」「学校のきまりなどの問題（学校の校則がきびしかった、制服を着たくなかったなど）」「入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった」「1～7以外の理由で学校生活と合わなかった」
- ※「身体の不調・生活リズム」：以下のいずれかにあてはまる場合  
「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」「生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）」

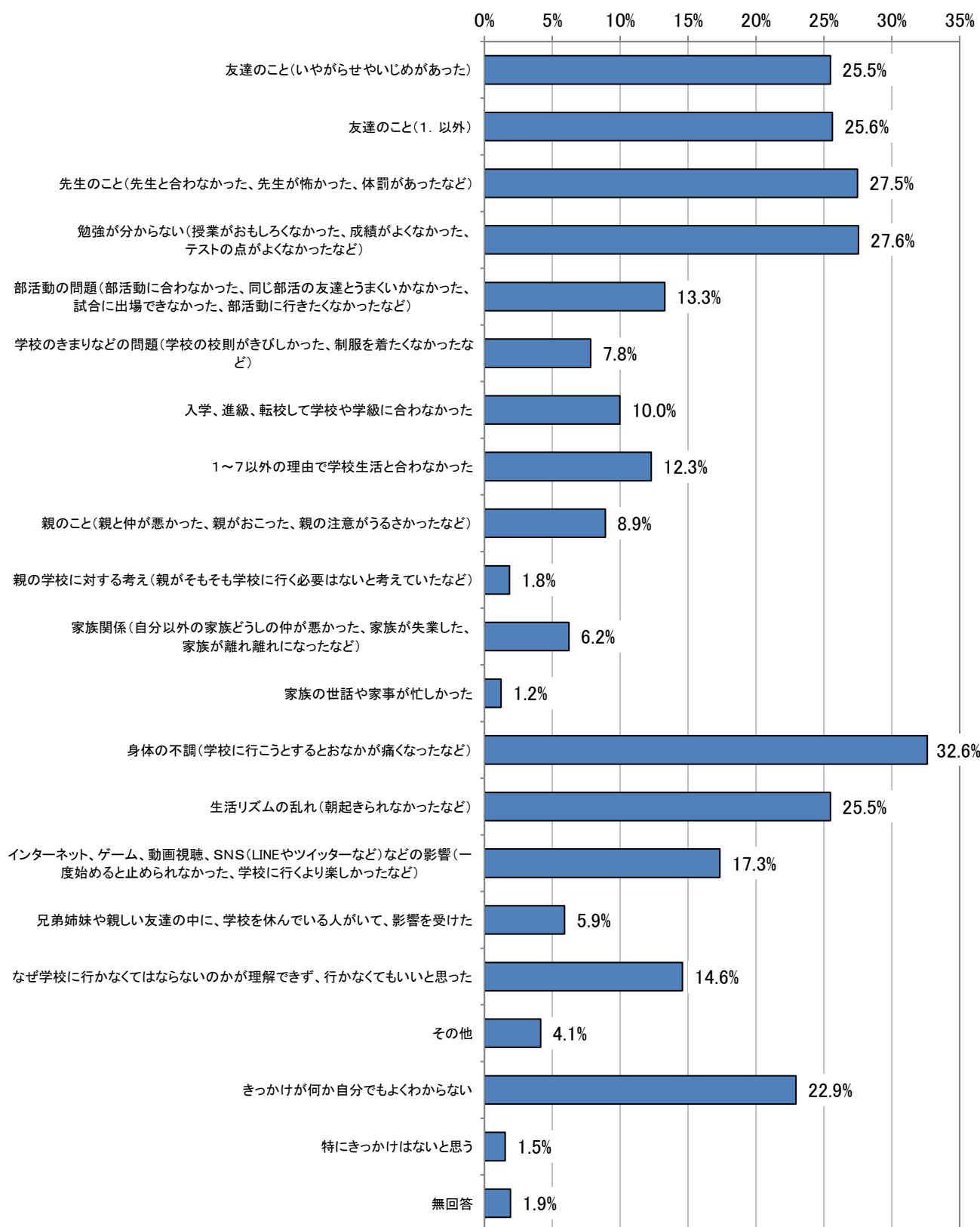
(1) 小学校

図表 2-14 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ (小学校 n=713)



## (2) 中学校

図表 2-15 最初に行きづらいつと感じ始めた学年（中学校 n=1,303）



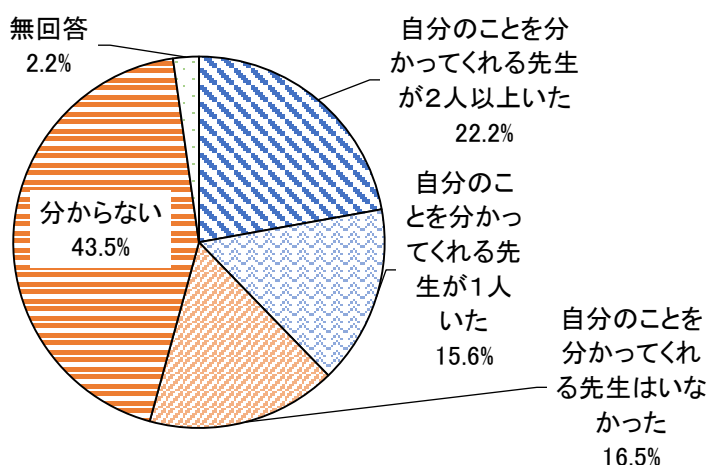
### 2-2-3 先生について

【問7】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたとき、学校の先生についてどのように感じていましたか。(単一回答)

#### (1) 小学校

「自分のことを分かってくれる先生が2人以上いた (22%)」と「自分のことを分かってくれる先生が1人いた (16%)」を合わせて約4割 (38%) が「自分のことを分かってくれる先生がいた」と回答している。

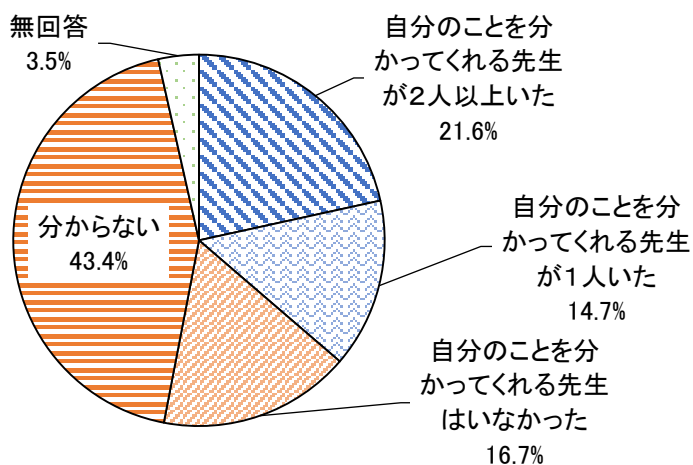
図表 2-16 先生について (小学校 n=713)



#### (2) 中学校

「自分のことを分かってくれる先生がいた」割合は、小学校同様、約4割 (36%)。

図表 2-17 先生について (中学校 n=1,303)



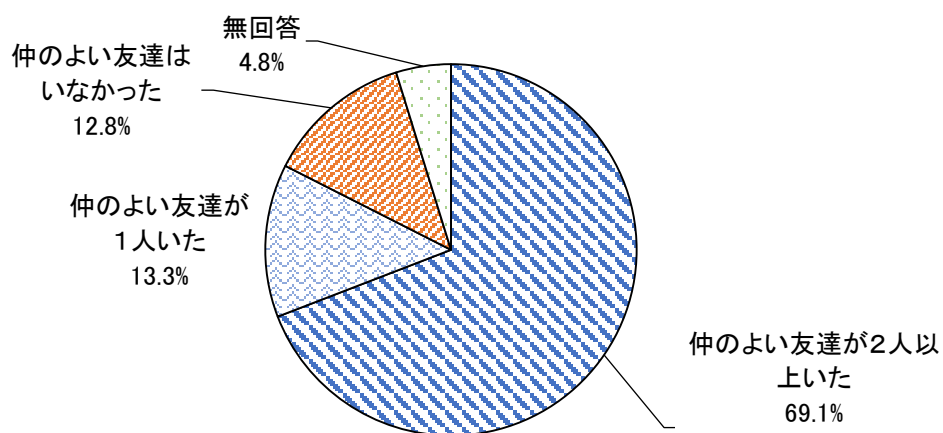
## 2-2-4 友達について

【問8】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたとき、学校の友達についてどのように感じていましたか。(単一回答)

### (1)小学校

「仲のよい友達が2人以上いた(69%)」と「仲のよい友達が1人いた(13%)」を合わせて約8割(82%)が「仲のよい友達がいた」と回答している。

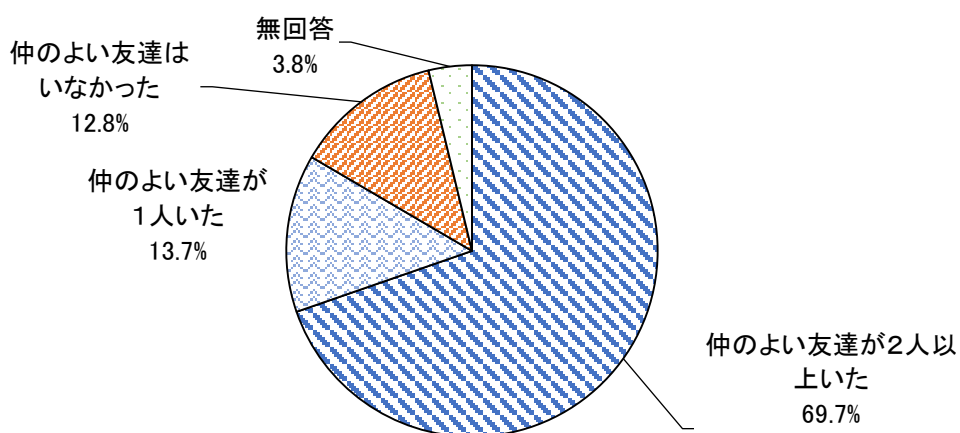
図表 2-18 友達について (小学校 n=713)



### (2)中学校

「仲のよい友達がいた」の割合は、小学校同様、約8割(83%)である。

図表 2-19 友達について (中学校 n=1,303)



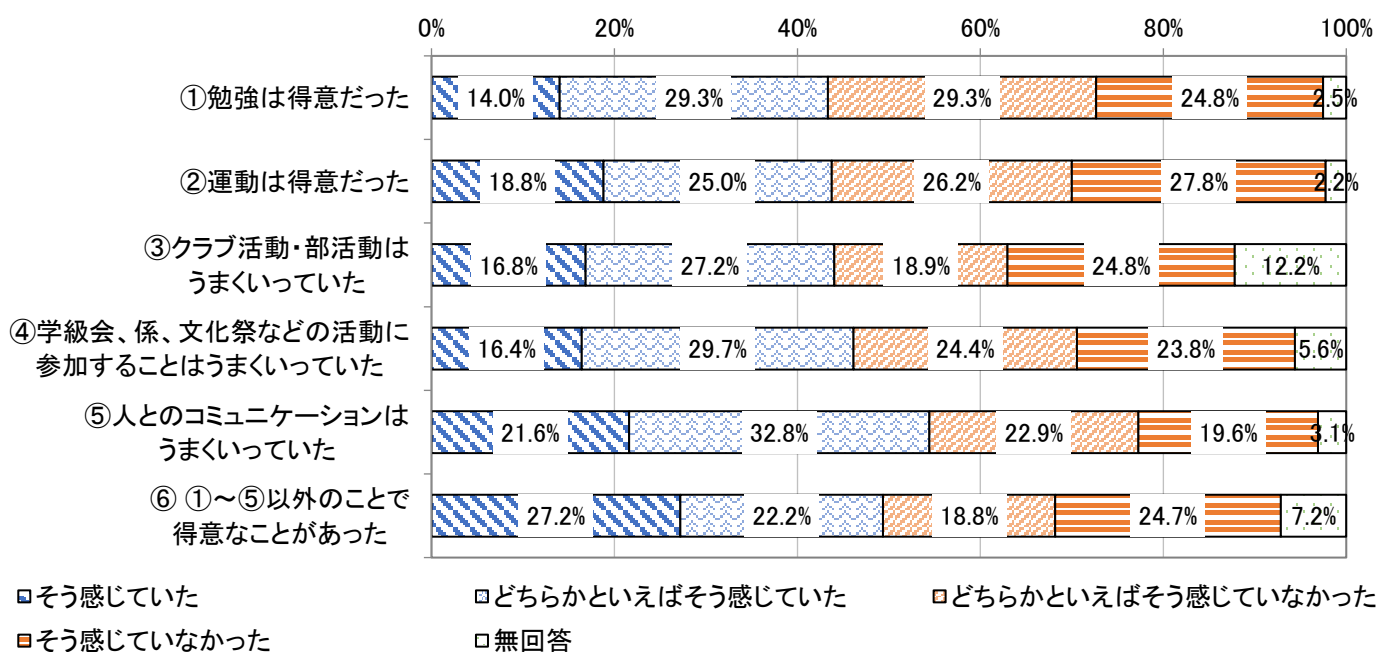
## 2-2-5 自分のことについて

【問9】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたとき、以下について、自分のことをどのように感じていましたか。(学校以外のことでも構いません。)(単一回答)

### (1) 小学校

「そう感じていた」と「どちらかといえばそう感じていた」を合わせた割合は、「勉強が得意だった(43%)」、「運動が得意だった(44%)」、「学級会、係、文化祭などの活動に参加することはうまくいっていた(46%)」、「人とのコミュニケーションはうまくいっていた(54%)」と、ばらつきはあるものの、それぞれ4割～5割程度である。

図表 2-20 自分のことについて (小学校 n=713)

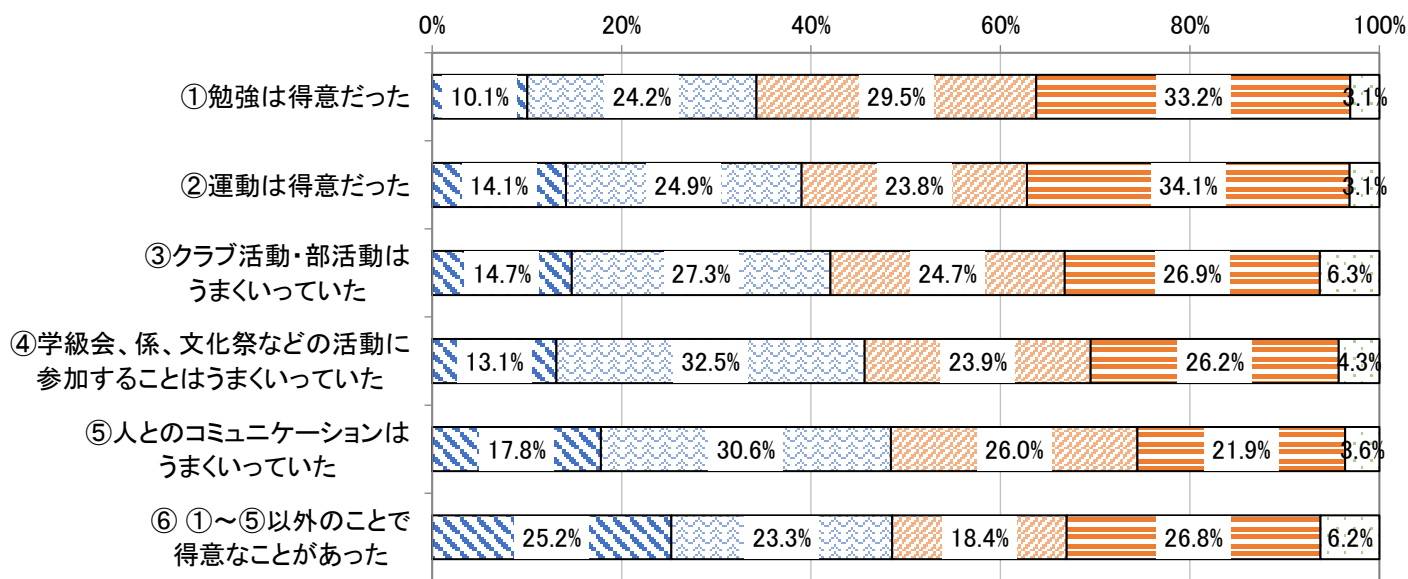




(2)中学校

「勉強が得意だった (34%)」「運動が得意だった (39%)」について、「感じていた」の割合がそれぞれ4割未満と低い。

図表 2-21 自分のことについて (中学校 n=1,303)



□そう感じていた □どちらかといえばそう感じていた □どちらかといえばそう感じていなかった □そう感じていなかった □無回答

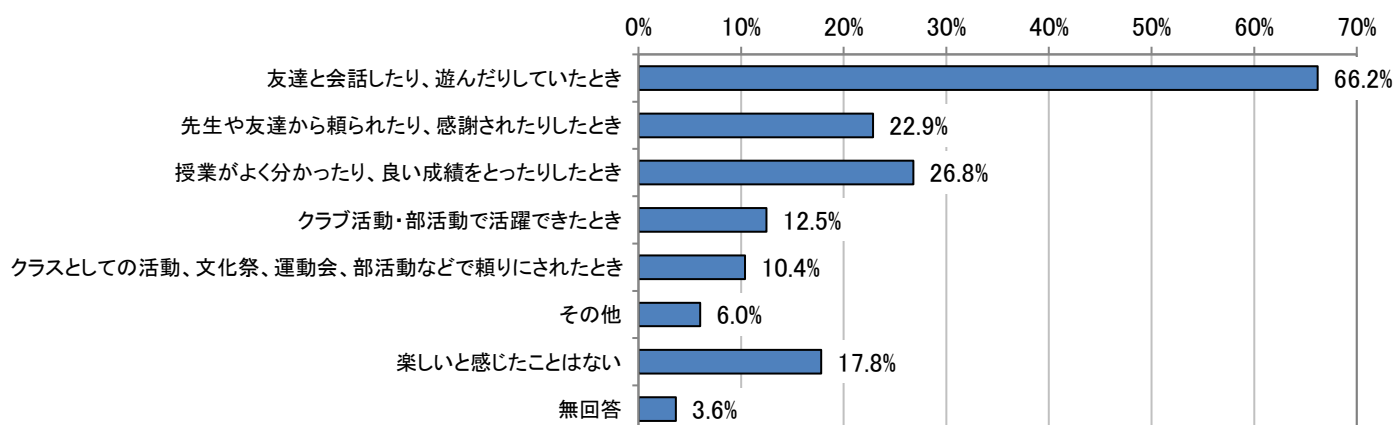
## 2-2-6 楽しいと感じた出来事

【問10】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたときに、以下の中で楽しいと感じた出来事がありましたか。(複数回答)

### (1)小学校

「友達と会話したり、遊んだりしていたとき (66%)」の割合が6割を超えて高い。「楽しいと感じたことはない (18%)」の割合は2割弱である。

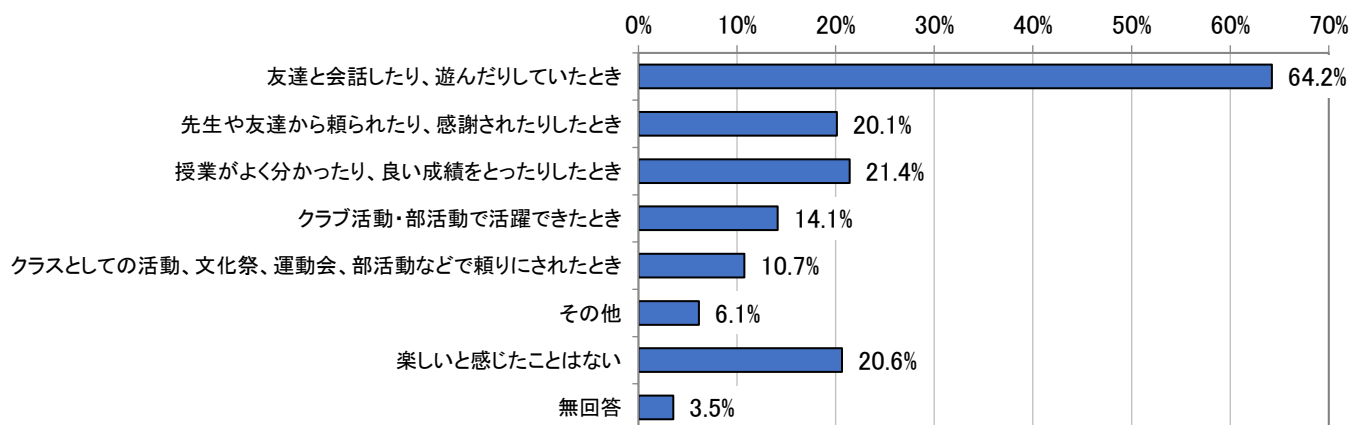
図表 2-22 楽しいと感じた出来事 (小学校 n=713)



### (2)中学校

小学校同様、「友達と会話したり、遊んだりしていたとき (64%)」の割合が6割、「楽しいと感じたことはない (21%)」の割合は2割である。

図表 2-23 楽しいと感じた出来事 (中学校 n=1,303)



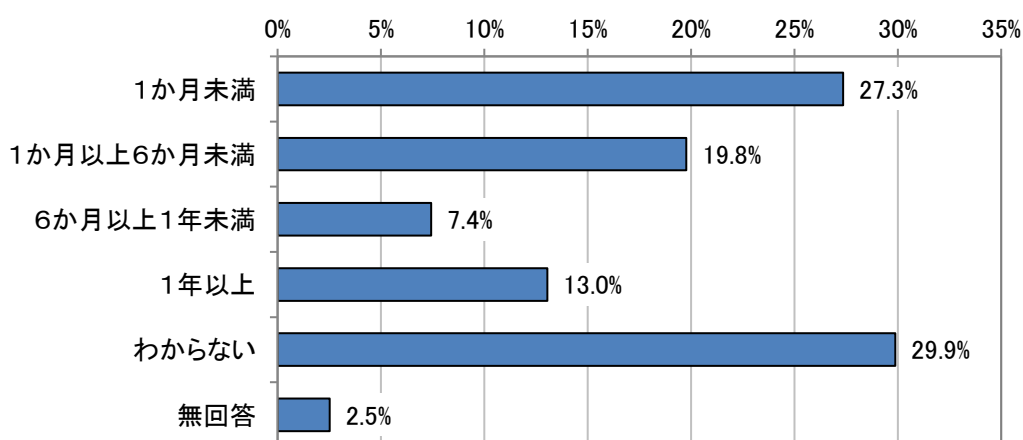
## 2-2-7 実際に休み始めるまでの期間

【問11】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから実際に休み始める（休みがちになる）までどのくらいの期間がありましたか。（単一回答）

### (1) 小学校

「1か月未満（27%）」、「1か月以上6か月未満（20%）」を合わせると、学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、5割程度が1か月～半年程度で休み始めている。

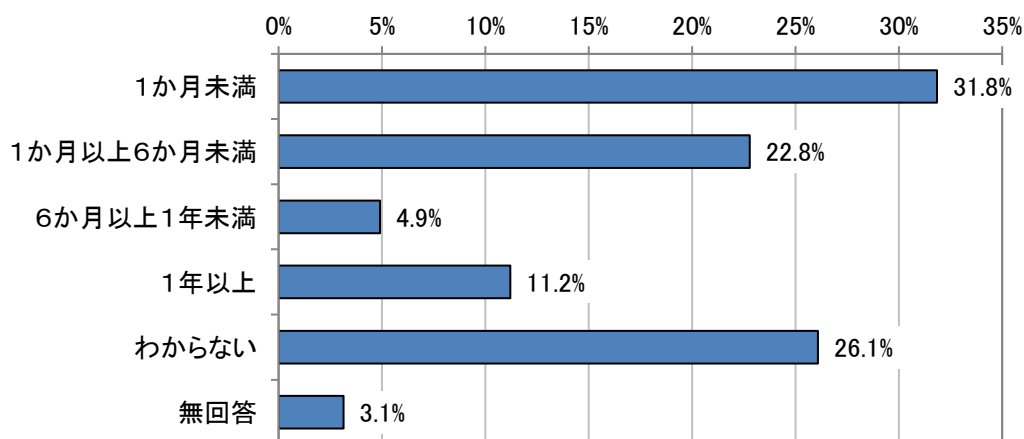
図表 2-24 実際に休み始めるまでの期間（小学校 n=713）



### (2) 中学校

小学校同様、学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、「1か月未満（32%）」、「1か月以上6か月未満（23%）」を合わせて、5割程度が1か月～半年程度で休み始めている。

図表 2-25 実際に休み始めるまでの期間（中学校 n=1,303）



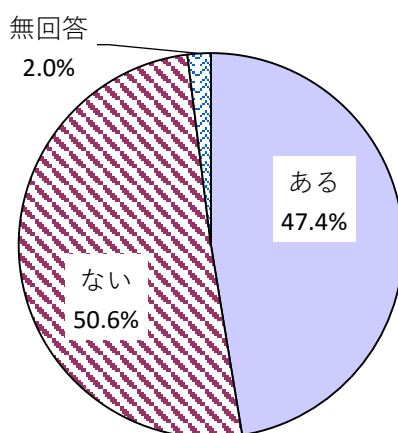
## 2-2-8 別室に登校していた期間の有無

【問12】① あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始める（休みがちになる）まで、学校内のクラスの教室以外の別室（保健室や相談室など）に登校していた期間はありましたか。（単一回答）

### (1)小学校

別室に登校していたことが「ある（47%）」の割合は、5割程度である。

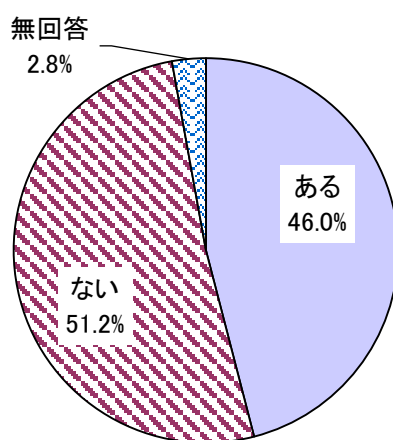
図表 2-26 別室に登校していた期間の有無（小学校 n=713）



### (2)中学校

小学校同様、5割程度が別室に登校していたことが「ある（46%）」と回答している。

図表 2-27 別室に登校していた期間の有無（中学校 n=1,303）



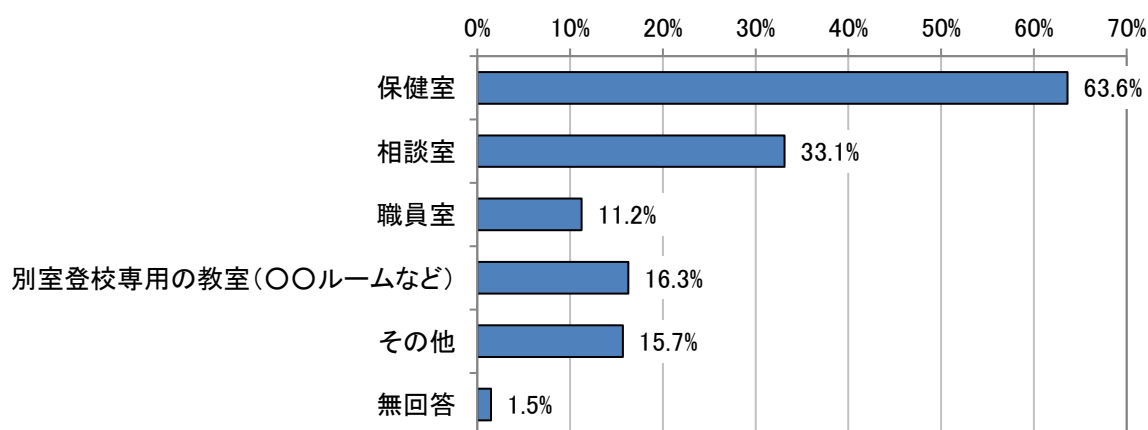
## 2-2-9 別室に登校していた場所

【問12】② 問12①で「ある」と答えた場合、別室に登校した場所はどこですか。（放課後の時間だけ登校する場合も含まれます。）（複数回答）

### (1) 小学校

別室に登校していた期間が「ある」と回答した場合の場所は、「保健室（64%）」の割合が高い。

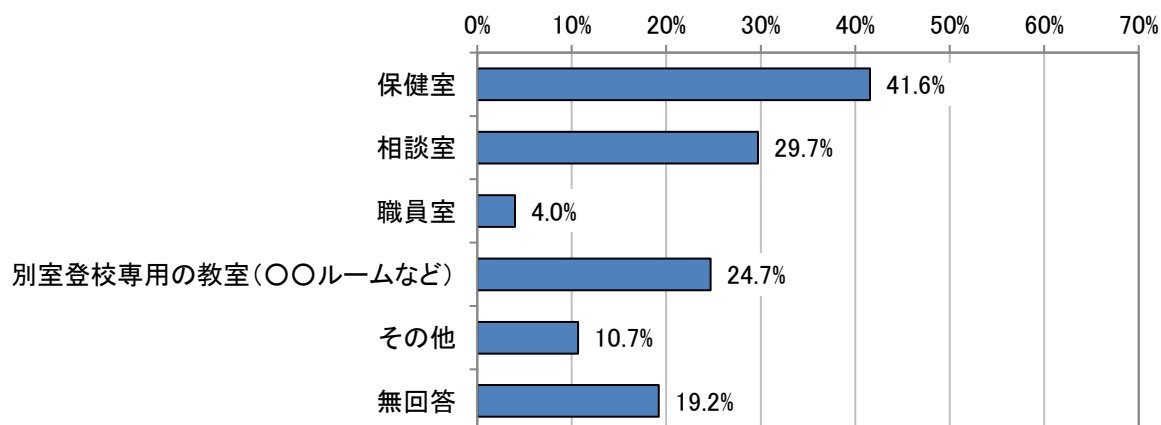
図表 2-28 別室に登校していた場所（小学校 n=338）



### (2) 中学校

別室に登校していた場所は、「保健室（42%）」、「相談室（30%）」、「別室登校専用の教室（〇〇ルームなど）（25%）」に分かれている。

図表 2-29 別室に登校していた場所（中学校 n=599）



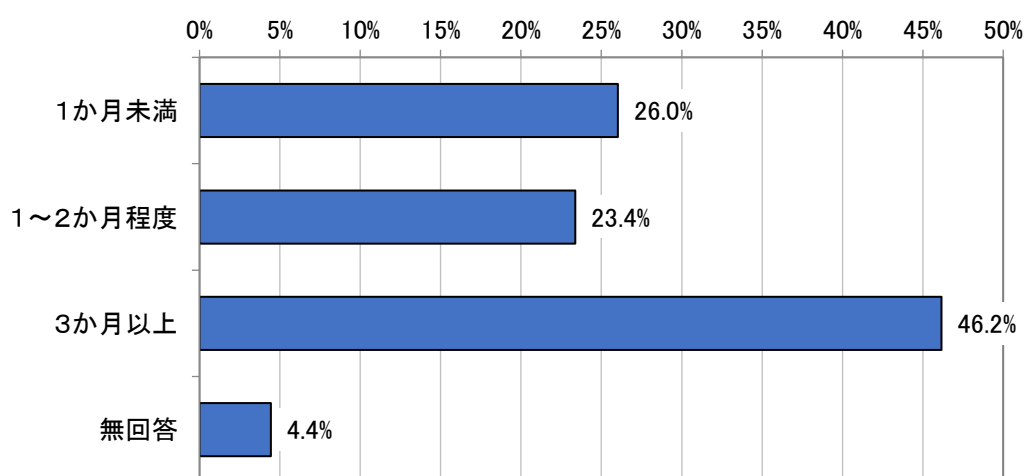
## 2-2-10 別室に登校していた期間

【問12】③ 問12①で「ある」と答えた場合、別室に登校した期間はどのくらいですか。(放課後の時間だけ登校する場合も含まれます。)(単一回答)

### (1)小学校

別室に登校していた期間が「ある」と回答した場合の期間は、「3か月以上(46%)」の割合が高い。

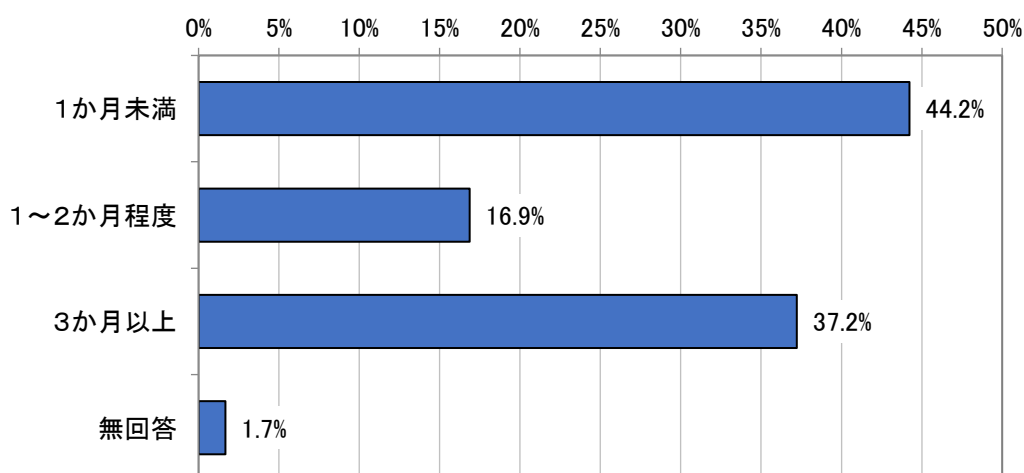
図表 2-30 別室に登校していた期間 (小学校 n=338)



### (2)中学校

別室に登校していた期間は、「1か月未満(44%)」、「3か月以上(37%)」の割合が高い。

図表 2-31 別室に登校していた期間 (中学校 n=599)



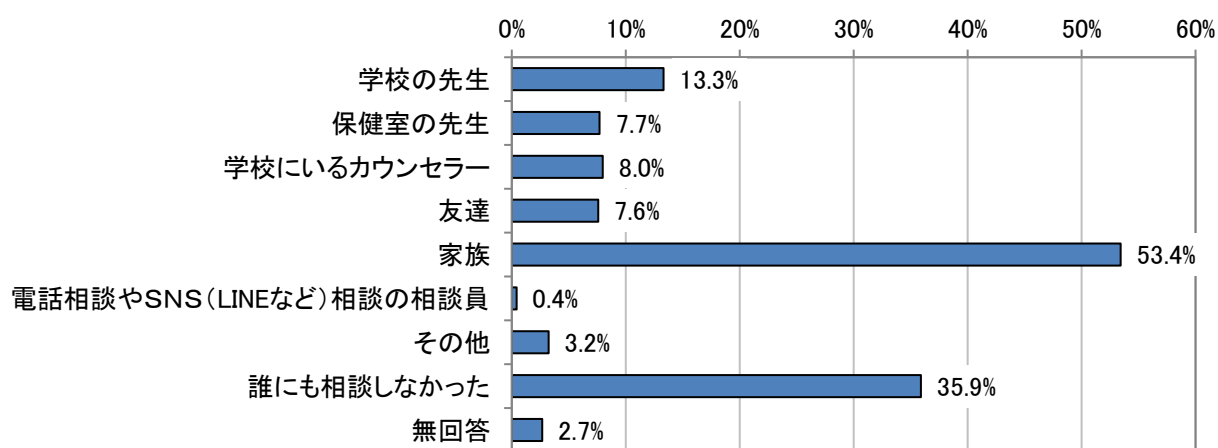
## 2-2-11 相談した相手

【問13】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間（休みがちになるまでの間）で、学校に行きづらいことについて誰かに相談しましたか。（複数回答）

### (1) 小学校

相談した相手は、「家族（54%）」が5割を超えているが、約4割が「誰にも相談しなかった（36%）」と回答している。

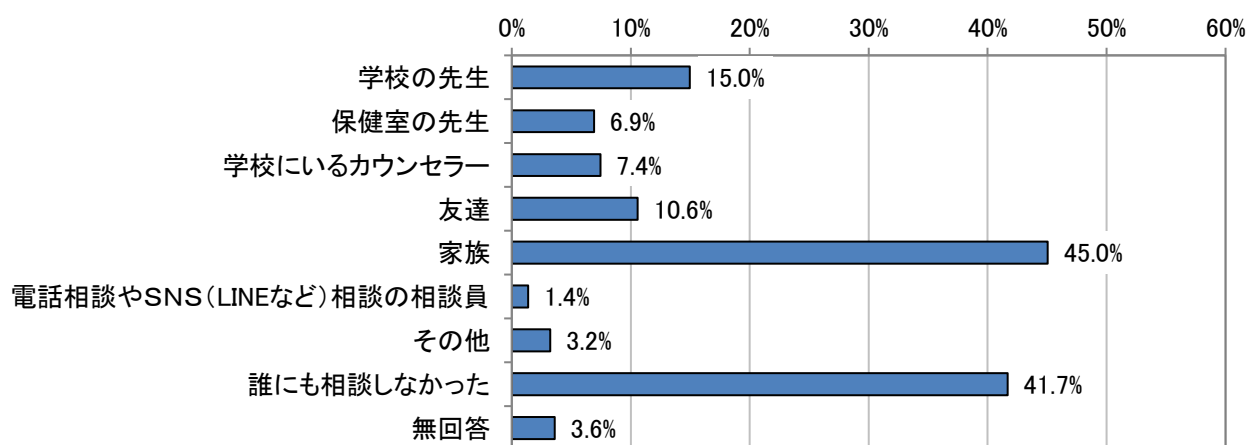
図表 2-32 相談した相手（小学校 n=713）



### (2) 中学校

相談した相手は「家族（45%）」、「誰にも相談しなかった（42%）」の順で高い。

図表 2-33 相談した相手（中学校 n=1,303）



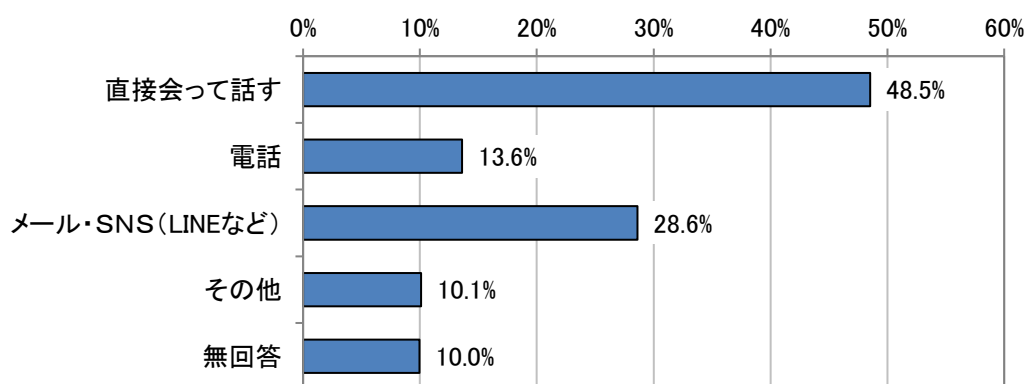
## 2-2-12 相談しやすい方法

【問14】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間（休みがちになるまでの間）で、悩みなどを相談するとしたら、相談しやすい方法は何だと思いますか。（複数回答）

### (1) 小学校

相談しやすい方法は、「直接会って話す（49%）」が5割程度と高い。

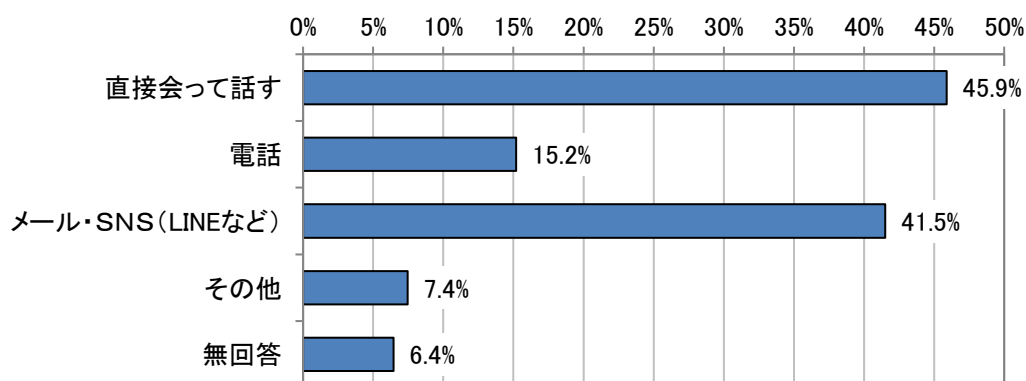
図表 2-34 相談しやすい方法（小学校 n=713）



### (2) 中学校

相談しやすい方法は、小学校同様、「直接会って話す（46%）」が5割程度と高いが、「メール・SNS（LINEなど）（42%）」も4割以上と高い。

図表 2-35 相談しやすい方法（中学校 n=1,303）





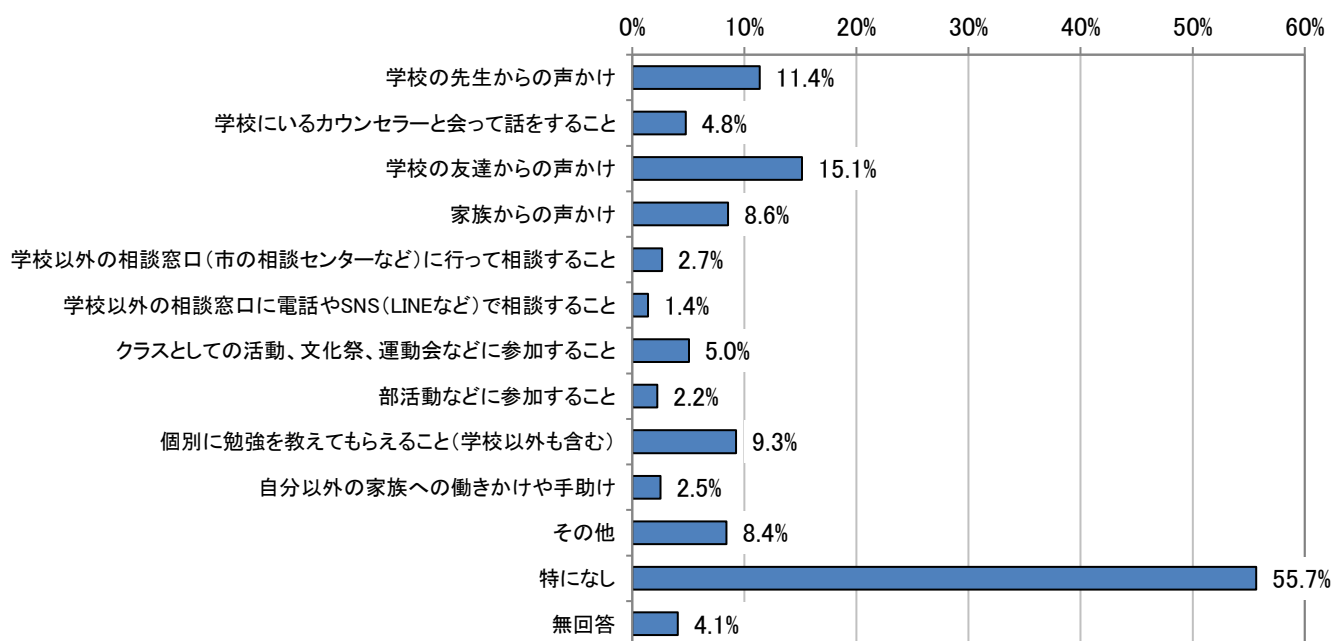
## 2-2-13 休まなかったと思う対応

【問15】 あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間（休みがちになるまでの間）で、どのようなことがあれば休まなかったと思いますか。実際にあったかどうかにかかわらず選択してください。（複数回答）

### (1) 小学校

どのようなことがあれば休まなかったかについては、約5割が「特になし（56%）」と回答している。他に比べて「学校の友達からの声かけ（15%）」がやや高いが回答は分散している。

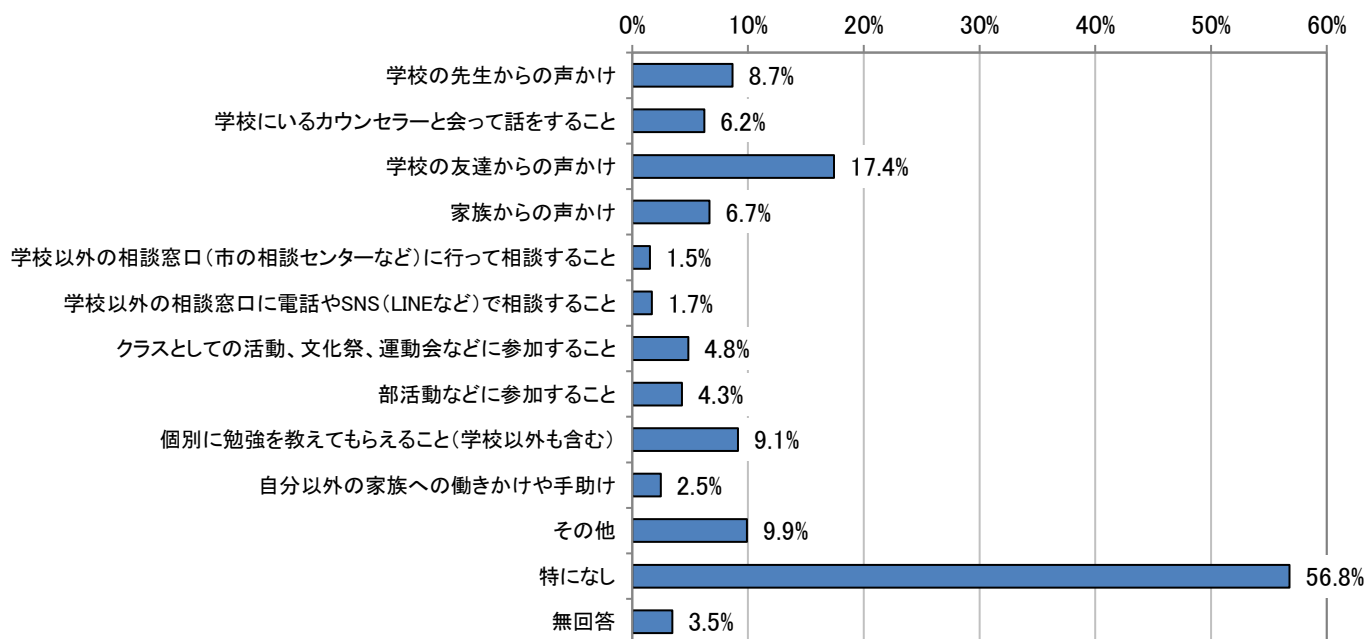
図表 2-36 休まなかったと思う対応（小学校 n=713）



## (2)中学校

小学校同様、「特になし（57%）」が5割を上回る。「学校の友達からの声かけ（17%）」が他に比べて高い。

図表 2-37 休まなかったと思う対応（中学校 n=1,303）



## 2-3 学校を休んでいる間

### 2-3-1 学校を休んでいる間の気持ち

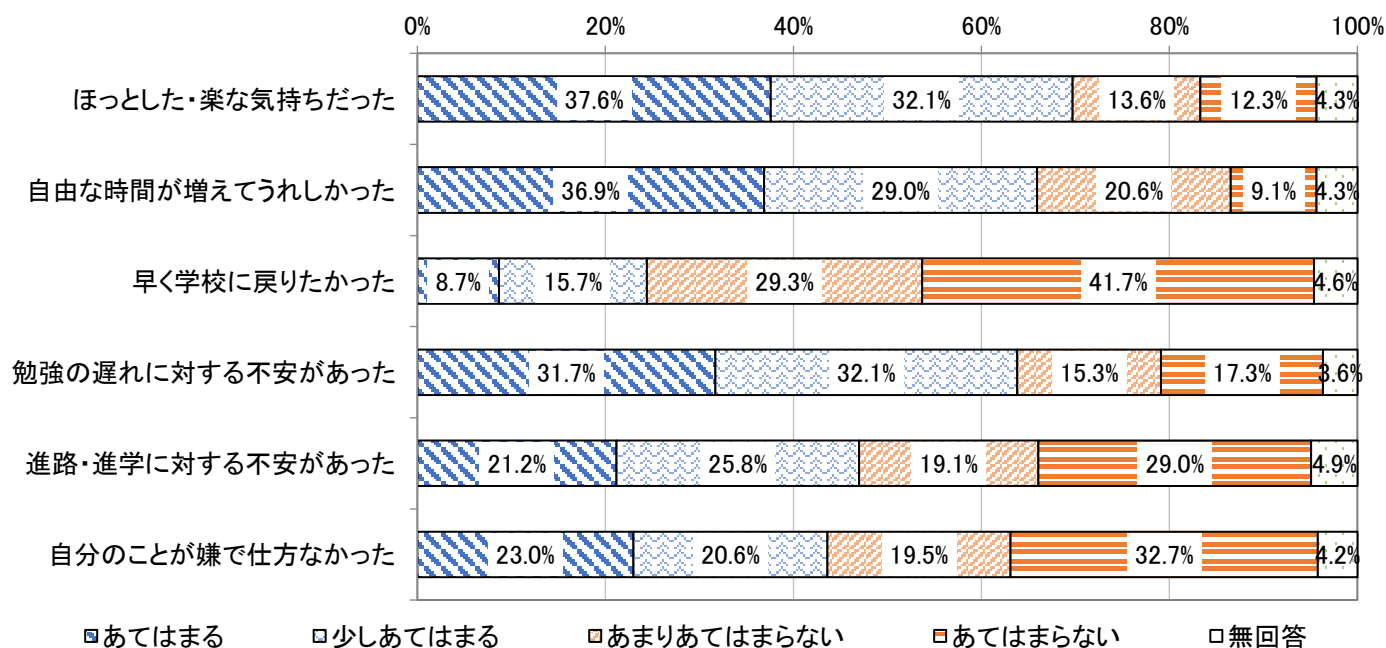
【問16】 昨年、学校を休んでいる間のあなたの気持ちとして、当てはまるものをそれぞれ選んでください。(単一回答)

#### 【学校を休んでいることの安心や不安について】

##### (1) 小学校

学校を休んでいることの安心や不安について、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合をみると、「ほっとした・楽な気持ち (70%)」、「自由な時間が増えてうれしかった (66%)」、「勉強の遅れに対する不安があった (64%)」の割合が高い。

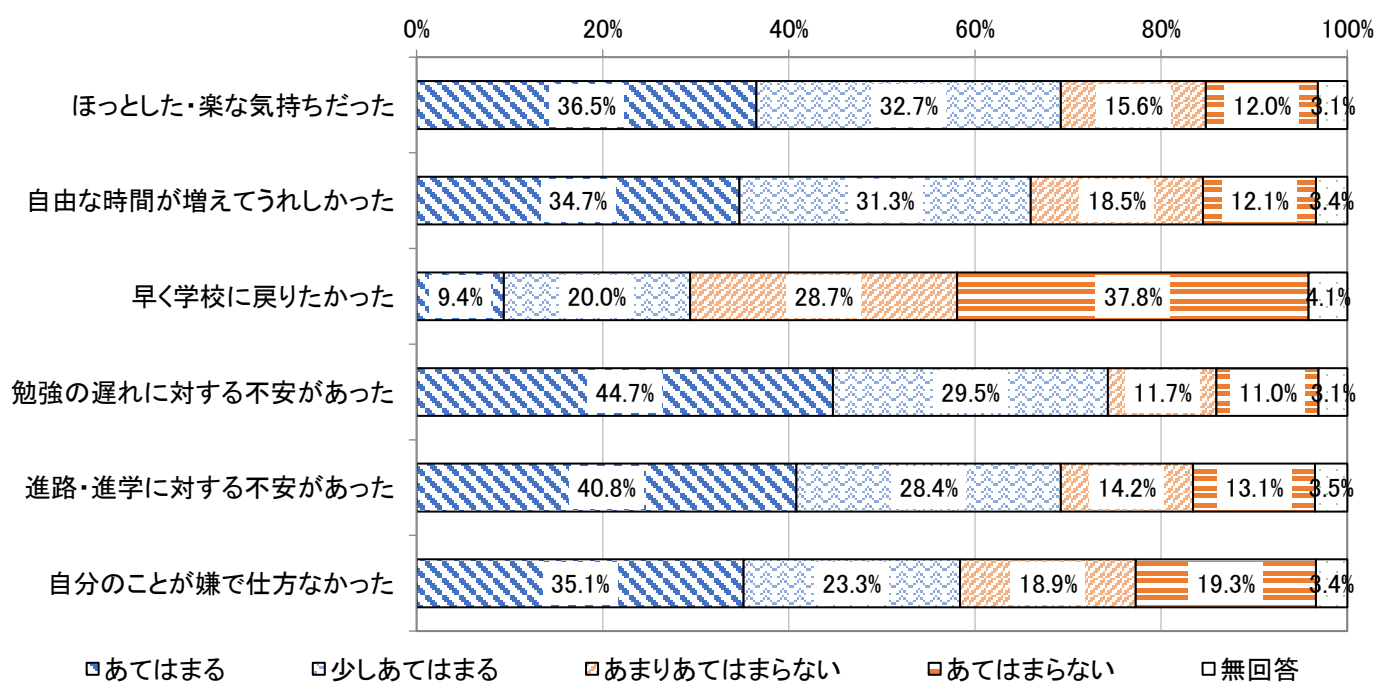
図表 2-38 学校を休んでいることの安心や不安について (小学校 n=713)



## (2)中学校

学校を休んでいることの安心や不安について、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合をみると、「勉強の遅れに対する不安があった（74%）」、「ほっとした・楽な気持ちだった（69%）」、「進路・進学に対する不安があった（69%）」が約7割で高い。

図表 2-39 学校を休んでいることの安心や不安について（中学校 n=1,303）

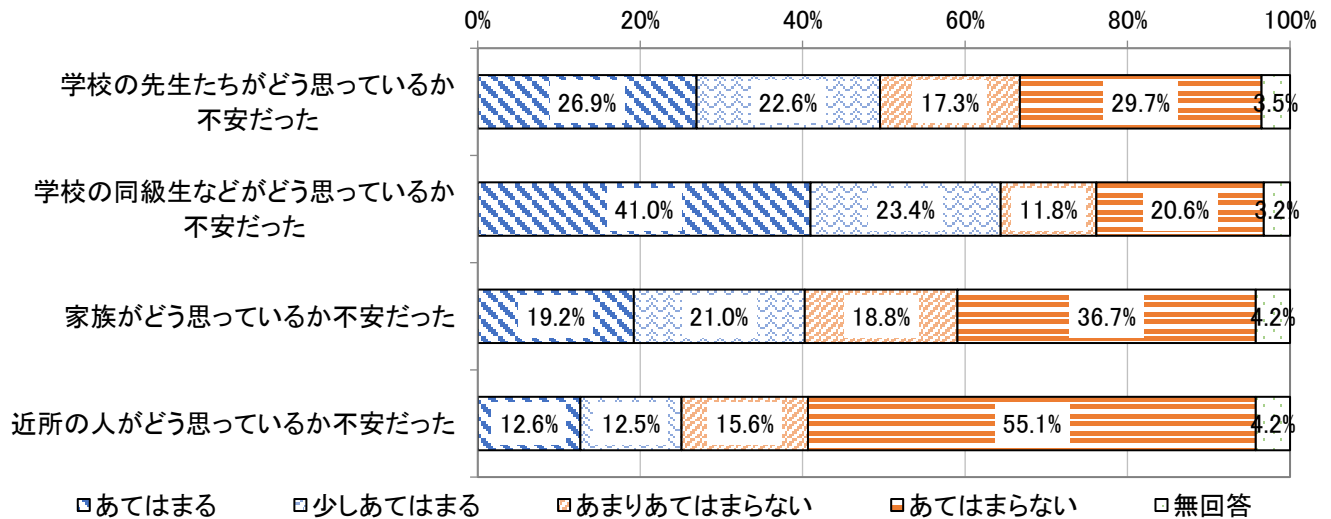


【自分がどう思われているかについて】

(1) 小学校

自分がどう思われているかについては、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合をみると、「学校の同級生などがどう思っているかが不安だった(64%)」の割合が高い。

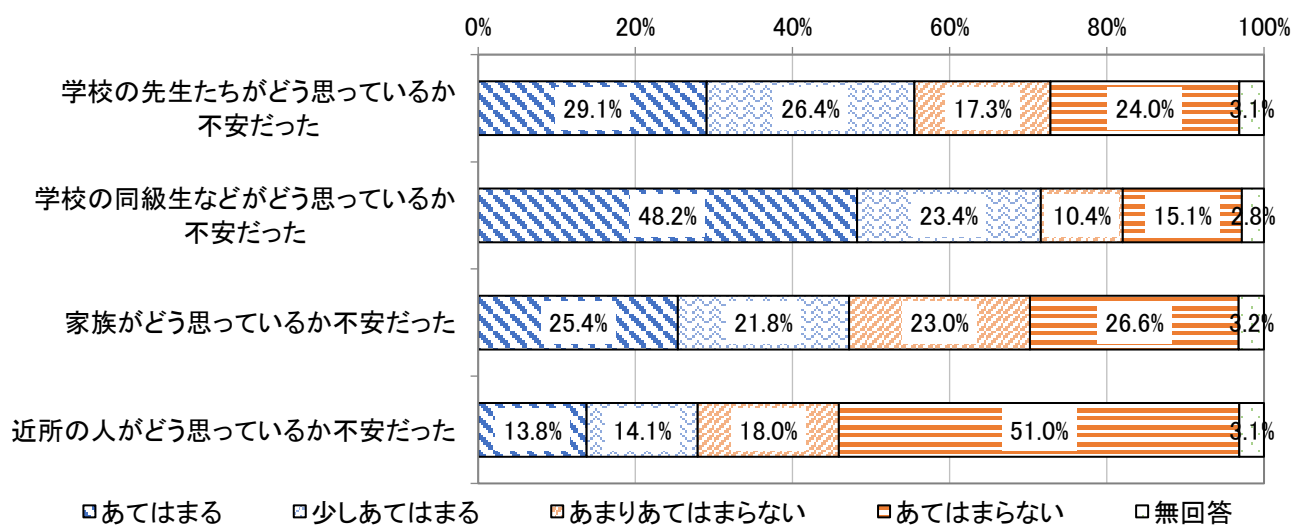
図表 2-40 自分がどう思われているかについて (小学校 n=713)



(2) 中学校

自分がどう思われているかについては、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合をみると、「学校の同級生などがどう思っているかが不安だった(72%)」の割合が7割を超えて高い。

図表 2-41 自分がどう思われているかについて (中学校 n=1,303)



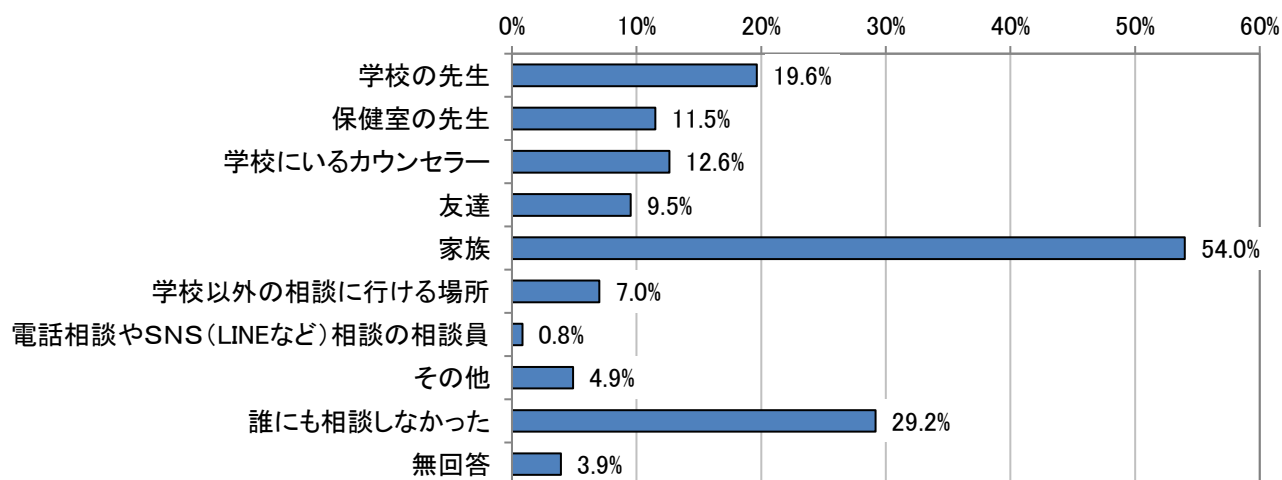
## 2-3-2 学校を休んでいる間に相談した相手

【問17】 昨年、学校を休んでいる間、休むきっかけとなった悩みや休んでいることの不安などについて、誰に相談しましたか。(複数回答)

### (1) 小学校

相談した相手は「家族 (54%)」が約5割と最も高い。次いで、「誰にも相談しなかった (29%)」が約3割。「学校の先生 (20%)」は2割程度。

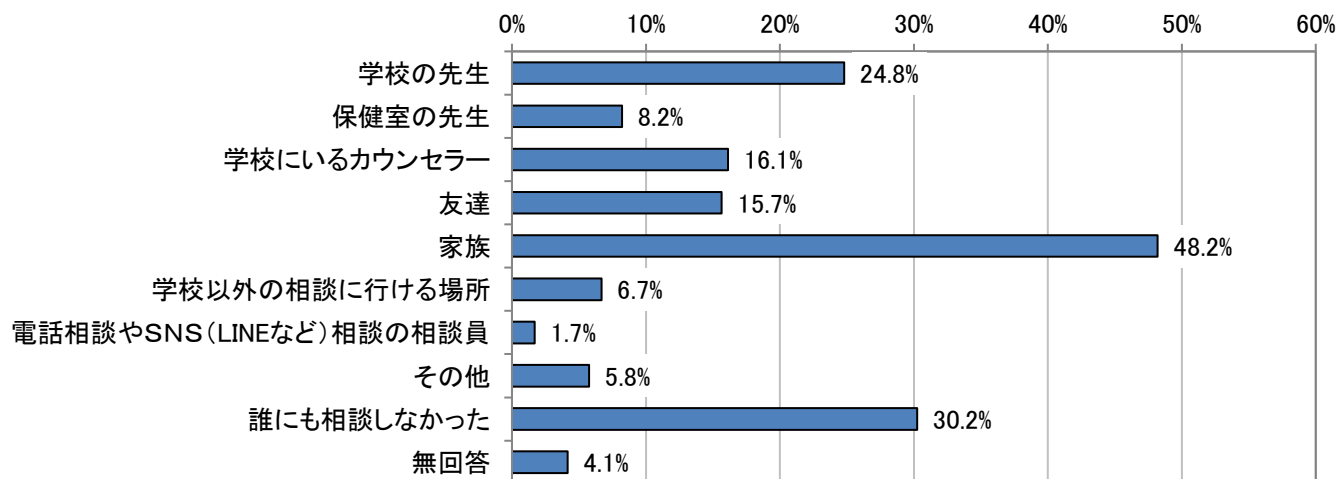
図表 2-42 学校を休んでいる間に相談した相手 (小学校 n=713)



### (2) 中学校

小学校同様、相談した相手は「家族 (48%)」、「誰にも相談しなかった (30%)」、「学校の先生 (25%)」の順で高い。

図表 2-43 学校を休んでいる間に相談した相手 (中学校 n=1,303)



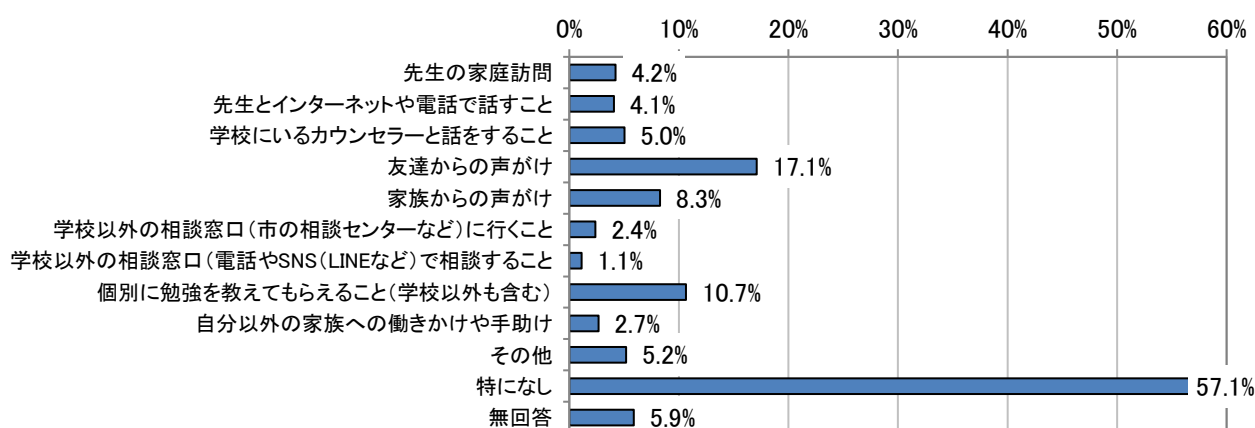
### 2-3-3 学校に戻りやすいと思う対応

【問18】① 昨年、学校を休んでいる間、どのようなことがあれば学校に戻りやすいと思いますか。実際にあったかどうかにかかわらず選択してください。(複数回答)

#### (1)小学校

学校に戻りやすいと思う対応は、約6割が「特になし(57%)」と回答している。「友達からの声かけ(17%)」が比較的高い。

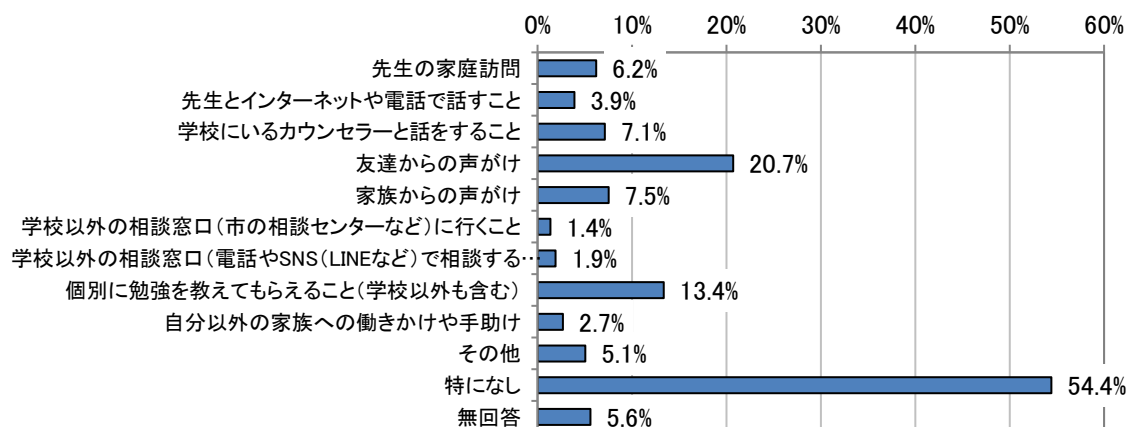
図表 2-44 学校に戻りやすいと思う対応 (小学校 n=713)



#### (2)中学校

学校に戻りやすいと思う対応は、小学校同様、「特になし(54%)」が約5割と高い。「友達からの声かけ(20%)」、「個別に勉強を教えてもらえること(学校以外も含む)(13%)」が他に比べてやや高い。

図表 2-45 学校に戻りやすいと思う対応 (中学校 n=1,303)



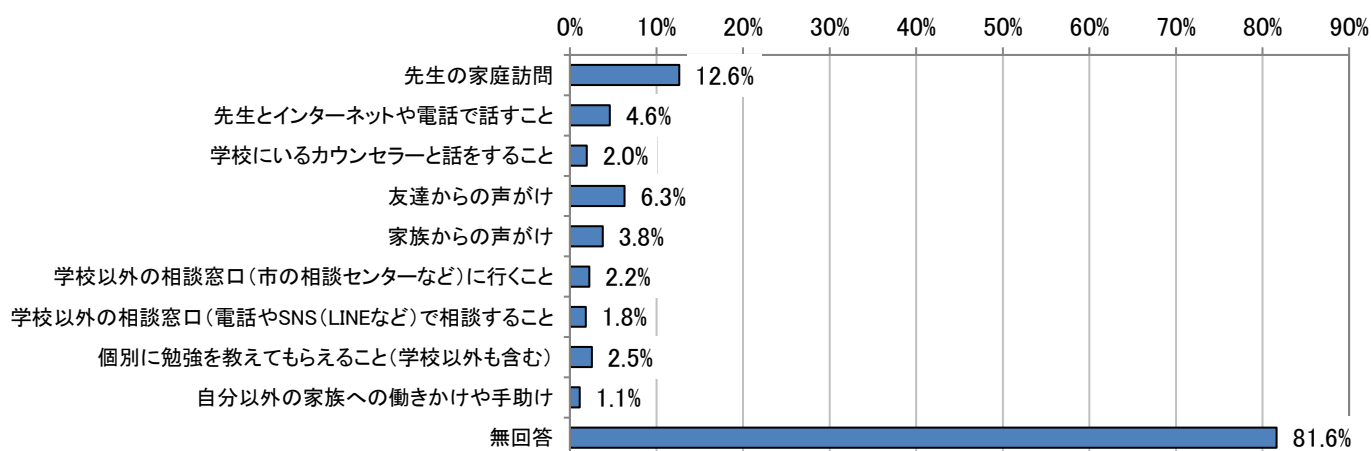
## 2-3-4 いやだった対応

【問18】② 問18①の選択肢のうち、いやだったことがある場合は、その番号とその理由を選択してください。(複数回答)

### (1)小学校

いやだった対応は、1割が「先生の家庭訪問(13%)」と回答している。

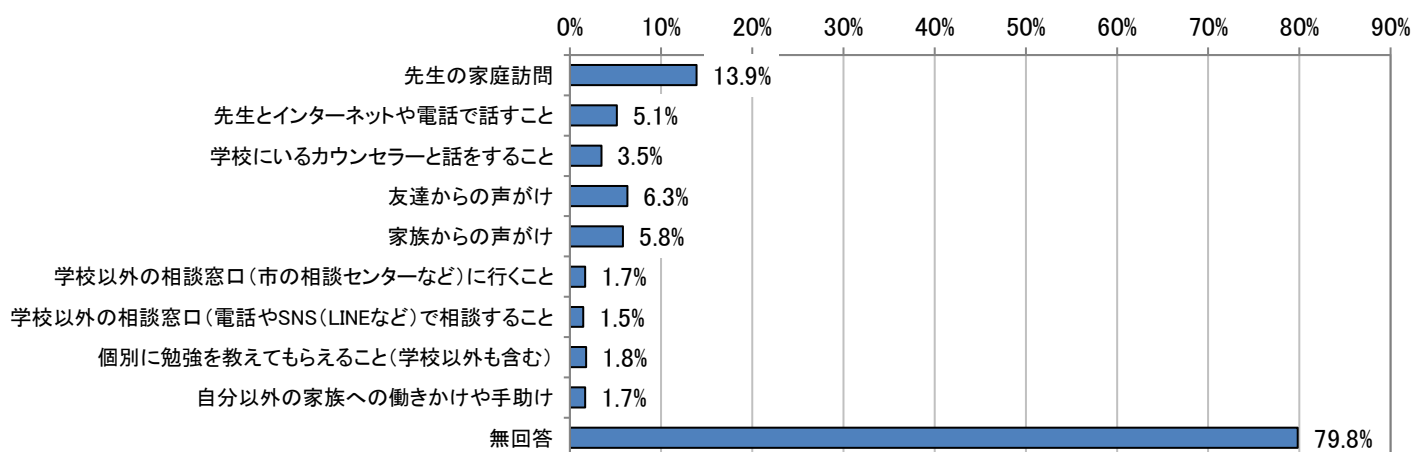
図表 2-46 いやだった対応 (小学校 n=713)



### (2)中学校

いやだった対応は、小学校同様、「先生の家庭訪問(14%)」の割合が他に比べて高い。

図表 2-47 いやだった対応 (中学校 n=1,303)





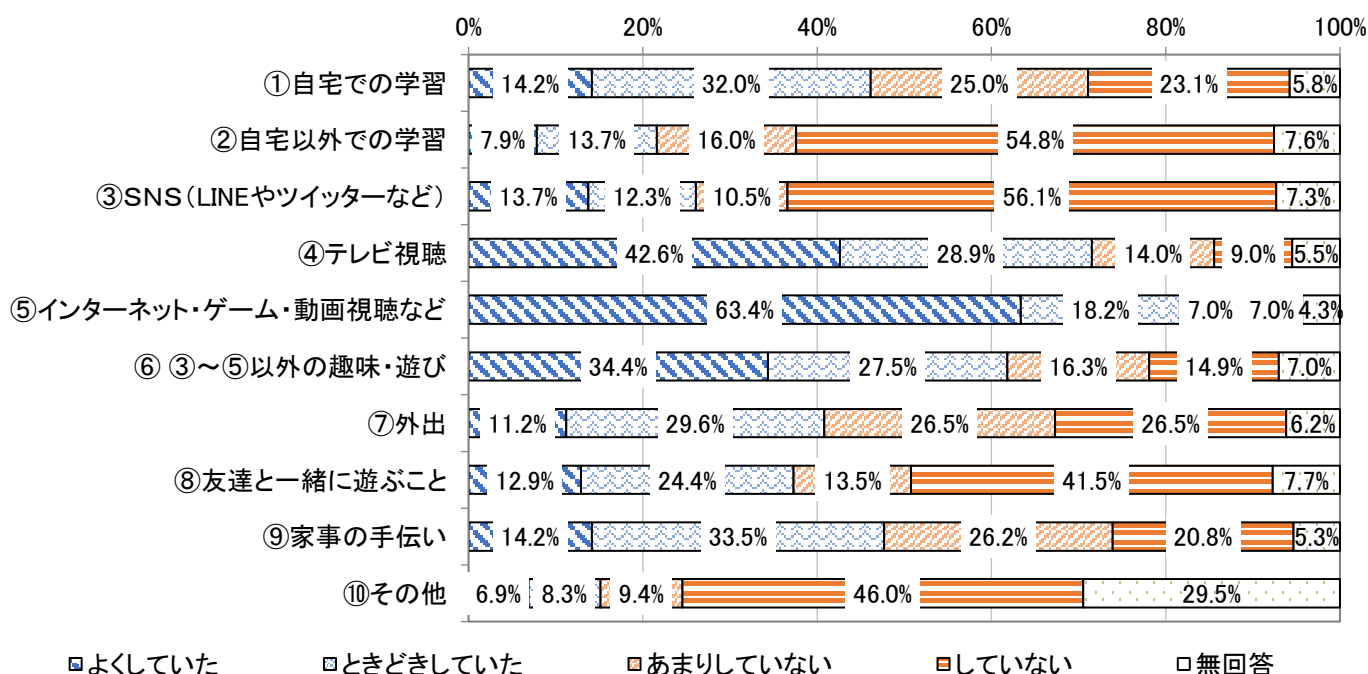
### 2-3-5 学校を休んでいる間の過ごし方

【問19】① 昨年、学校を休んでいる間、どのようにして過ごしていましたか。(単一回答)

#### (1) 小学校

学校を休んでいる間の過ごし方で、「していた(「よくしていた」+「ときどきしていた」)」の割合は、「インターネット・ゲーム・動画視聴など(82%)」、「テレビ視聴(72%)」が高い。

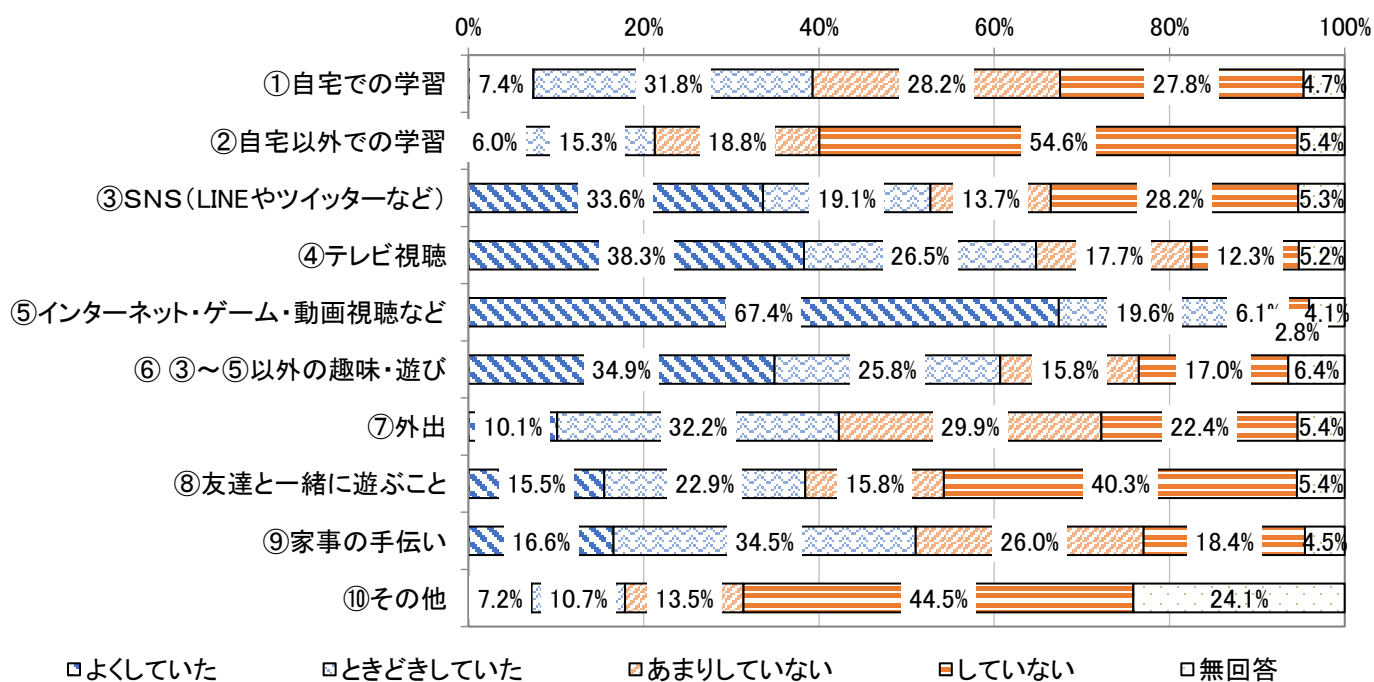
図表 2-48 学校を休んでいる間の過ごし方 (小学校 n=713)



## (2) 中学校

小学校同様、「していた」の割合は、「インターネット・ゲーム・動画視聴など（87%）」、「テレビ視聴（65%）」が高い。「SNS（LINE やツイッターなど）（53%）」「家事の手伝い（51%）」も「していた」が5割を超えている。

図表 2-49 学校を休んでいる間の過ごし方（中学校 n=1,303）



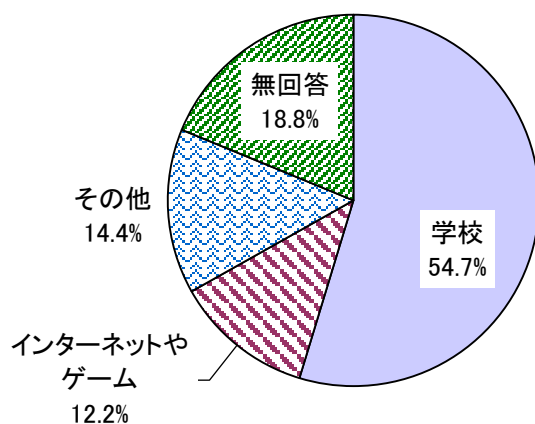
## 2-3-6 一番よく遊んだ友達と知り合った場所

【問19】② 問19①で⑧友達と遊ぶことに「よくしていた」「ときどきしていた」「あまりしていない」と答えた場合、どこで知り合った友達と一番よく遊びますか。(単一回答)

### (1)小学校

一番よく遊んだ友達と知り合った場所は、「学校 (55%)」が5割を超えている。

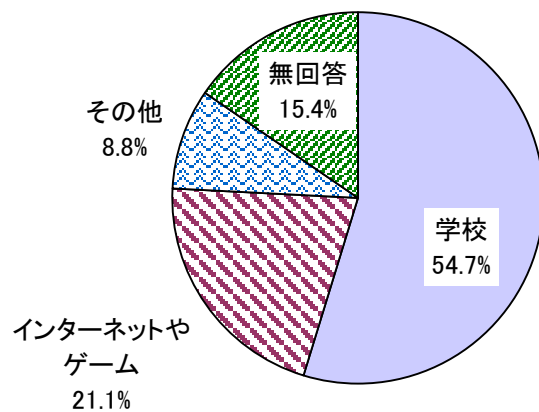
図表 2-50 一番よく遊んだ友達と知り合った場所 (小学校 n=362)



### (2)中学校

小学校同様、「学校 (55%)」が5割を超えている。「インターネットやゲーム (21%)」は2割程度。

図表 2-51 一番よく遊んだ友達と知り合った場所 (中学校 n=707)



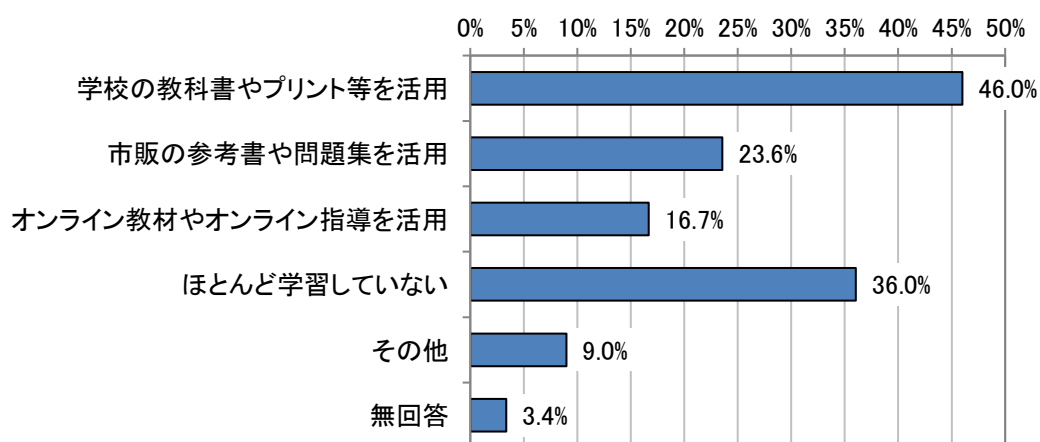
## 2-3-7 自宅での学習方法

【問20】 昨年、学校を休むようになってから、自宅での学習の方法についてあてはまるのはどれでしたか。(複数回答)

### (1) 小学校

「ほとんど学習していない(36%)」を除くと、約6割程度が自宅で学習をしている。

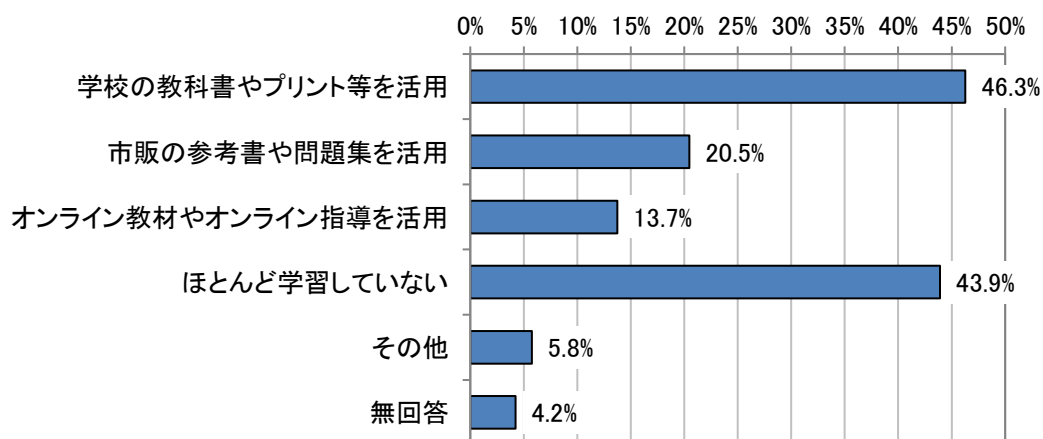
図表 2-52 自宅での学習方法 (小学校 n=713)



### (2) 中学校

「ほとんど学習していない(44%)」を除き、約5割程度が自宅で学習をしている。

図表 2-53 自宅での学習方法 (中学校 n=1,303)



## 2-4 今のこと

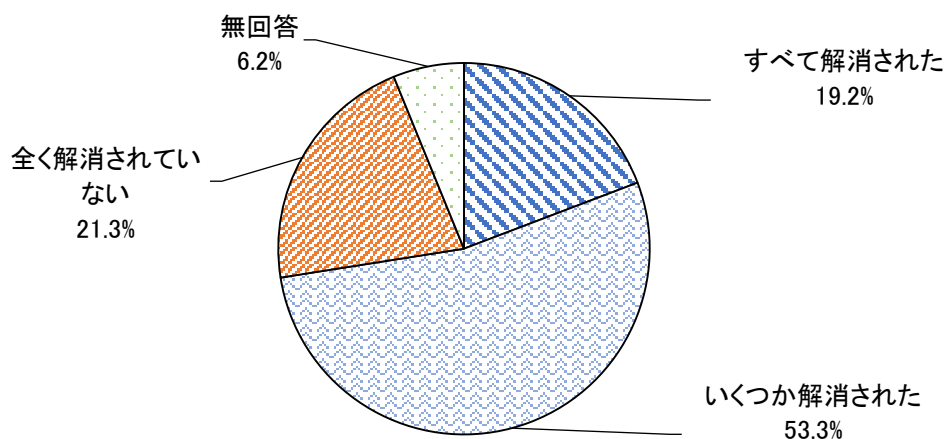
### 2-4-1 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合

【問21】 一番最初に学校に行きづらいつ、休みたいと感じ始めたときのきっかけは、今は解消されていますか。(単一回答)

#### (1) 小学校

学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけが、「すべて解消された(19%)」のは約2割程度である。

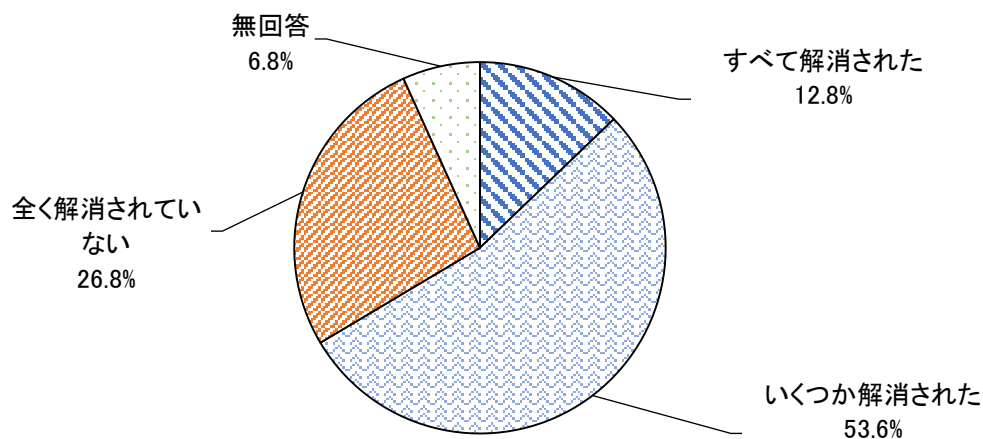
図表 2-54 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合  
(小学校 n=713)



#### (2) 中学校

学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけが、「すべて解消された(13%)」は約1割程度と低い割合である。

図表 2-55 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合  
(中学校 n=1,303)



## 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想

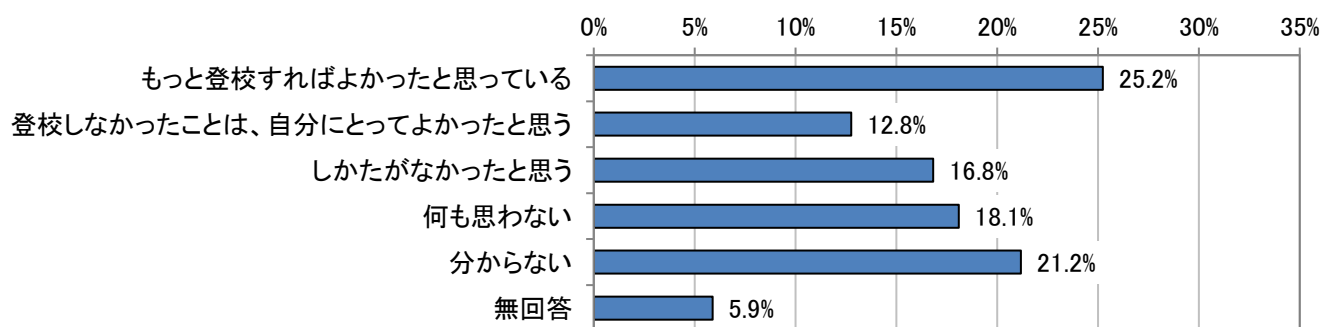
【問22】 小学校5年生（中学校1年生）のときに学校を多く休んだことについて、今どう思いますか。

（単一回答）

### (1)小学校

学校を多く休んだことに対する感想は、「もっと登校すればよかったと思っている(25%)」が最も高いが、それ以外のいずれも1～2割と感想は様々である。

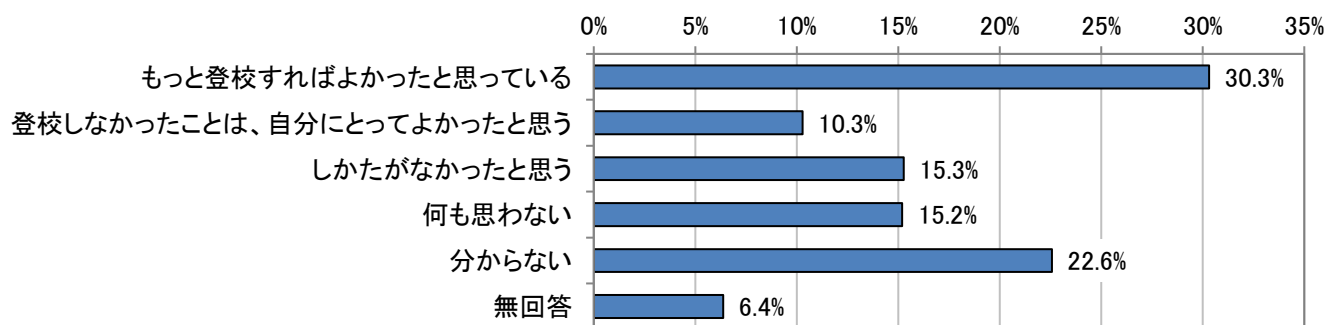
図表 2-56 学校を多く休んだことに対する感想（小学校 n=713）



### (2)中学校

学校を多く休んだことに対する感想は、「もっと登校すればよかったと思っている(30%)」が3割と最も高い。

図表 2-57 学校を多く休んだことに対する感想（中学校 n=1,303）



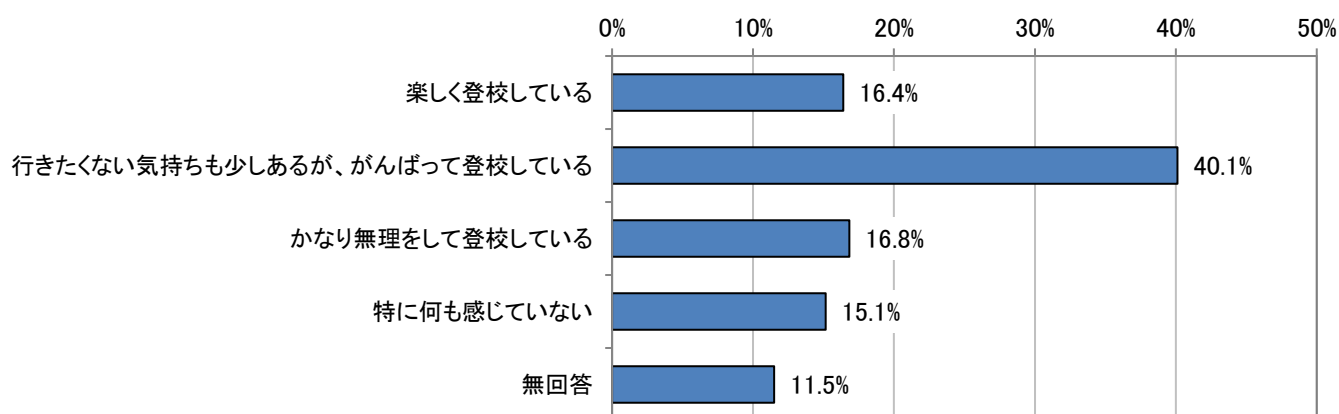
### 2-4-3 登校するときの今の気持ち

【問23】 登校するときの今の気持ちとして最もあてはまるものはどれですか。(単一回答)

#### (1) 小学校

登校するときの今の気持ちは、「行きたくない気持ちも少しあるが、がんばって登校している(40%)」が4割と高い。

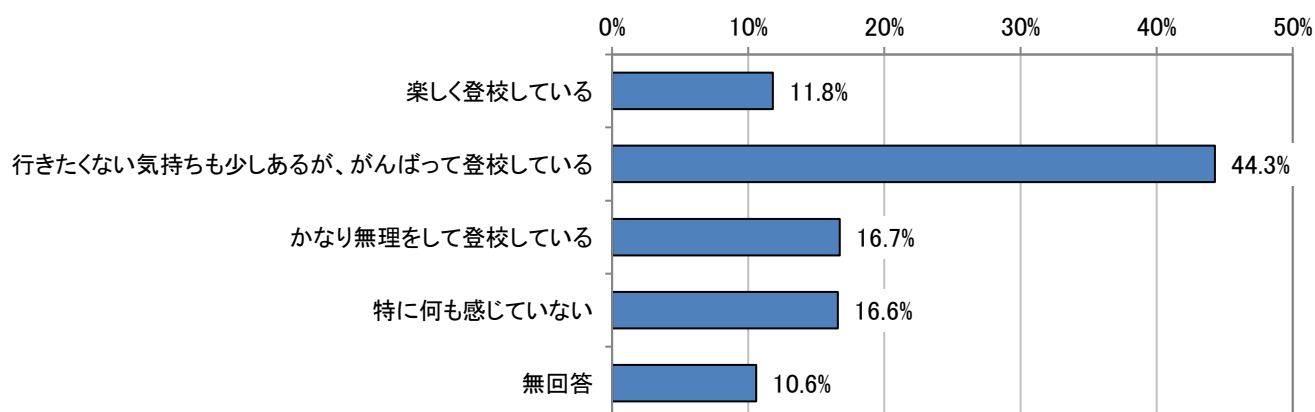
図表 2-58 登校するときの今の気持ち (小学校 n=713)



#### (2) 中学校

小学校同様、「行きたくない気持ちも少しあるが、がんばって登校している(44%)」が4割を超えて高い。

図表 2-59 登校するときの今の気持ち (中学校 n=1,303)



## 2-5 最後に

### 2-5-1 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由の有無

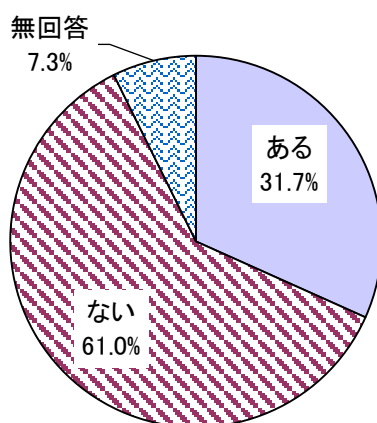
【問24】① 学校を休んでいる間に、最初のきっかけ（問6）とは別の理由で、学校に行きづらくなるようなことはありましたか。（単一回答）

#### (1)小学校

最初のきっかけとは別の理由について、3割が「ある（32%）」と回答している

図表 2-60 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由の有無

(小学校 n=713)

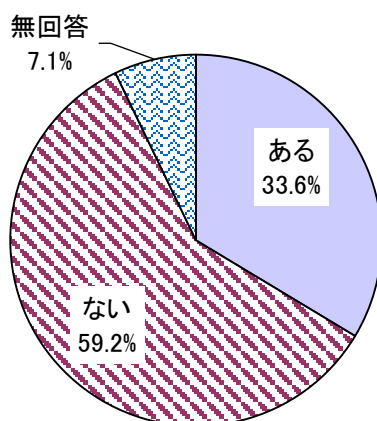


#### (2)中学校

小学校同様、「ある（34%）」と3割が回答している

図表 2-61 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由の有無

(中学校 n=1,303)





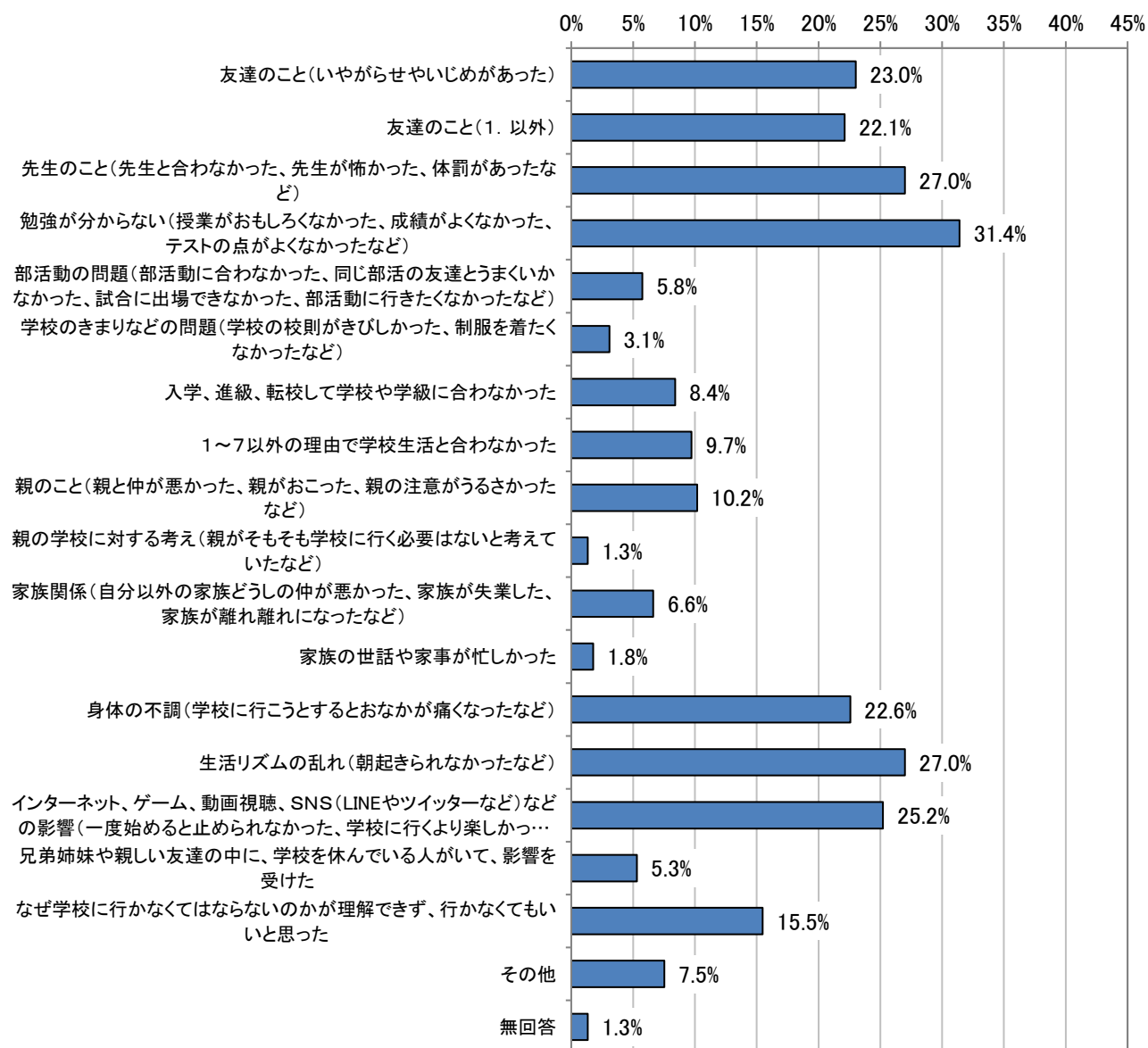
## 2-5-2 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由

【問24】② 問24①で「ある」と答えた場合、その理由を選んでください。(複数回答)

### (1) 小学校

最初のきっかけとは別の理由としては、「勉強が分からない(授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど) (31%)」、「先生のこと(先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど) (27%)」「生活リズムの乱れ(朝起きられなかったなど) (27%)」などが上位にあがっているが、他の理由も比較的高く、多様である。

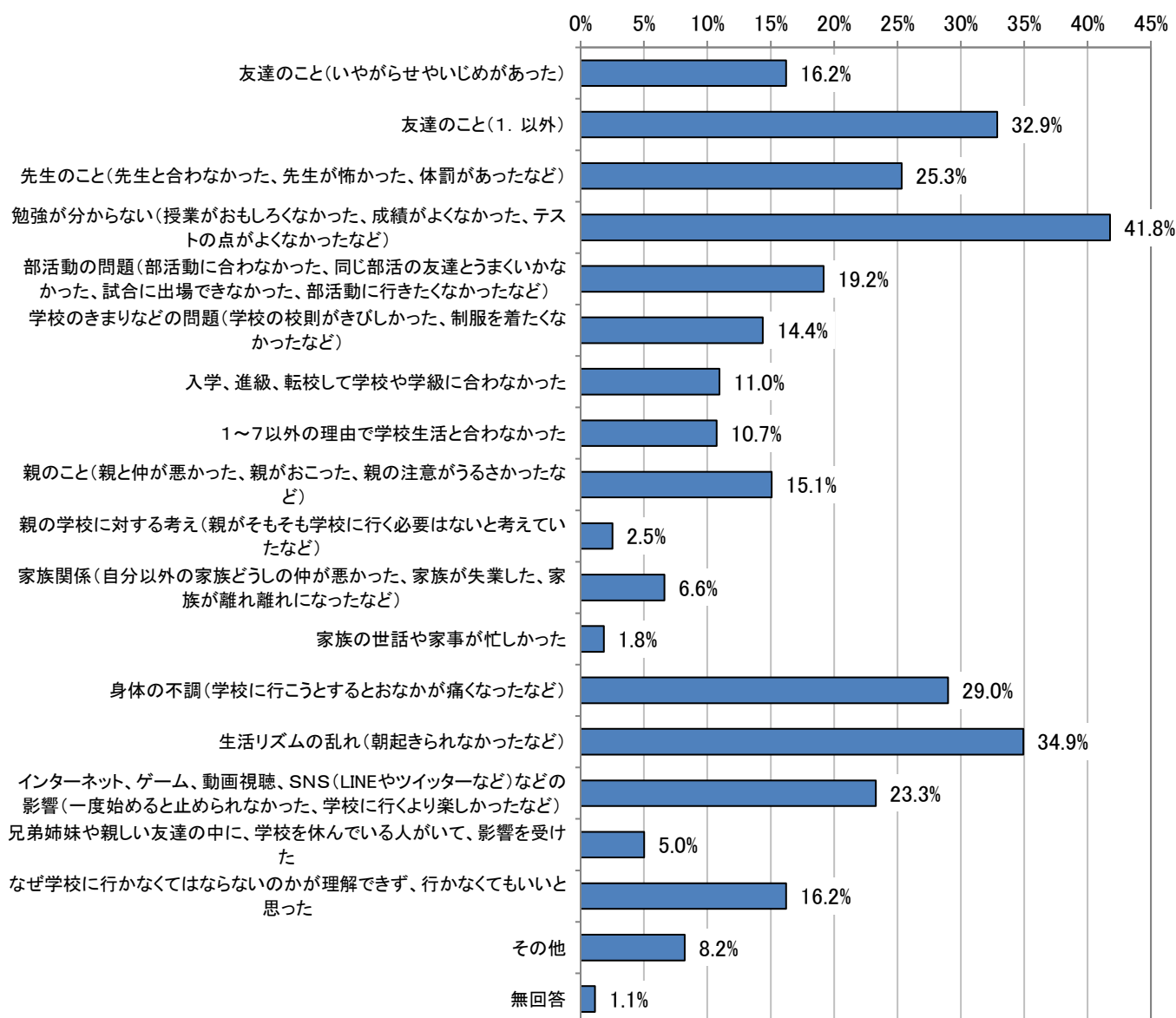
図表 2-62 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由 (小学校 n=226)



## (2) 中学校

最初のきっかけとは別の理由としては、「勉強が分からない(授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど) (42%)」、「生活リズムの乱れ(朝起きられなかったなど) (35%)」、「友達のこと(1. 以外) (33%)」などが上位にあがっている。

図表 2-63 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由 (中学校 n=438)



### 2-5-3 どんな学校であれば、休まず通えたか

【問25】どんな学校であれば、学校を休まずに通うことができましたか。(自由記述)

自由記述について、小学校では、436件の回答があった(このうち、特になし、わからない、などを除くと334件)。中学校では、651件の回答があった(このうち、特になし、わからない、などを除くと524件)。

以下に、主な回答を紹介する(原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。)

#### (1)小学校

- ・無理しないでいいよとか、「〇〇をしなさい」など言わず、プレッシャーをかけられない。一人の行動が苦手なため、先生(担任以外)などと二人三人で行動ができればよかった。
- ・先生が生徒の体調の変化を分かってくれる。授業が分かりやすい学校。
- ・発達障害の理解のある環境。たとえば、怒鳴らない、怒らない、無理やりやらせないなど。
- ・高学年になると、「高学年だから出来てあたり前」「学校の代表としてはずかしくない行動を」など、プレッシャーをかけられすぎる。「がんばろう」の圧をかけないでもらえれば、少し気が楽になって、学校が好きになる。
- ・みんなが楽しく、変な校則がない。学力別でクラスを分けたり、みんなが行きたいクラスにそれぞれ行ったり、勉強はしっかりやるが、なるべく自由な学校。
- ・差別やいじめがない、個性を認めてくれる学校
- ・いじめがなく、困ったり悩みがあったりしたとき、すぐ相談に乗ってくれる先生たち。
- ・何でも強要しない。行きたくない時は、オンライン授業でも良い学校。
- ・静かで、勉強の進みがゆっくりな学校。
- ・学校という存在がいやだったから、無理だと思う。人間関係ではないので、どうしようもないと思う。
- ・どんな学校でも人が沢山居るかぎり行けない。

## (2)中学校

- ・中学校に入って、今まで小学校までは割と自由に過ごしていたのが、急に「テスト勉強しましょう」、「評定も取りましょう」、「ちゃんとした大人になりましょう」と、いろいろなことが求められて、つらくなった人、学校に行けなくなった人はいると思う。こうした人たちをしっかりとケアしてほしい。
- ・先生たちが優しく、理解がある。通いづらくなった子どもが通える自由な部屋があると良い。
- ・制服ではなく私服でも登校していい学校。少人数でも授業を受けられる学校。
- ・規則だらけで自由が一切ない学校ではなく、定められたルールの中で自由にできる学校。
- ・先生と生徒の距離が近く、先生と生徒、学年の先輩、後輩で上下関係なく平等に意見が言える学校。
- ・学校に行けてない人の気持ちを理解してくれる先生や生徒が多い学校。
- ・「いじめを無くす」、「全員が過ごしやすい」が目標で終わらず、自分含む学校全体が実行する。。
- ・いじめや差別が無く、みんなが楽しく授業を受けられ、授業でも分からないところを聞きやすい場であること。
- ・普通のクラスの他に少人数のクラスがある学校。
- ・静かな学校。まわりの目を気にせず過ごせる学校。クラスの人数が少ない学校。少人数で授業を受けられる学校。強迫性障害を理解してくれる学校。科目によって先生が変わらない学校。
- ・男と女の間で壁が無いこと。
- ・生活リズムの乱れもあるが、特に制服のスカートが嫌で不登校になった。少しでも女子のズボンや体操服の着用を認めてくれたら、少しは行きやすいと思う。

## 2-5-4 今の気持ち

【問26】 その他、今の気持ちなど自由に記述してください。(自由記述)

自由記述について、小学校では、369件の回答があった(このうち、特になし、わからない、などを除くと293件)。中学校では、585件の回答があった(このうち、特になし、わからない、などを除くと535件)。

以下に、主な回答を紹介する(原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。)

### (1)小学校

- ・当時は学校がきらいで行きたくなかったが、今は、クラスメートや担任の先生などが、接しやすく、楽しく学校に通えている。
- ・まだつらいことはたくさんあるが、今は、一回も休まず学校に通えている。自分を変えようと思って努力している。みんなも変わってくれ。今はとても幸せで、生きてよかったと思えている。
- ・学校はけっこう楽しい。給食の時間は弁当を食べており安心している。発表はいやだが、ときどき手をあげている。
- ・普段あまり話さない人と意外に気が合い、仲良くできている。友達の幅を狭めず、広く見ることは大切と感じた。それでも、どうしても苦手な人と話さなければいけないときがとても辛くていやだなと思う。
- ・先生が代わって行きづらい。友達が転校してしまい、五年生のときは、すごく落ちこんでいたが、今はクラス全員で交換日記をしている。
- ・先生には、もう大丈夫でしょう、学校においてと言われるが、やはり教室に入るのは、勇気がいる。
- ・担任の先生や保健の先生などが苦手な話したりするのもいや。好きな先生もいるが、できるだけ友達一人二人とだけでいたい。母や友だちといるときはすごく楽な気持ち。
- ・今は6年生になっても学校に行けていない。自分的には学校に行きたいけれど、行けていない。なぜ行かないの?と聞かれても、自分にも一番大きな理由が分からない。本当に学校に行きたいのか行きたくないのかも分からない。
- ・友達も似たような悩みを抱えても学校へ行っているのに、自分はその悩みに負けて学校に行けないことがつらい。親などに、学校行きたくないがために嘘の理由を話しているのかもしれない。こういった色々な気持ちがあり、今は1人でいたい。
- ・中学校には少し行ってみたいと思うけれど、1人の時間もほしい。1人でゆっくり絵を描いたりして、たまにクラスメートと遊んでみたい。中学校が楽しみ。
- ・今は相談できる先生が居るが、中学で安心できる先生、相談できる先生が居なくなると思うと不安。中学生になっても話せる環境がほしいと思う。
- ・2週間に1回来るスクールカウンセラーに相談したら、とても楽になった。
- ・勉強が分かるか、みんなについていけるか、自分だけ遅れていることが心配。

- ・インターネットやSNSのせいで、悩んだり困ったりしたので、ツイッターやインスタのアプリが消えてほしい。インスタやツイッターは整備をもっとちゃんとした方がいいと思う。

## (2)中学校

- ・できることなら学校のクラスに登校して、友達やクラスメートと話をしたり、楽しく勉強ができるようになって、最終的には高校へ進学できたらいいと思う。
- ・友達がよく遊んでくれたり、電話をしてくれたので、そのおかげで学校に行きたいと思いつけられた。先生も学校の様子をよく教えてくれて、私の周りにいてくれた人達に、とても感謝している。
- ・自分で選んだ登校の仕方を理解して支援してもらえることで、自分で決めた約束を守って登校できるようになってきている。
- ・図書室でいろんな物を作ったり、図書室の先生と笑い合ったりするのが、今、一番楽しい。勉強もがんばっている。
- ・教室に行く勇気が出ない。部活をやめてから、入っていた部活の友達からどう思われているか不安。別室登校をしていて、教室の人達にどう思われているか不安。
- ・高校に行けるか不安。行きたい高校もなく困っている。高校に行けなかったら親を不安にさせてしまうと思うが、他方で今の学力では私の仮の希望となっている高校に行くことは厳しいとも言われ、不安とプレッシャーに押し潰されている。
- ・人の目が怖い。先生になにか言われるのがいやだ。自分の過ごしやすい環境を用意してくれたので、前よりは学校に行きやすくなった。友達のこそこそ話が怖い。進路が心配。勉強においつけない。
- ・安心して相談できる先生がいるため、登校しやすく感じる。
- ・今は頑張って学校に行けているが、先生に対しての恐怖心はまだあり、学校が好きになっただけではない。行かなきゃいけないから行っている。勉強が全然できてなくて、周りの人と比べてしまうが、これから自分のスピードで頑張れるようにしたい。
- ・自分がうつ病だったとき、助けてくれた家族や先生、友達、病院の先生にとっても感謝している。学校に行っていた頃より成長した。
- ・無理に学校に行かないで良かった。休んでいる間に気持ちが変わってよかった。中学校になってから、先生がなるべく人と会わずに済むようにしてくれて嬉しかった。今の環境は満足している。

## 2-6 その他

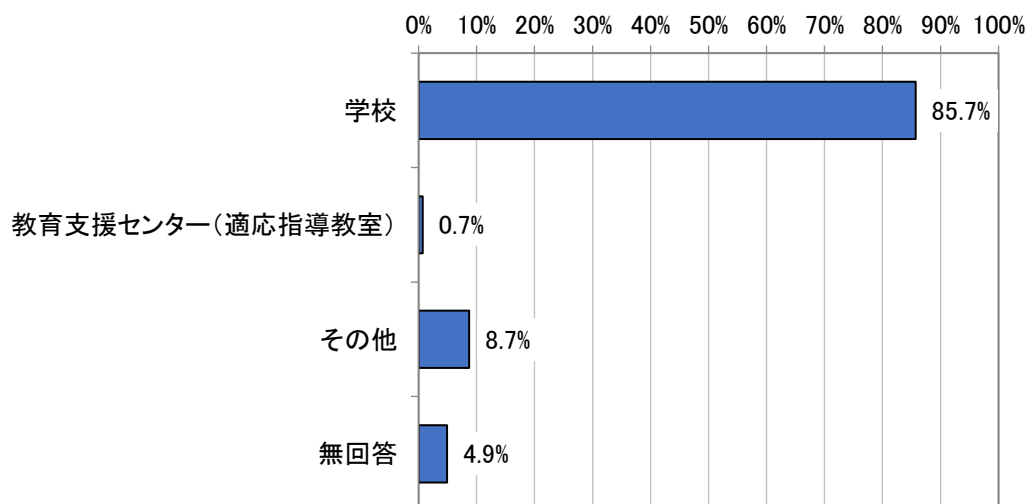
### 2-6-1 アンケートを受け取ったところ

○ このアンケートは、どこで受け取りましたか。(単一回答)

#### (1)小学校

アンケートを受け取った場所は、8割強が「学校(86%)」と回答している

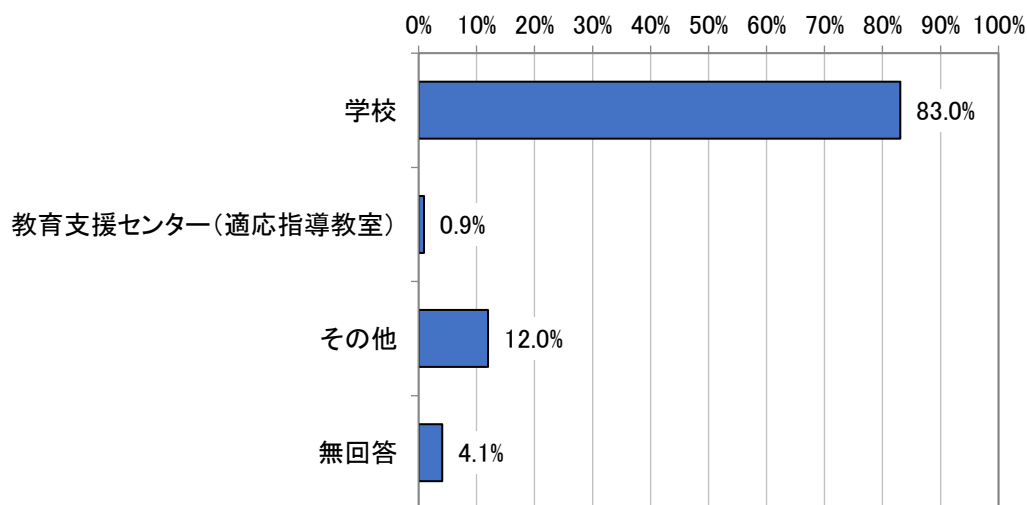
図表 2-64 アンケートを受け取ったところ (小学校 n=713)



#### (2)中学校

小学校同様、8割強が「学校(83%)」と回答している

図表 2-65 アンケートを受け取ったところ (中学校 n=1,303)



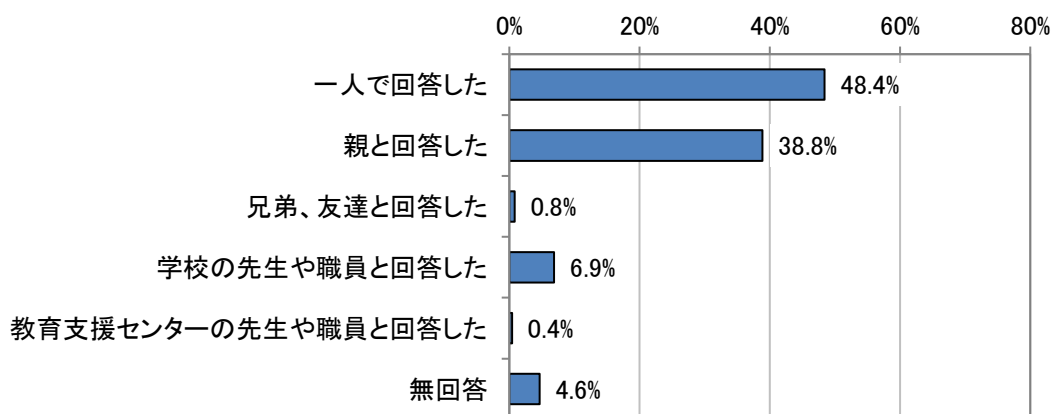
## 2-6-2 アンケートの回答状況

○ このアンケートは、どのような状況で回答しましたか。(単一回答)

### (1)小学校

約半数が、「一人で回答した(48%)」と回答している。

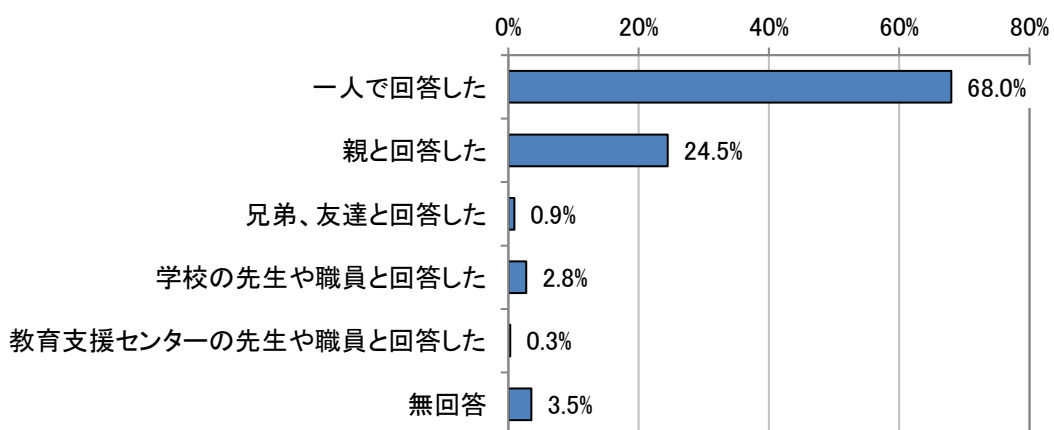
図表 2-66 アンケートの回答状況(小学校 n=713)



### (2)中学校

約7割が、「一人で回答した(68%)」と回答している。

図表 2-67 アンケートの回答状況(中学校 n=1,303)





### 第3章 不登校児童生徒の保護者に対する調査

#### 3-1 子どもの状況

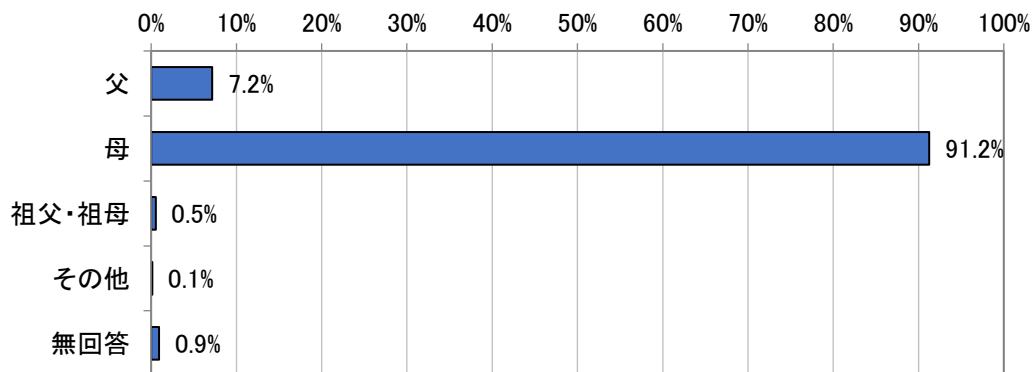
##### 3-1-1 子どもとの続柄

【問1】 お子さんとの続柄についてお答えください。(単一回答)

#### (1)小学校

回答者の続柄は「母(91%)」が9割である。

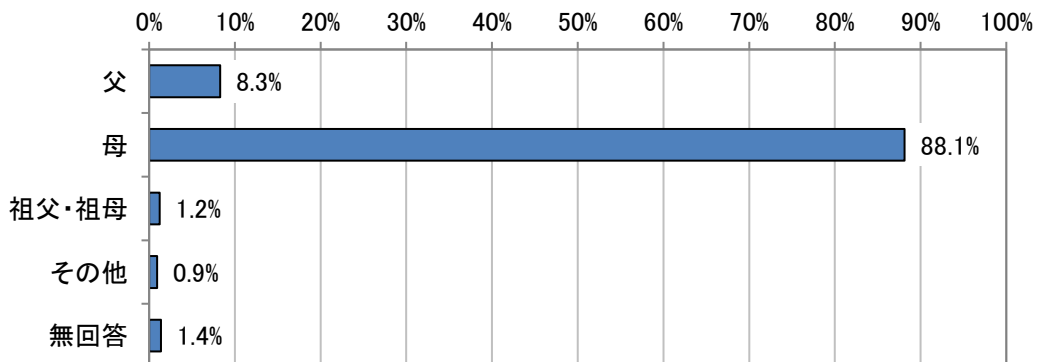
図表 3-1 子どもとの続柄 (小学校 n=754)



#### (2)中学校

回答者の続柄は、小学校同様、「母(88%)」が約9割である。

図表 3-2 子どもとの続柄 (中学校 n=1,374)



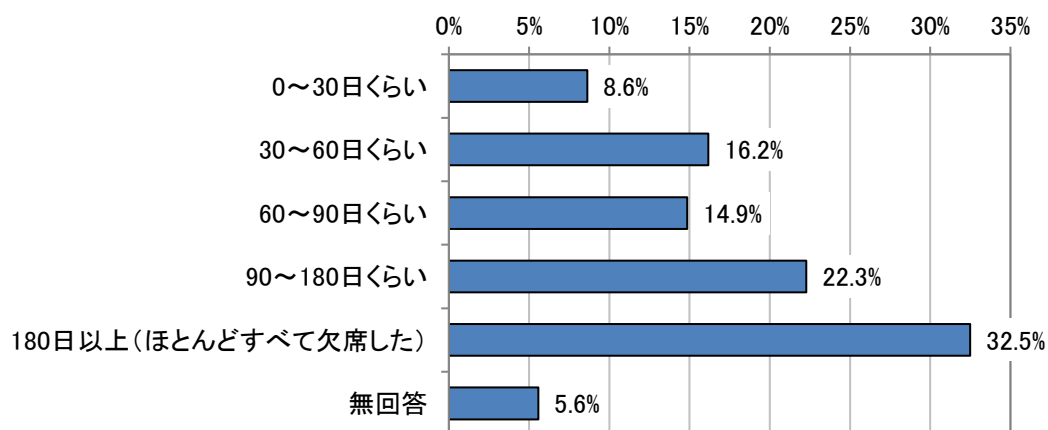
### 3-1-2 子どもの欠席日数

【問2】① お子さんの昨年度（令和元年度）1年間で学校を欠席した日数、及び休みがちになった時期についてお答えください。（単一回答）

#### (1) 小学校

欠席日数は、3割が「180日以上（ほとんどすべて欠席した）（33%）」と回答している。

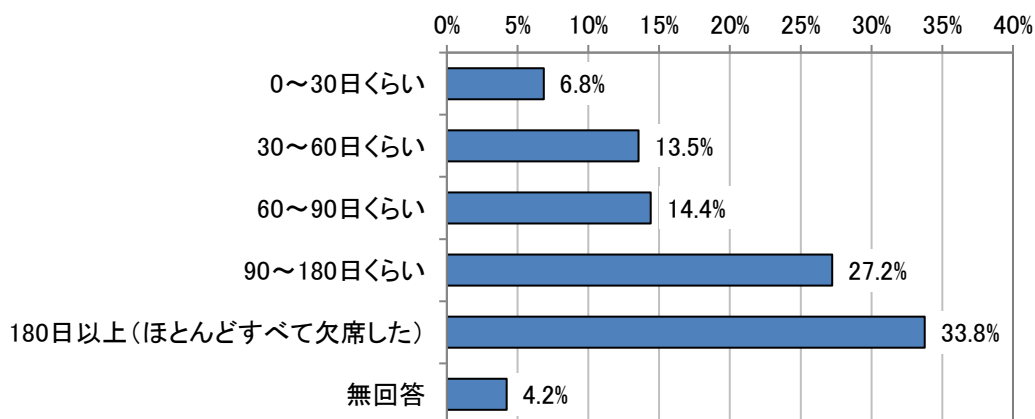
図表 3-3 子どもの欠席日数（小学校 n=754）



#### (2) 中学校

小学校同様、「180日以上（ほとんどすべて欠席した）（34%）」が約3割である。

図表 3-4 子どもの欠席日数（中学校 n=1,374）



### 3-1-3 子どもの欠席時期

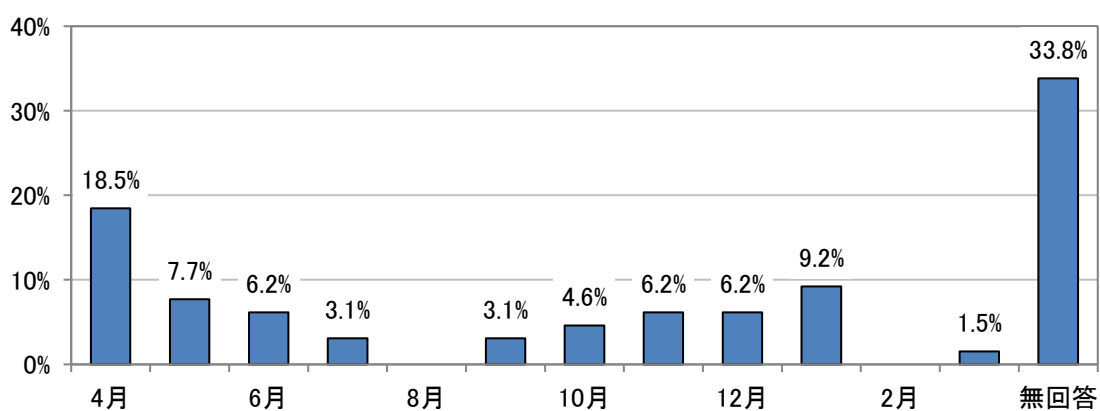
【問2】② お子さんの昨年度（令和元年度）1年間で学校を欠席した日数、及び休みがちになった時期についてお答えください。（単一回答）

【0～30日くらい】

#### (1) 小学校

欠席時期は、「4月（19%）」が最も高い割合である。

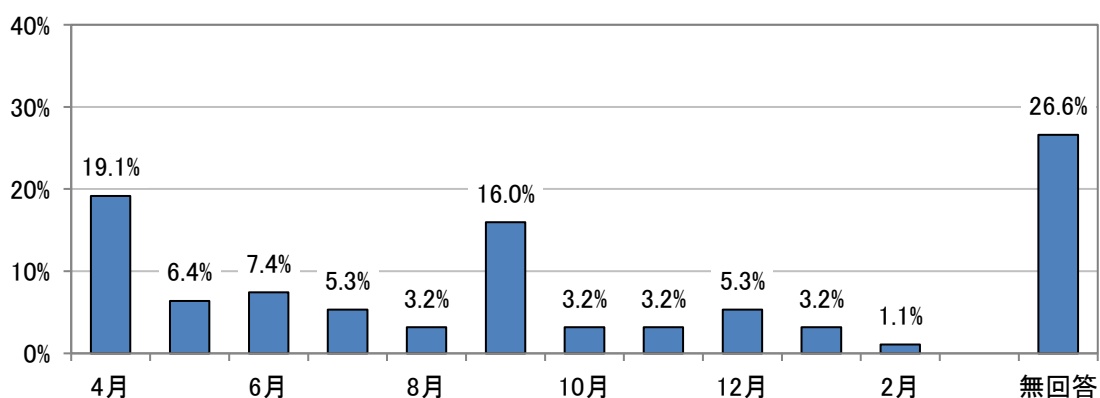
図表 3-5 子どもの欠席時期（小学校 n=65）



#### (2) 中学校

欠席時期は、「4月（19%）」、「9月（16%）」が高い。

図表 3-6 子どもの欠席時期（中学校 n=94）

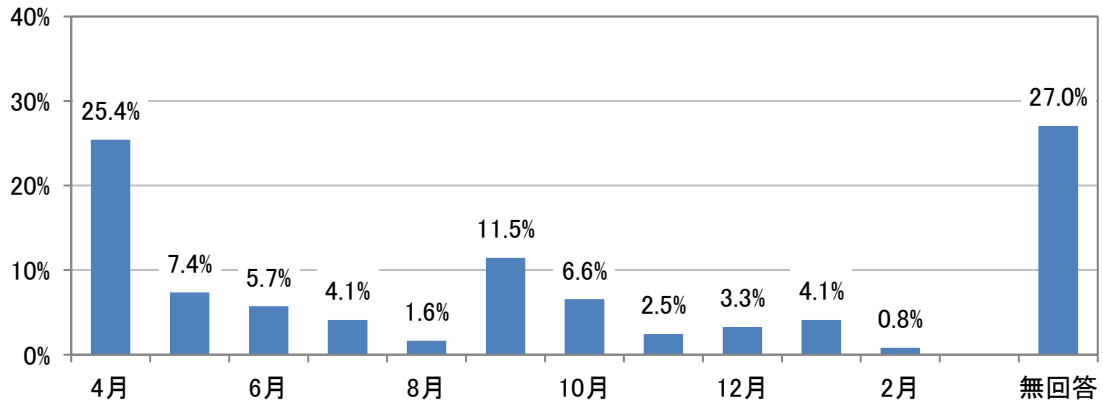


【30～60日くらい】

(3) 小学校

欠席時期は、「4月（25%）」が最も高い。

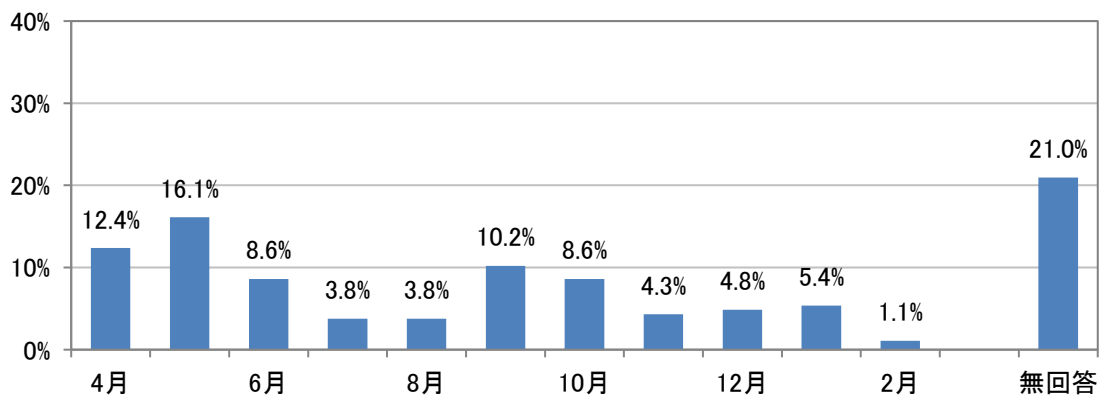
図表 3-7 子どもの欠席時期（小学校 n=122）



(4) 中学校

欠席時期は、「5月（16%）」が比較的高いが、様々な時期となっている。

図表 3-8 子どもの欠席時期（中学校 n=186）

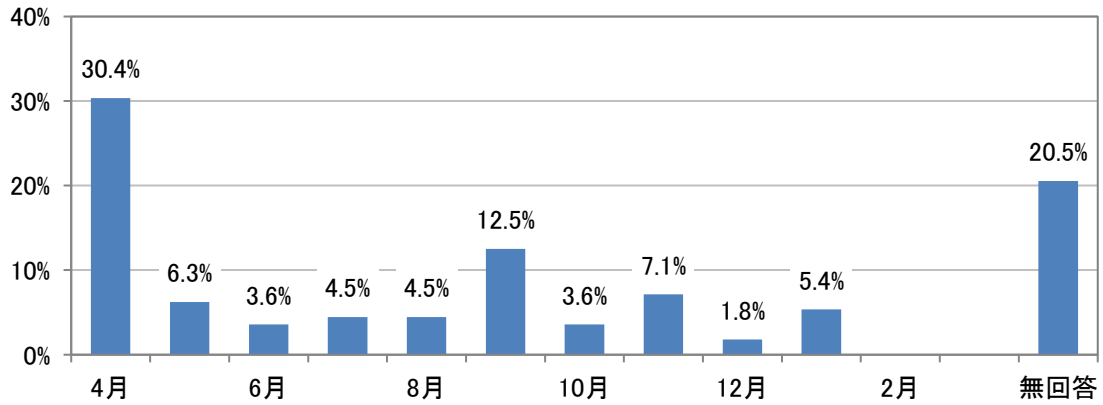


【60～90日くらい】

(5) 小学校

欠席時期は、「4月（30%）」が最も高い。

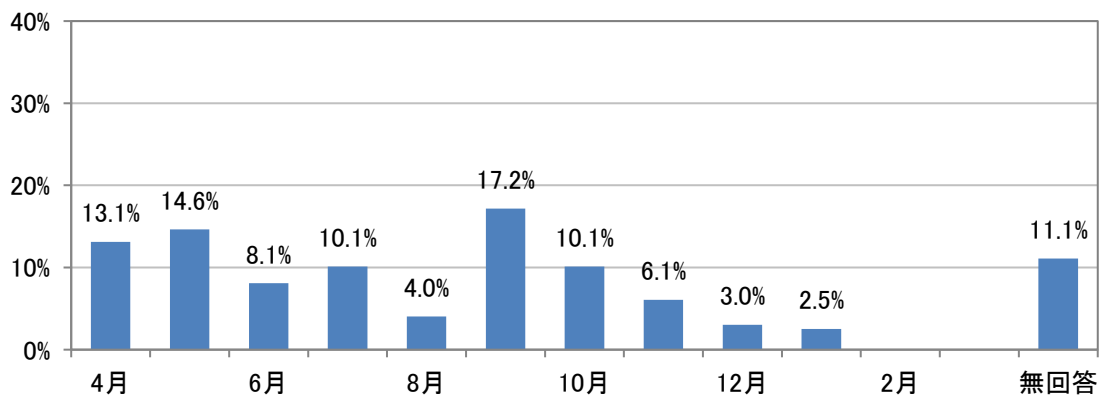
図表 3-9 子どもの欠席時期（小学校 n=112）



(6) 中学校

欠席時期は、「9月（17%）」が比較的高いが、様々な時期となっている。

図表 3-10 子どもの欠席時期（中学校 n=198）

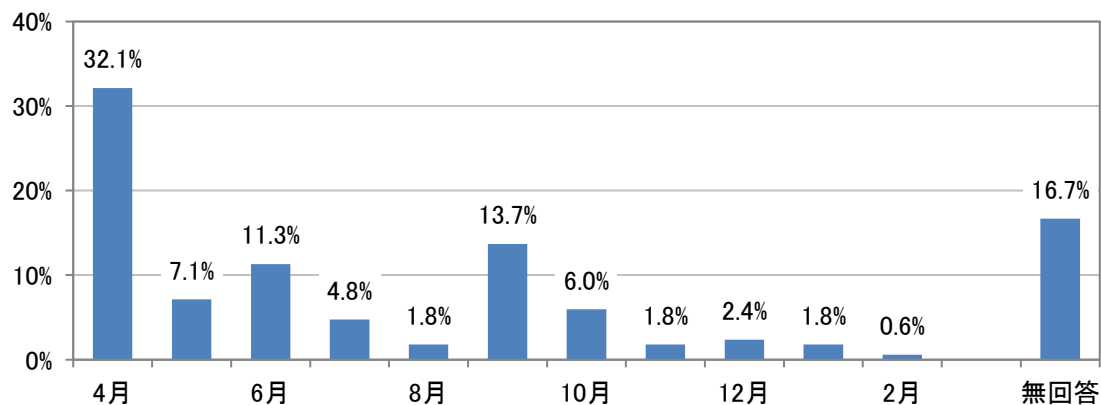


【90～180日くらい】

(7)小学校

欠席時期は、「4月(32%)」が最も高い。

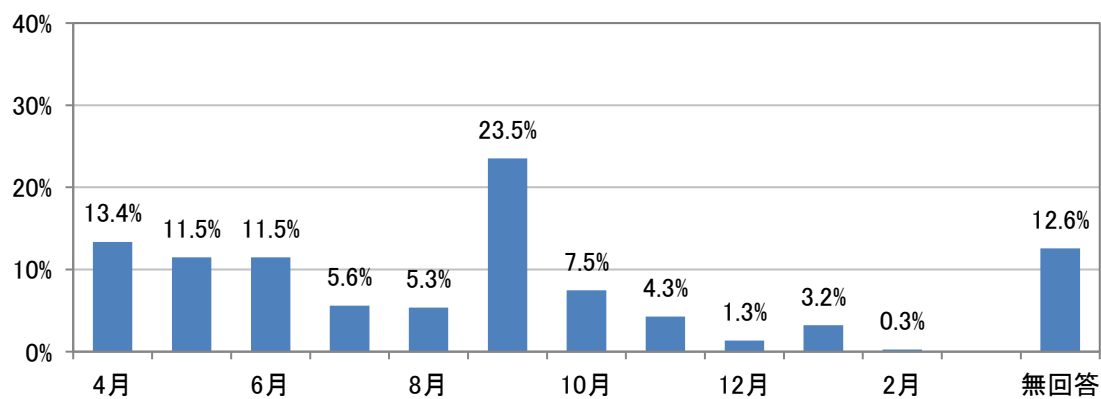
図表 3-11 子どもの欠席時期 (小学校 n=168)



(8)中学校

欠席時期は、「9月(24%)」が最も高い。

図表 3-12 子どもの欠席時期 (中学校 n=374)

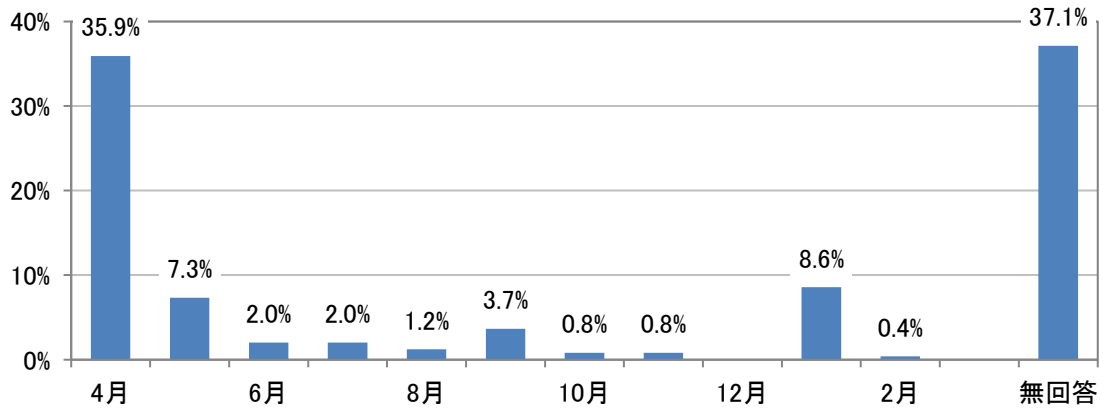


【180日以上（ほとんどすべて欠席した）】

(9)小学校

欠席時期は、「4月（36%）」が最も高い。

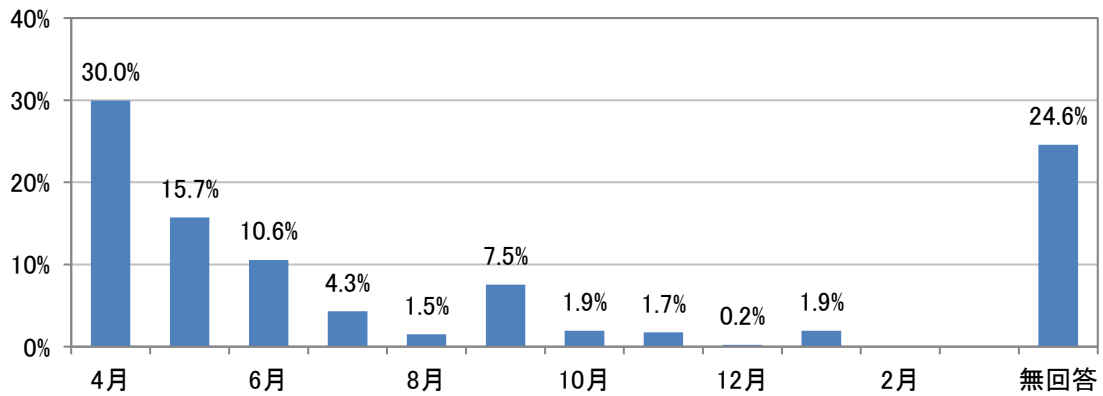
図表 3-13 子どもの欠席時期（小学校 n=245）



(10)中学校

欠席時期は、「4月（30%）」が最も高い。

図表 3-14 子どもの欠席時期（中学校 n=464）



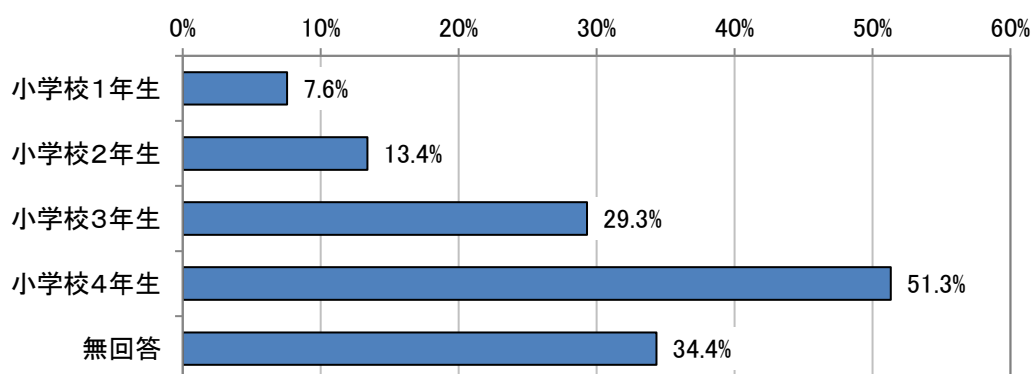
### 3-1-4 子どもの以前の欠席時期

【問3】 小学5年生より前（小学生のとき）に、お子さんが学校を休みがち（夏休み等の長期休暇、病気・けがを除き概ね年間で合計30日以上欠席）だった時期はありますか。（複数回答）

#### (1) 小学校

小学校5年生より前の欠席時期は、5割が直前の「小学校4年生（51%）」が最も高い。

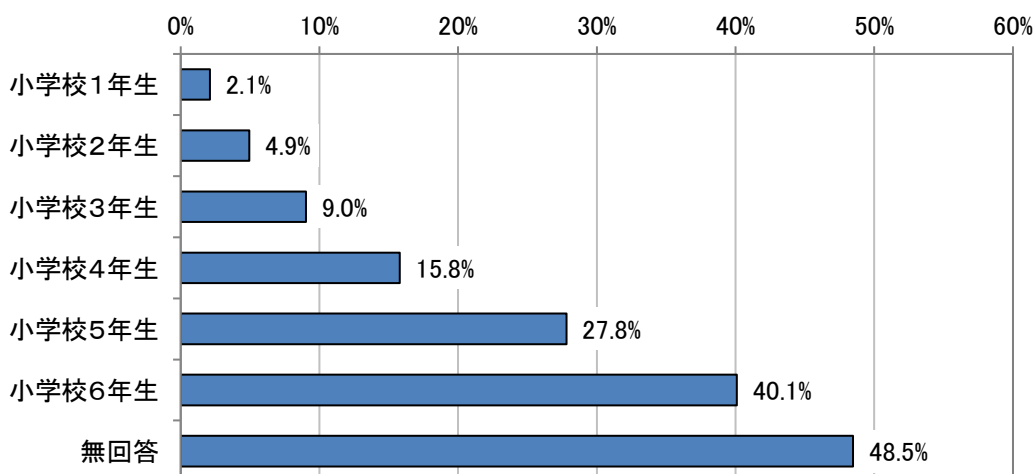
図表 3-15 子どもの以前の欠席時期（小学校 n=754）



#### (2) 中学校

小学生のときの欠席時期は、小学校同様、直前の「小学校6年生（40%）」が最も高い。

図表 3-16 子どもの以前の欠席時期（中学校 n=1,374）





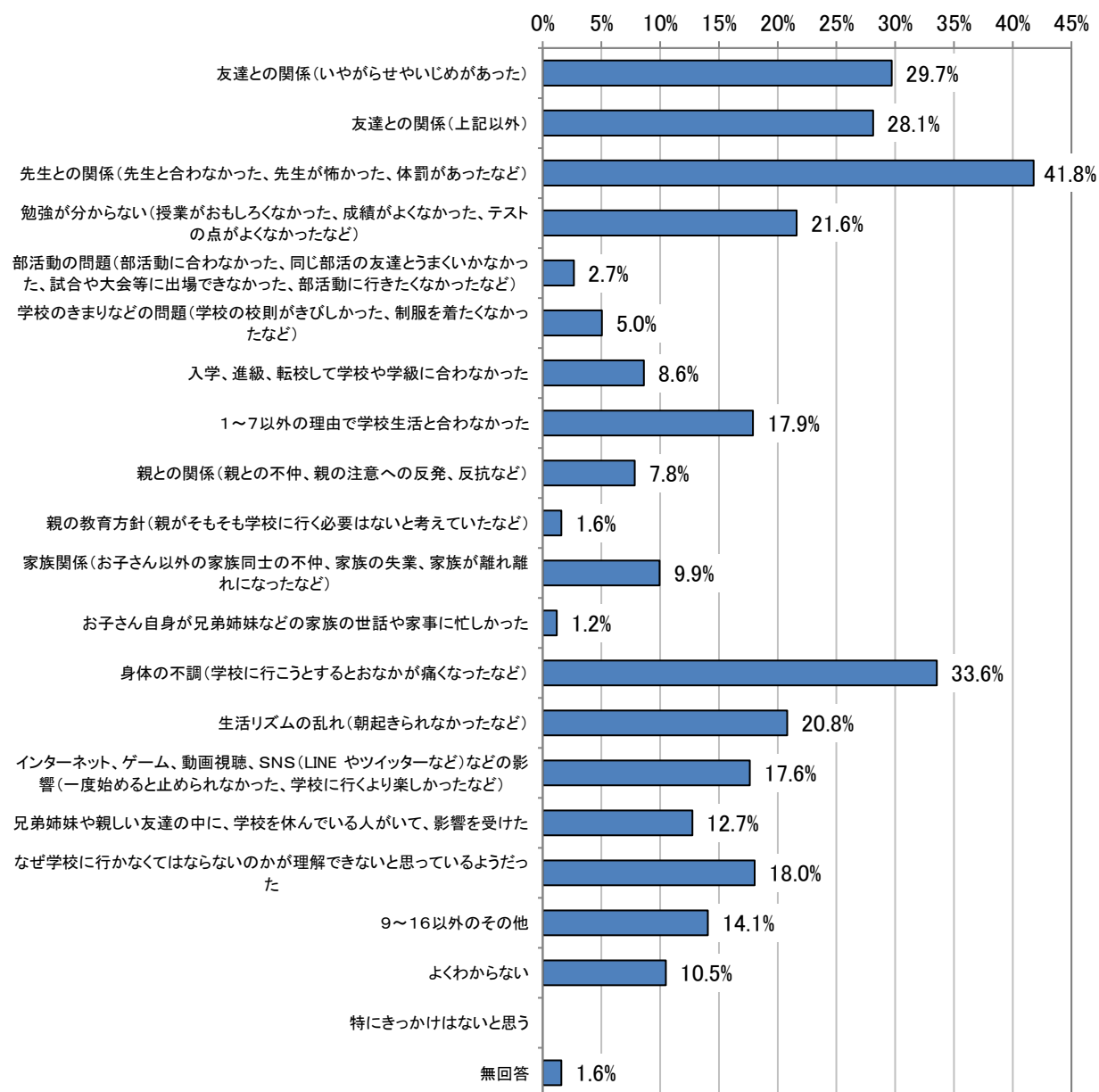
### 3-1-5 子どもが最初に学校を休むようになったきっかけ

【問4】 お子さんが一番最初に学校を休むようになった（休みがちになった）きっかけは、何だと考えますか。（複数回答）

#### (1) 小学校

最初に学校を休むようになったきっかけは、「先生との関係（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）（42%）」「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）（34%）」などが上位にあがっている。

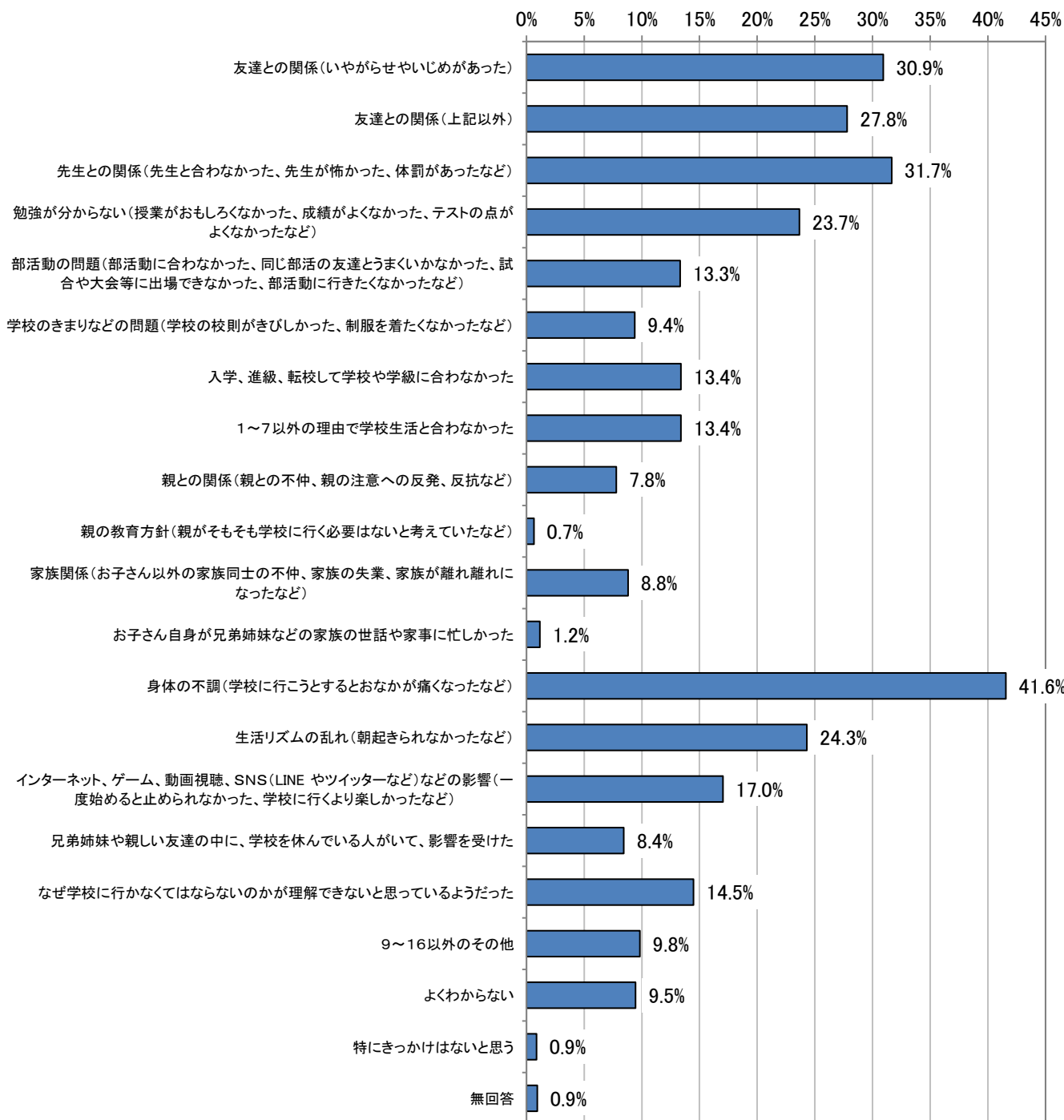
図表 3-17 子どもが最初に学校を休むようになったきっかけ（小学校 n=754）



## (2)中学校

最初に学校を休むようになったきっかけは、「身体の不調（学校に行こうとするとおなか  
が痛くなったなど）（42%）」が最も高い。「先生との関係（先生と合わなかった、先生が怖  
かった、体罰があったなど）（32%）」、「友達との関係（いやがらせやいじめがあった）（31%）」  
が次いで高い。

図表 3-18 子どもが最初に学校を休むようになったきっかけ（中学校 n=1,374）



### 3-1-6 昨年度欠席時の子どもの状況

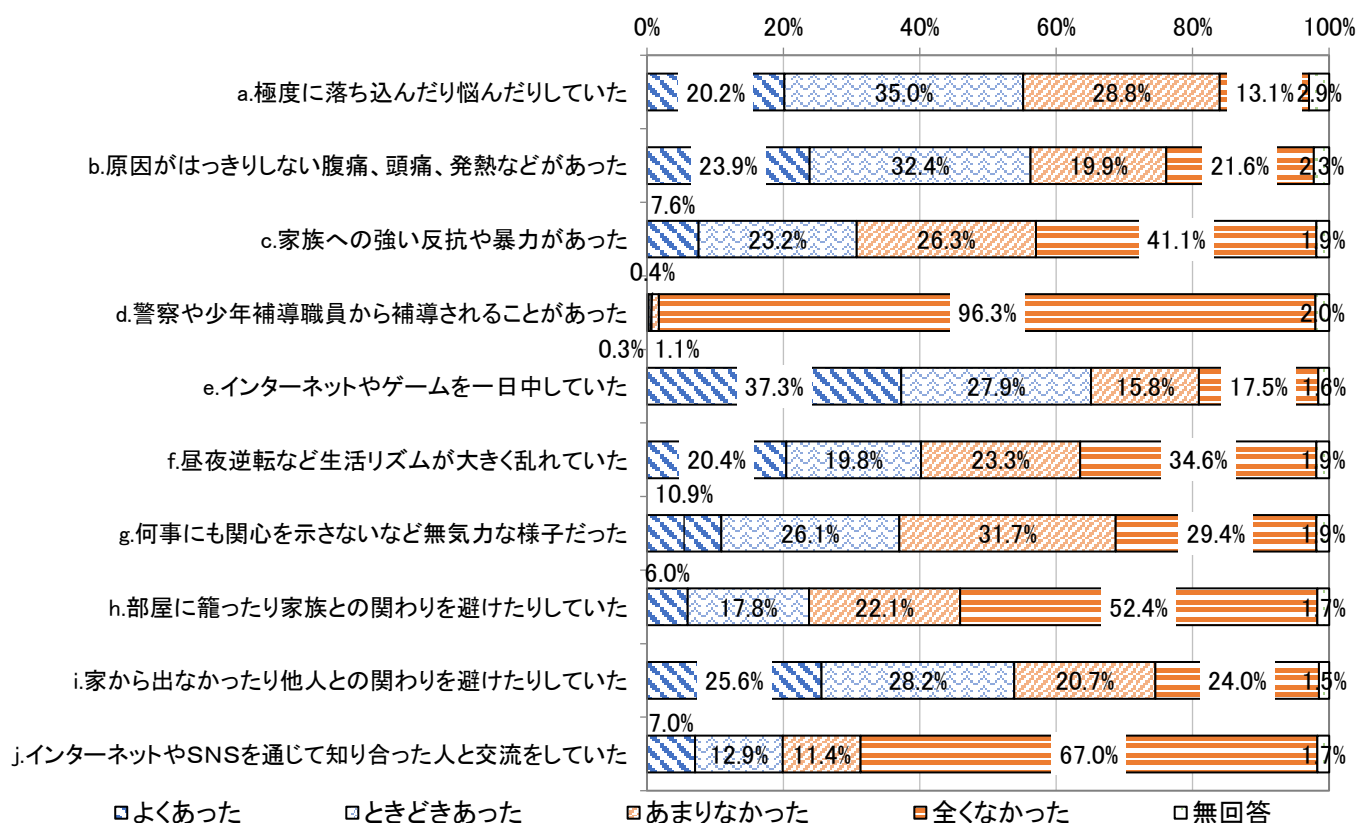
【問5】 昨年度（令和元年度）欠席していた時のお子さんの状況についてお答えください。（単一回答）

#### (1) 小学校

昨年度欠席時の子どもの状況について、「あった（「よくあった」＋「ときどきあった」）」の割合をみると、「インターネットやゲームを一日中していた（65%）」、「原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった（56%）」、「極度に落ち込んだり悩んだりしていた（55%）」、「家から出なかつたり他人との関わりを避けたりしていた（54%）」が5割を超えて高い。

一方、「警察や少年補導職員から補導されることがあった（1%）」はほとんどなく、「部屋に籠ったり家族との関わりを避けたりしていた（24%）」の割合はあまり高くない。

図表 3-19 昨年度欠席時の子どもの状況（小学校 n=754）

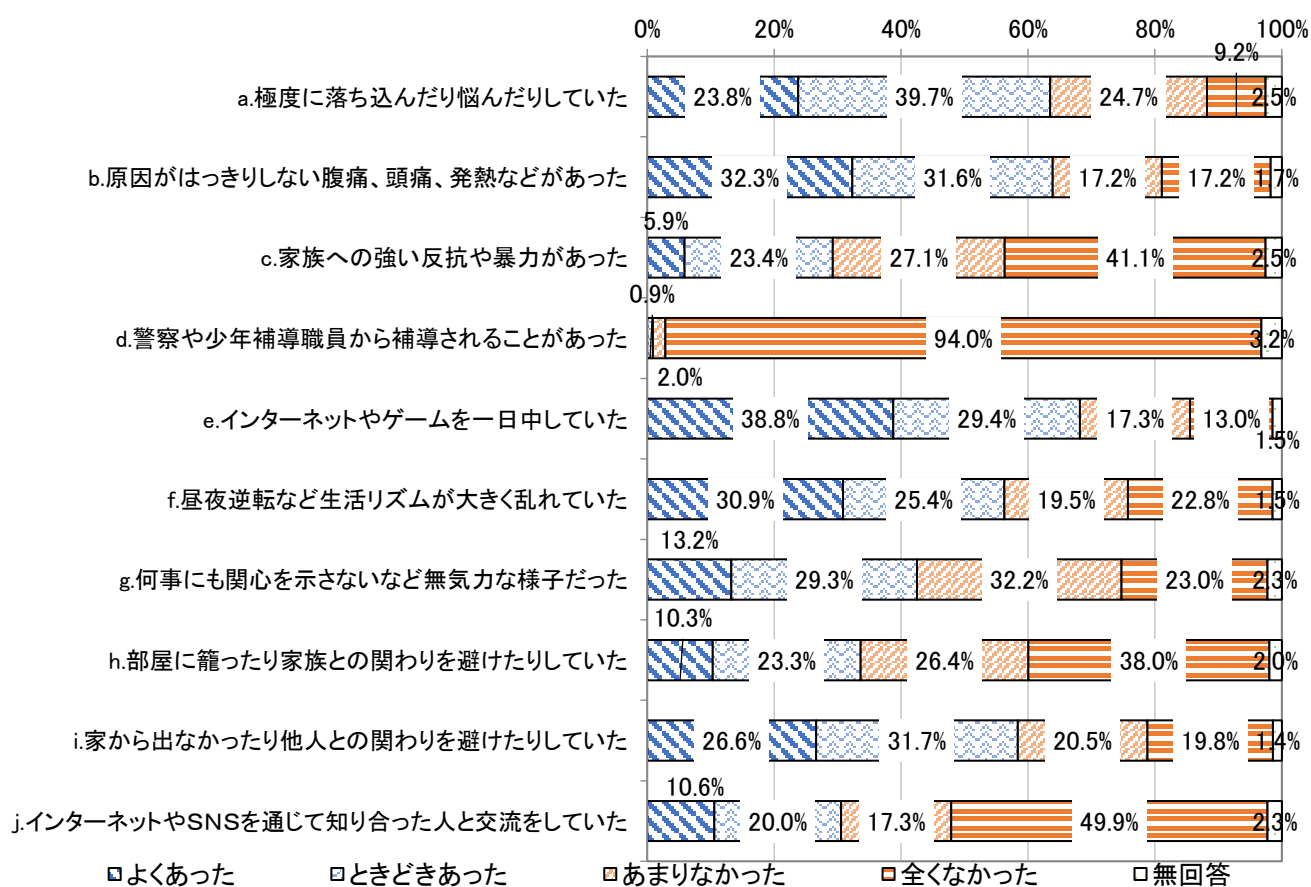


## (2) 中学校

小学校同様、「インターネットやゲームを一日中していた (68%)」、「原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった (64%)」、「極度に落ち込んだり悩んだりしていた (64%)」、「家から出なかつたり他人との関わりを避けたりしていた (58%)」の割合が高い。

「警察や少年補導職員から補導されることがあった (1%)」がほとんどない点、「部屋に籠ったり家族との関わりを避けたりしていた (34%)」の割合があまり高くない点なども同様である。

図表 3-20 昨年度欠席時の子どもの状況 (中学校 n=1,374)



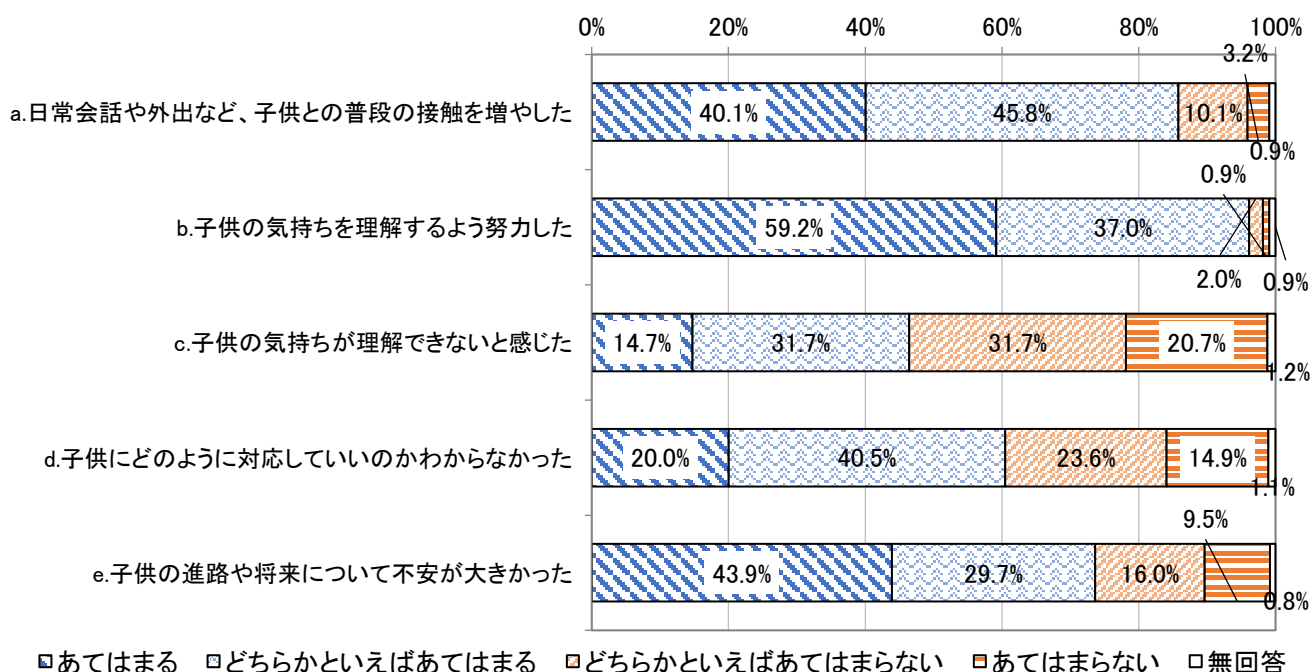
### 3-1-7 昨年度の子どもとのかかわり

【問6】 昨年度（令和元年度）のお子さんとのかかわりについてお答えください。（単一回答）

#### (1) 小学校

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、「子供の気持ちを理解するよう努力した（96%）」、「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした（86%）」、「子供の進路や将来について不安が大きかった（74%）」の割合が高い。

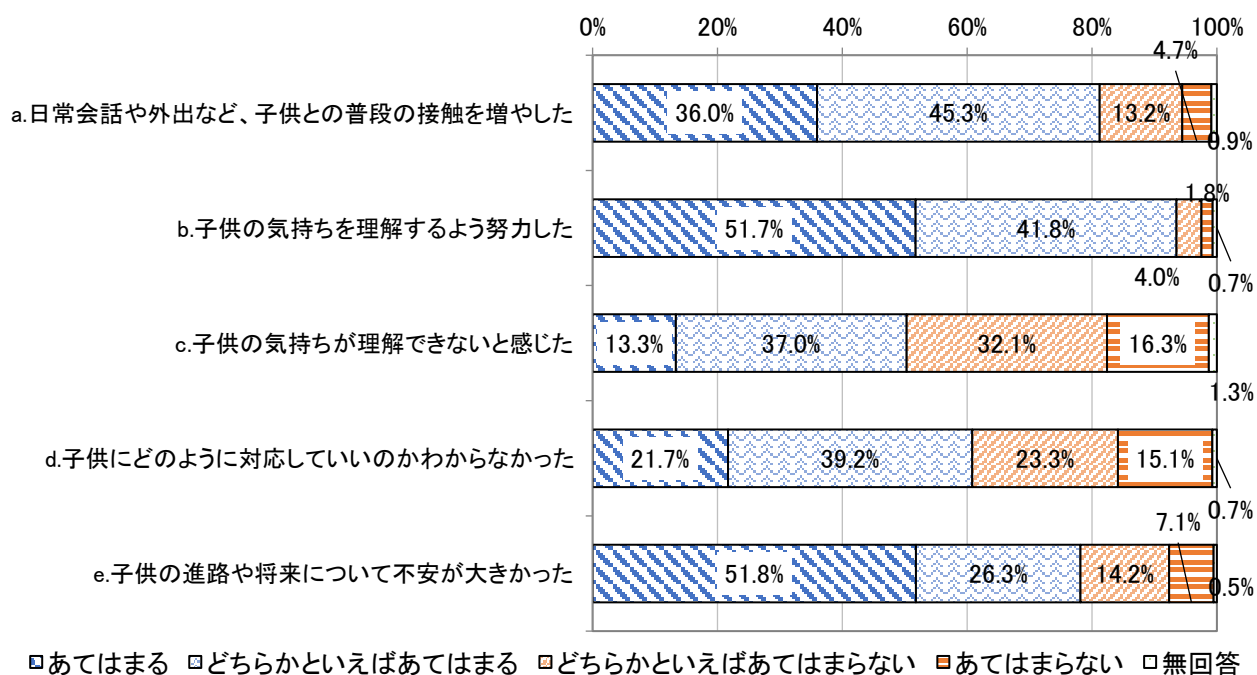
図表 3-21 昨年度の子どもとのかかわり（小学校 n=754）



## (2)中学校

小学校同様、「子供の気持ちを理解するよう努力した(94%)」、「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした(81%)」、「子供の進路や将来について不安が大きかった(78%)」の割合が高い。

図表 3-22 昨年度の子どものかかわり（中学校 n=1,374）



### 3-1-8 昨年度の子どもへの働きかけ

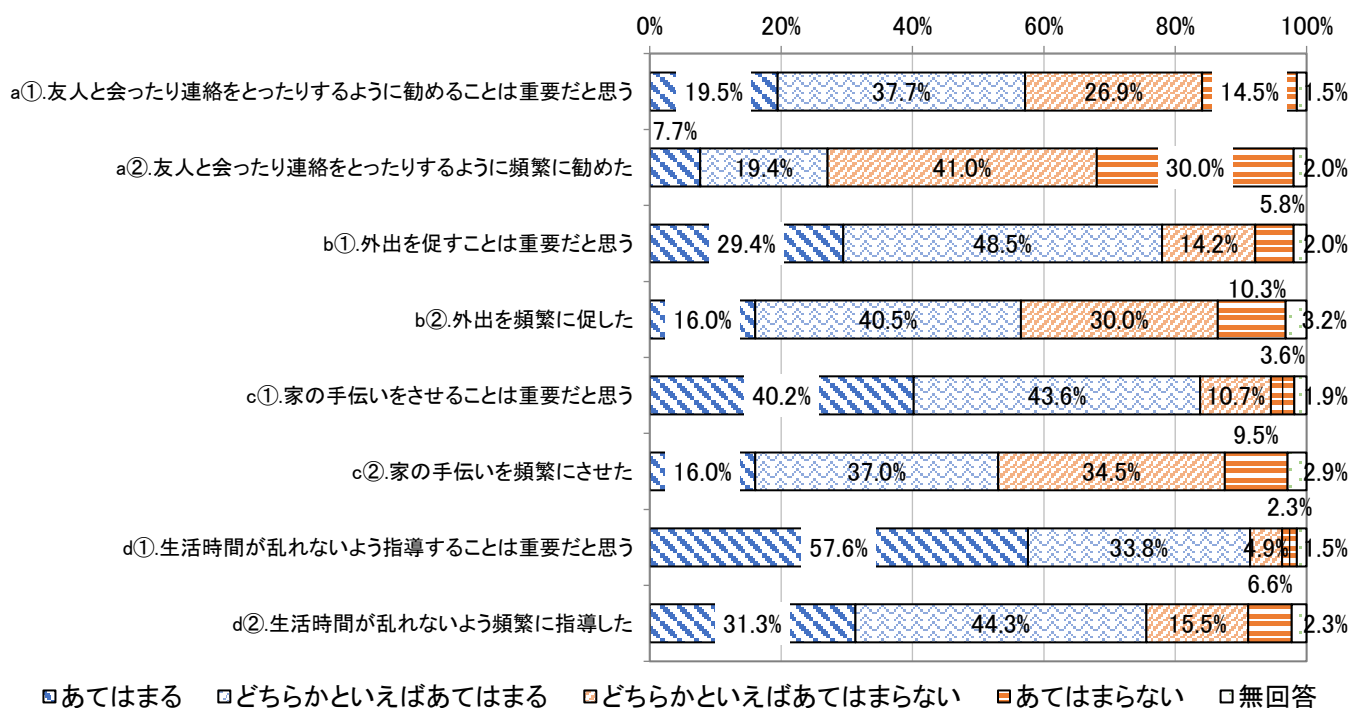
【問7】 昨年度（令和元年度）のお子さんとの普段の時間の過ごし方に関する、保護者からお子さんへの働きかけなどについてお答えください。（単一回答）

#### (1) 小学校

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、「生活時間が乱れないよう指導することは重要だと思う（91%）」、「家の手伝いをさせることは重要だと思う（84%）」、「外出を促すことは重要だと思う（78%）」と考えている割合が高い。

一方、「生活時間が乱れないよう頻繁に指導した（76%）」、「家の手伝いを頻繁にさせた（53%）」、「外出を頻繁に促した（57%）」と実際の働きかけについては、考えている割合より低くなっている。

図表 3-23 昨年度の子どもへの働きかけ（小学校 n=754）

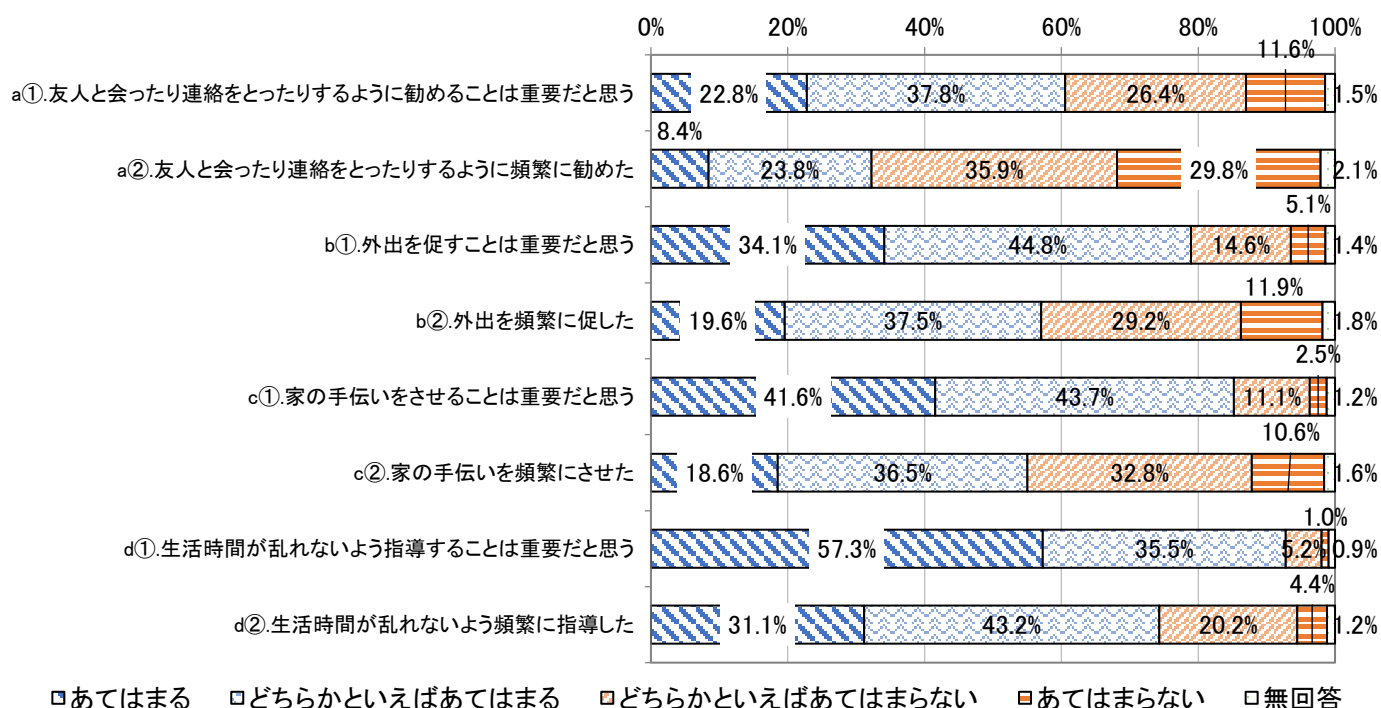


## (2) 中学校

小学校同様、「生活時間が乱れないよう指導することは重要だと思う（93%）」、「家の手伝いをさせることは重要だと思う（85%）」、「外出を促すことは重要だと思う（79%）」と考えている割合が高い。

実際の働きかけについても、小学校と同様に、「生活時間が乱れないよう頻繁に指導した（74%）」、「家の手伝いを頻繁にさせた（55%）」、「外出を頻繁に促した（57%）」と考えている割合より低くなっている。

図表 3-24 昨年度の子どもへの働きかけ（中学校 n=1,374）





### 3-1-9 昨年度の学校等に関する子どもへの働きかけ

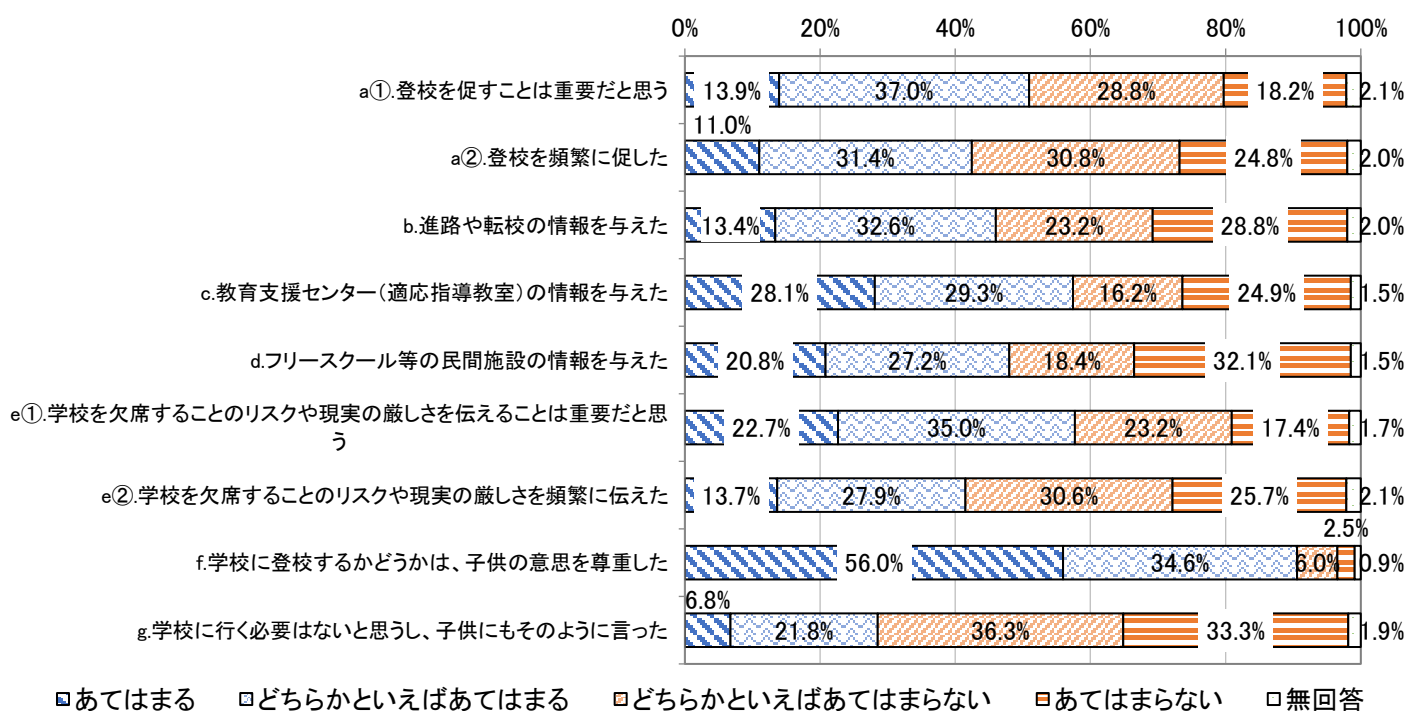
【問8】 昨年度（令和元年度）の学校や関係機関に関する、保護者からお子さんへの働きかけなどについてお答えください。（単一回答）

#### (1) 小学校

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合をみると、「学校に登校するかどうかは、子供の意思を尊重した（91%）」の割合が最も高い。一方、「学校に行く必要はないと思うし、子供にもそのように言った（29%）」は最も低い。それ以外については、いずれも4～6割程度である。

図表 3-25 昨年度の学校等に関する子どもへの働きかけ

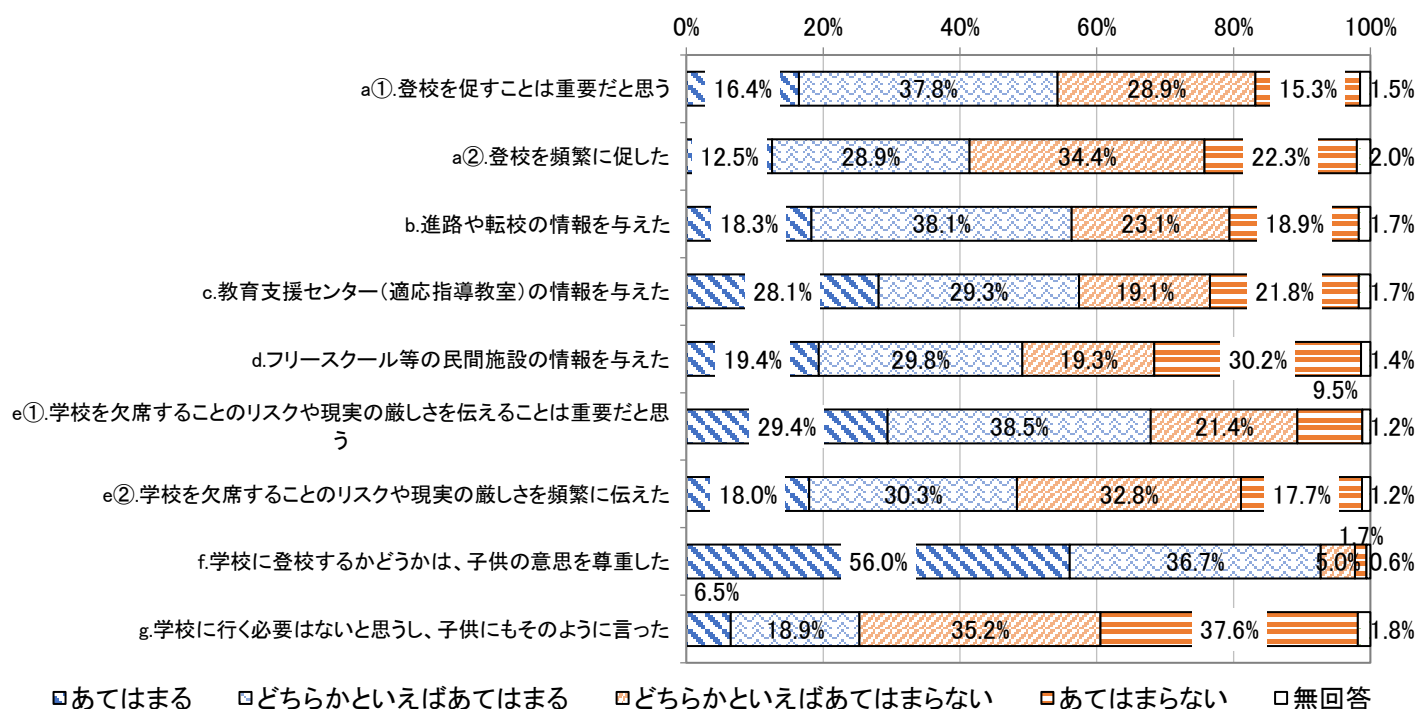
(小学校 n=754)



## (2) 中学校

小学校同様、「学校に登校するかどうかは、子供の意思を尊重した（93%）」の割合が最も高く、「学校に行く必要はないと思うし、子供にもそのように言った（25%）」が最も低い。それ以外についても、同様な傾向である。

図表 3-26 昨年度の学校等に関する子どもへの働きかけ  
(中学校 n=1,374)



### 3-1-10 学校の対応への評価（1）

【問9】 昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）の学校の対応について、どのように評価していますか。（単一回答）

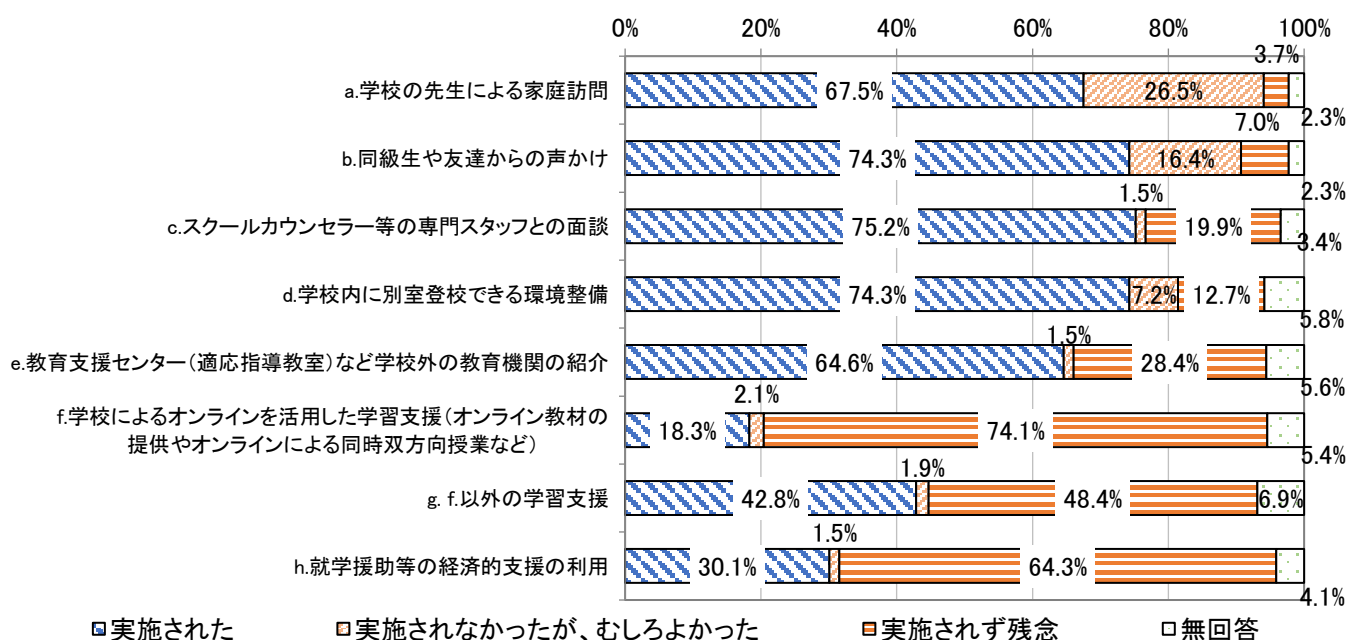
#### （1）小学校

「スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談（75%）」、「同級生や友達からの声かけ（74%）」、「学校内に別室登校できる環境整備（74%）」については7割以上、「学校の先生による家庭訪問（68%）」、「教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介（65%）」も6割以上実施されている。

一方、「就学援助等の経済的支援の利用（30%）」、「学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など）（18%）」についてはあまり実施されていない。

「学校の先生による家庭訪問（27%）」、「同級生や友達からの声かけ（16%）」の「実施されなかったが、むしろよかった」の割合は2割前後となっている。

図表 3-27 学校の対応の有無（小学校 n=754）



※e~hについては、「実施されなかったが、むしろよかった」「実施されず残念」は以下の選択肢となっている。

- c.スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談：「希望したが、実施されなかった」「実施されなかった」
- d.学校内に別室登校できる環境整備：「環境がなかったが、整備してほしい」「別室登校できる環境がなかった」
- e.教育支援センターなど学校外の教育機関の紹介：「希望したが、紹介されなかった」「紹介されなかった」
- f.学校によるオンラインを活用した学習支援：「希望したが、支援がなかった」「支援がなかった」
- g. f.以外の学習支援：「希望したが、支援がなかった」「支援がなかった」
- h.就学援助等の経済的支援の利用：「希望したが、利用できなかった」「利用していない」

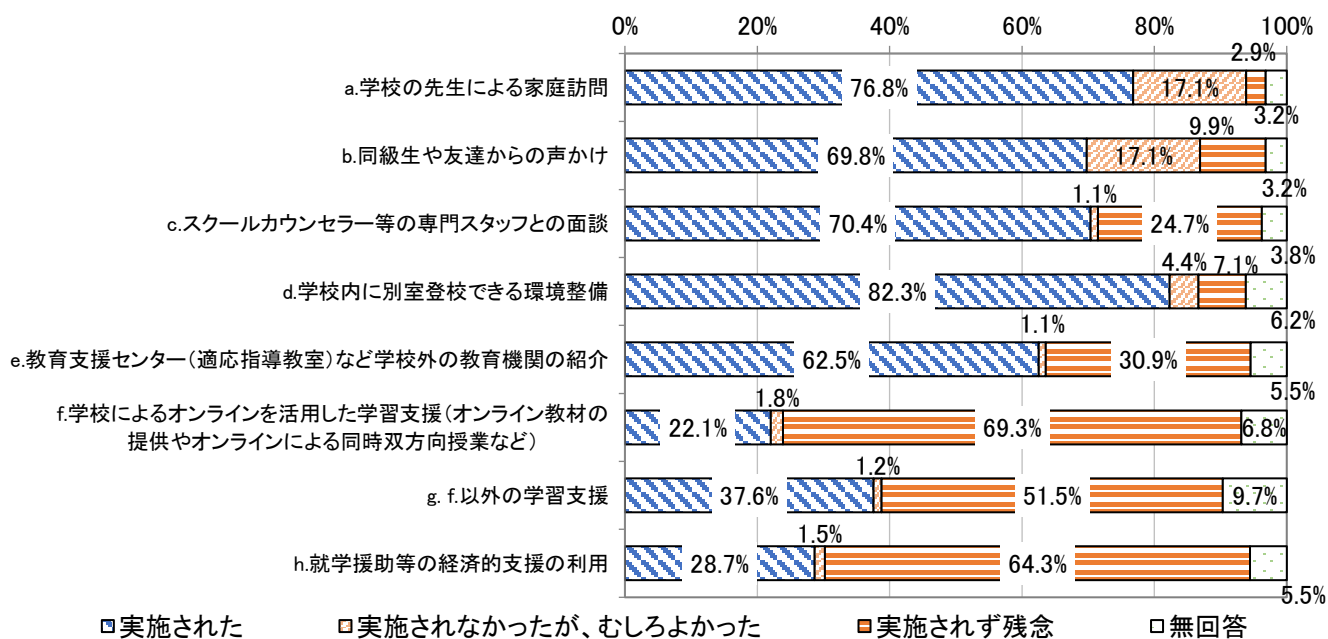
## (2)中学校

「学校内に別室登校できる環境整備(82%)」は8割、「学校の先生による家庭訪問(77%)」、「スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談(70%)」、「同級生や友達からの声かけ(70%)」については7割以上、「教育支援センター(適応指導教室)など学校外の教育機関の紹介(63%)」も6割以上実施されており、小学校と同様の傾向である。

また、「就学援助等の経済的支援の利用(29%)」、「学校によるオンラインを活用した学習支援(オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など)(22%)」についてあまり実施されていないことも小学校同様である。

「学校の先生による家庭訪問(17%)」、「同級生や友達からの声かけ(17%)」の「実施されなかったが、むしろよかった」の割合は2割弱である。

図表 3-28 学校の対応の有無(中学校 n=1,374)



※e~hについては、「実施されなかったが、むしろよかった」「実施されず残念」は以下の選択肢となっている。

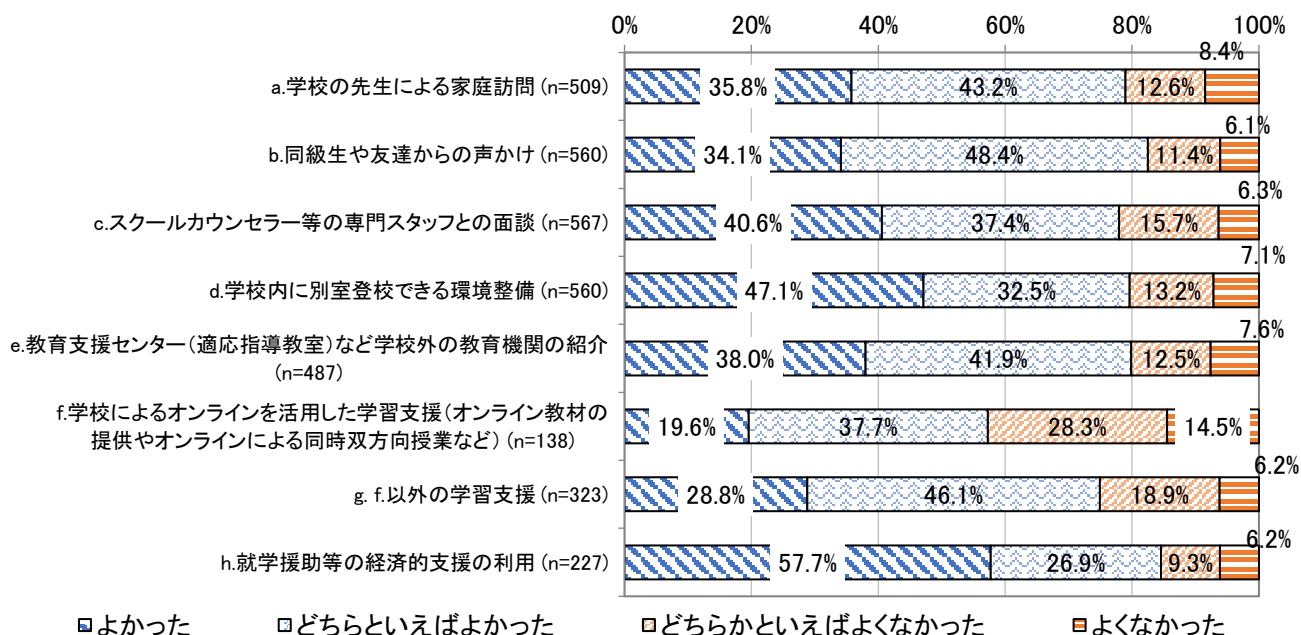
- c.スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談：「希望したが、実施されなかった」「実施されなかった」
- d.学校内に別室登校できる環境整備：「環境がなかったが、整備してほしい」「別室登校できる環境がなかった」
- e.教育支援センターなど学校外の教育機関の紹介：「希望したが、紹介されなかった」「紹介されなかった」
- f.学校によるオンラインを活用した学習支援：「希望したが、支援がなかった」「支援がなかった」
- g. f.以外の学習支援：「希望したが、支援がなかった」「支援がなかった」
- h.就学援助等の経済的支援の利用：「希望したが、利用できなかった」「利用していない」

### 3-1-11 学校の対応への評価（2）

#### （1）小学校

「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合をみると、「就学援助等の経済的支援の利用（85%）」、「同級生や友達からの声かけ（83%）」、「教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介（80%）」、「学校内に別室登校できる環境整備（80%）」、「学校の先生による家庭訪問（79%）」、「スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談（78%）」については7割以上の評価を得ている。「学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など）（57%）」は6割弱と他に比べて若干低いが、いずれの対応についても評価は高い。

図表 3-29 学校の対応への評価

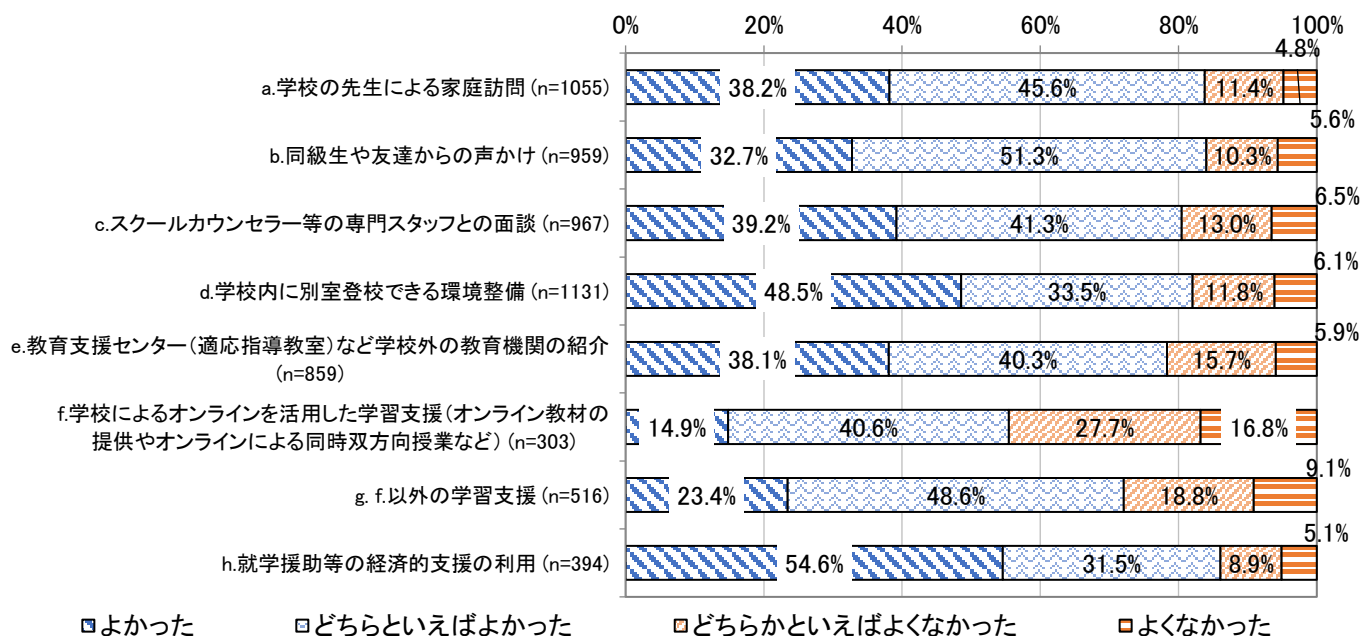


## (2) 中学校

いずれの対応についても評価は高く、小学校と同様な傾向である。

「就学援助等の経済的支援の利用（86%）」、「同級生や友達からの声かけ（84%）」、「学校の先生による家庭訪問（84%）」、「学校内に別室登校できる環境整備（82%）」、「スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談（81%）」、については8割以上、「教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介（78%）」は8割弱、「学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など）（56%）」は6割弱の評価を得ている

図表 3-30 学校の対応への評価



### 3-1-12 支援機関等の対応への評価（1）

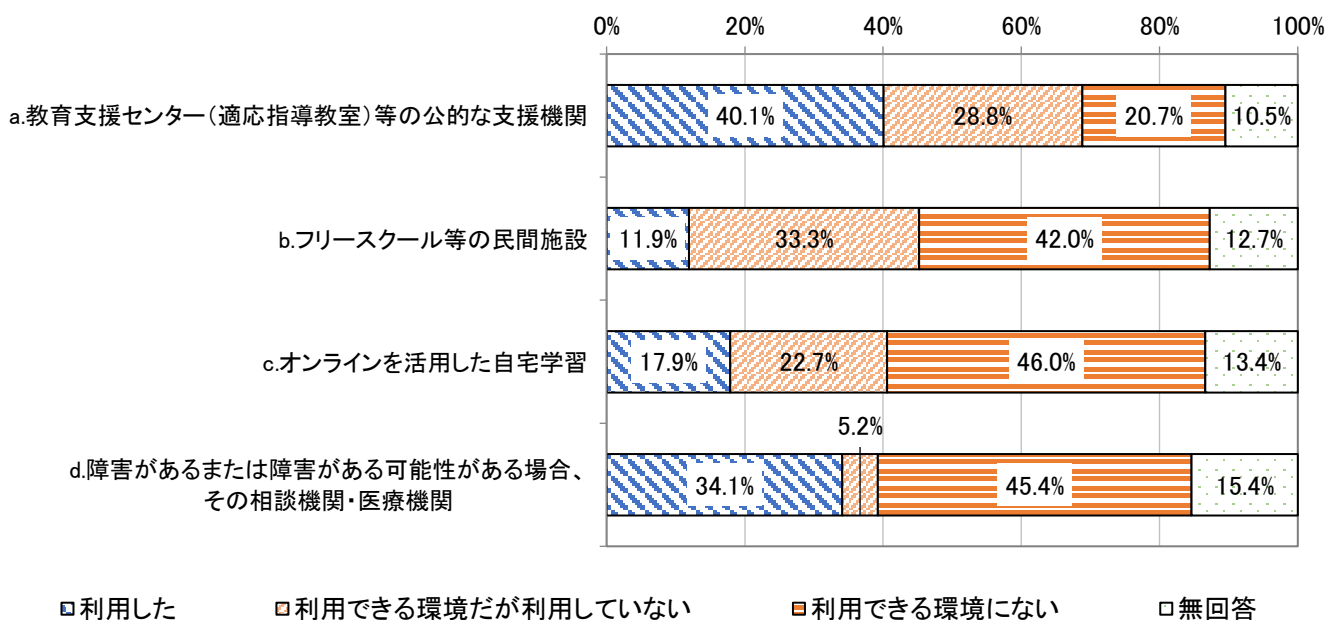
【問10】 昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）に利用した学校外の支援機関等について、どのように評価していますか。（単一回答）

#### （1）小学校

いずれの支援機関も4割以下の利用と学校外支援の利用はあまり進んでいない。

「教育支援センター（適応指導教室）等の公的な支援機関（40%）」、「障害があるまたは障害がある可能性がある場合、その相談機関・医療機関（34%）」で4割程度である。

図表 3-31 支援機関等の利用の有無（小学校 n=754）



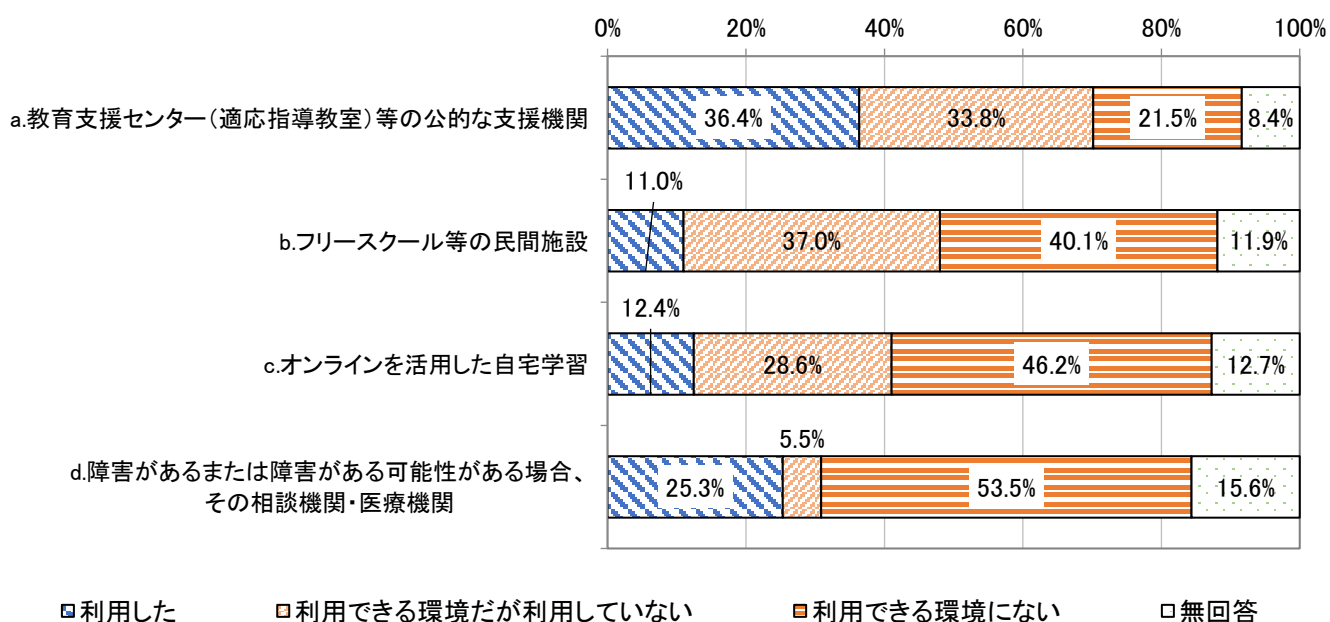
※dについては、「利用できる環境にない」は「あてはまらない」という選択肢となっている。

## (2) 中学校

小学校と同様、いずれの支援機関も4割未満の利用となっており、学校外支援の利用はあまり進んでいない。

比較的利用されている「教育支援センター（適応指導教室）等の公的な支援機関（36%）」、「障害があるまたは障害がある可能性がある場合、その相談機関・医療機関（25%）」でも3割前後である。

図表 3-32 支援機関等の利用の有無（中学校 n=1,374）



※dについては、「利用できる環境にない」は「あてはまらない」という選択肢となっている。

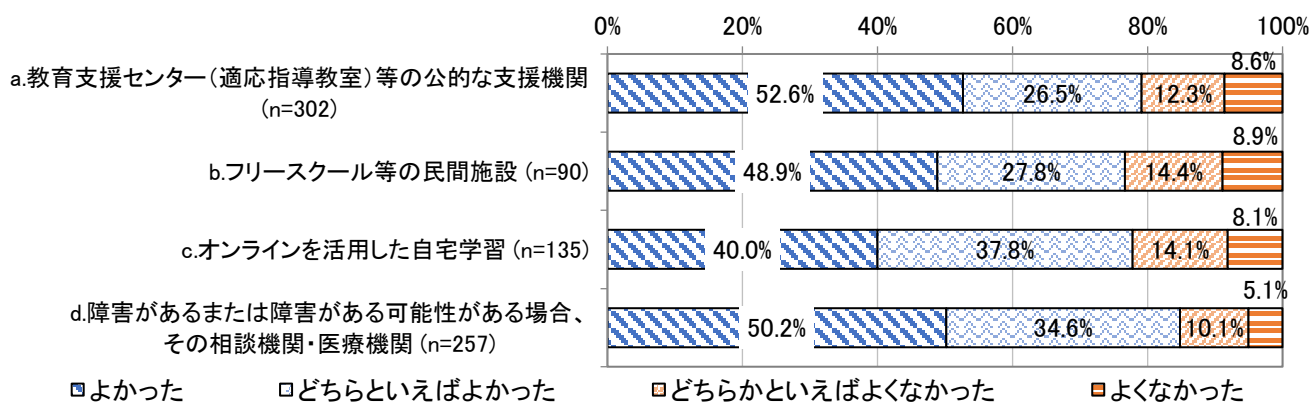


### 3-1-13 支援機関等の対応への評価（2）

#### （1）小学校

「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合をみると、「障害があるまたは障害がある可能性がある場合、その相談機関・医療機関（85%）」、「教育支援センター（適応指導教室）等の公的な支援機関（79%）」、「オンラインを活用した自宅学習（78%）」、「フリースクール等の民間施設（77%）」で、各支援機関とも8割前後の高い評価となっている。

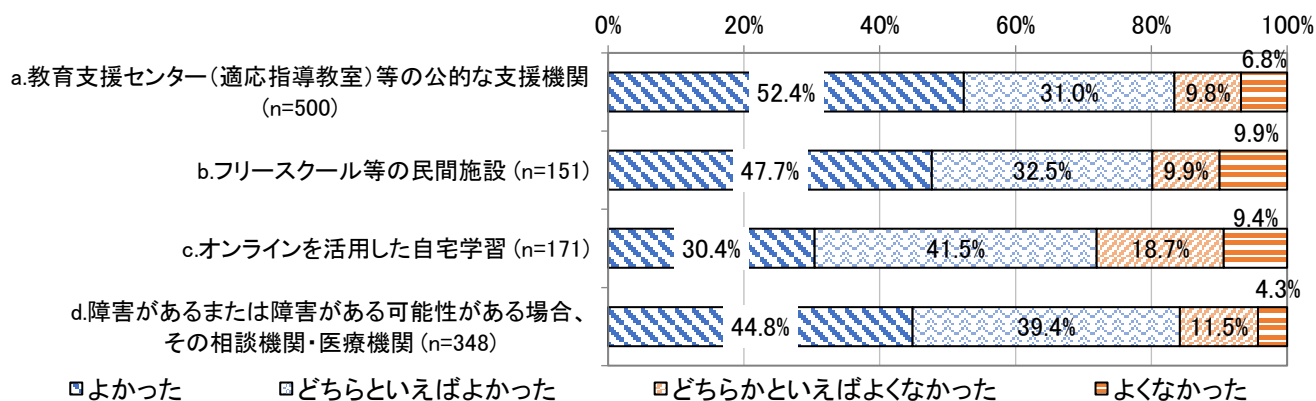
図表 3-33 支援機関等の対応への評価



#### （2）中学校

小学校と同様、各支援機関とも「障害があるまたは障害がある可能性がある場合、その相談機関・医療機関（84%）」、「教育支援センター（適応指導教室）等の公的な支援機関（83%）」、「フリースクール等の民間施設（80%）」「オンラインを活用した自宅学習（72%）」と高い評価となっている。

図表 3-34 支援機関等の対応への評価



### 3-1-14 相談しやすい相談環境

【問11】 学校内外問わず、どのような条件が整った相談環境があれば相談しやすいと思いますか。(自由記述)

自由記述について、小学校では、401件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと396件）。中学校では、671件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと659件）。

以下に、主な回答を紹介する（原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。）。

#### (1)小学校

- ・ 1, 2年生の頃は学校に相談員の方がいる事を知らなかった。学校の先生に直接言いづらい事も相談員には相談しやすいと思ったので、スクールカウンセラーなどにつながるにはどうしたらいいかなどの文章配布は必要だと思う。先生個人の意見を押しつけないことや、保護者と先生+α（第3者的な人）での面談の実施が必要だと思うが、お互いの信頼も必要だと思う。保護者も学校まかせにせず、「〇〇して下さい」等ではなく、「どの程度までなら対応してもらえるか」を相談の中で考え、伝える事も大事だと思う。
- ・ スクールカウンセラーに相談出来るのは、とても安心出来た。他方で、面談日は週に1回・同じ曜日のみが基本のため、仕事の都合をつけるのがとても大変。本人も周りの子供が学校にいる時間には行きたがらない。土日等でも相談出来る場所があるとよい。
- ・ 相談したい時にすぐ専門家とつながれるような仕組みが欲しい。現在は親が必死で情報を集めないと、学校外の情報を得る事が出来ない。地域差もなくして欲しい。学校内ではカウンセラーが1人しかおらず、2週に1回しか相談できないし、その人と合わない相談先がない。例えば、役場や学区毎に心理士や医者等の専門家の不登校専門チームがあって、学校復帰だけをゴールとしない支援が学校を通さずに受けられるといいと思う。子供だけではなく、親の心の相談も出来る場所があるとよい。
- ・ 先生やカウンセラーに予約して話し合う時間を設けるのではなく、ちょっとした事をいつでもすぐに相談や質問できる場所等があると、もっと溜め込まずに気楽に気持ちが吐き出せると思う。
- ・ 発達障害専門の公立の教育機関があるとよい。義務教育という制度があるのに、教育機関が対応できていないと思う。親はどこに相談していいか分からず、医療機関も半年待ちであるため、子供は引きこもっている。親もどうしていいか分からない。医療支援、受け入れる教育機関、相談窓口を作って欲しい。
- ・ いじめに関するアンケートは頻繁にあるが、いじめに限らず、児童の要望を気軽に先生方へ伝えられる方法を整えてほしい。子ども本人が不満でも何でも、早い段階で伝えられるようになってほしい。学校の中にくつろげるスペースが無いため、空き教室にベンチやソファも用意して、フリースペースとして整えてほしい。

- ・担任の先生が一人で40人近くの児童一人一人に寄り添う事は難しいのだと思う。落ち着きがなく少し暴力的な行動が多い子が居れば、先生は殆どその子の対応につききりになってしまう事も多く、一見大人しくて何も問題なさそうで自分から助けも求められないような子まで、先生の目は届かなくなってしまうのだと感じる。もっとクラス全員の心のケアができるような副担任のような形で、各クラスにも2人先生が常に居るような環境が出来たらいいと思う
- ・スクールカウンセラーとは対面で月に1度しか会うことができないので、オンラインやメールなどその時々で、カウンセラーや心療内科の先生などに相談できるといいと思う。
- ・仕事をしているとなかなか相談に行く日にちの調整が難しい。近場での相談や、オンラインでの相談があるとよい。子どもは一緒に相談に行くのを嫌がるため、相談に行く時に他人に見られないようにする配慮や、子供が安心して話しができる環境であれば相談しやすいと思う。
- ・不登校児の心理、発達障害、HSP、いじめ、などに詳しい方が、学校に常勤して、学校と密に連携を取ってくれる状態だと相談しやすいと思う。
- ・どこに相談したらよいかかわからない。支援機関から連絡がくればいろいろと聞けたと思う。
- ・スクールカウンセラー等の専門スタッフがいて、土日に相談できること。
- ・家庭環境、保護者支援が重要と言われているのに、その視点での支援や対策がない。教育、精神科、社会福祉など、横のつながりでの不登校対策がなされていないと思う。文部科学省だけで解決を目指さず、親のカウンセリング、親子の関係、親の育ち方、愛着障害、アダルトチルドレン、複雑性PTSDなどの社会的な、家庭内的な問題に焦点をあてて考えてほしい。「愛着」という視点を持って、不登校問題に取り組んでほしい。
- ・学校の先生は現在も電話による相談に応じてくれるが、こちらの仕事の都合で夜に電話することになってしまうこともあり、先生への負担が大きい。時間帯を気にせずできるEmailやSNSのチャット機能が使える相談窓口があるとよい。
- ・平日の遅い時間や、休日等も相談できる窓口があるとよい。電話やメールでも気軽に相談できるとよい。
- ・学校に行けず勉強が遅れると不安が大きくなるため、授業をオンラインで自宅から見られるとよい。放課後登校は周りの目が気になる様子。相談場所も他の生徒と接触の少ない公民館などにもっとあればいいのにと思う。
- ・まだまだ、フリースクールや教育支援センターがない町がたくさんある。先のことが見通せず不安。学校は不登校支援の知識がなく本当にひどい学校だと感じる。地域や学校の差がない環境にしてほしい。
- ・教育支援センターを案内されたが、場所が遠いため送迎が必要で、母子家庭で仕事の都合もあり通えない。民間の施設も高額な費用が必要。このため本人自身の回復を待つことしかできず、今も学校には行けていない。せめて学区内に支援施設や団体があり、母子家庭が無料で支援を受けられるとよいと思う。
- ・不登校の親の会で生の声を聞くことは、どんなカウンセリングや医者より良かったと感じる。子供が話しやすい先生を選ぶことができれば良いと思う。
- ・無料相談はもちろん、経験された方の話を聞ける場所が必要だと思う。不登校にも色々なタイプがあると思うので、親の気持ちを受け止めてくれる、話を聞いてくれる環境は必要。親が煮つまると子どもにも平常心では接することができない。

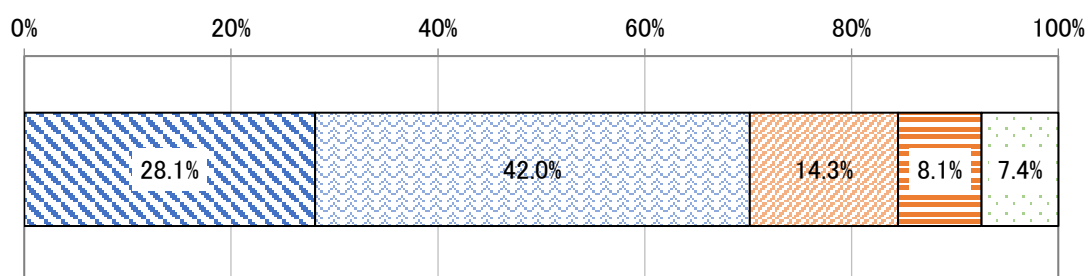
### 3-1-15 学校の対応への全体的評価

【問12】 昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）の学校の対応について、全体的にどのように評価していますか。（単一回答）

#### (1) 小学校

「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合をみると、7割が評価をしている。

図表 3-35 学校の対応への全体的評価（小学校 n=754）

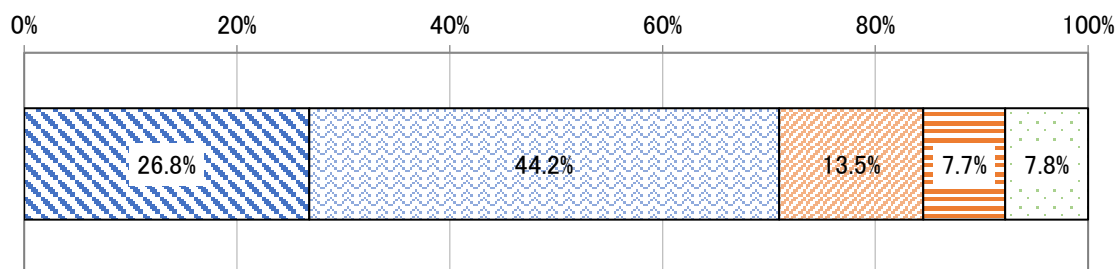


よかった
  どちらかといえばよかった
  どちらかといえばよくなかった
  よくなかった
  無回答

#### (2) 中学校

小学校と同様、7割が評価をしている。

図表 3-36 学校の対応への全体的評価（中学校 n=1,374）



よかった
  どちらかといえばよかった
  どちらかといえばよくなかった
  よくなかった
  無回答

### 3-1-16 学校の対応で評価している点

【問12】昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）の学校の対応について、全体的にどのように評価していますか。特に評価している点と、その理由について具体的に記入してください。（自由記述）

自由記述について、小学校では、512件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと506件）。中学校では、856件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと840件）。

以下に、主な回答を紹介する（原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。）。

#### (1)小学校

- ・担任の先生が色々と学校に1歩でも行ける様に助言や励ましの言葉をくれた。放課後でも学校に行くと息子を褒めてくれるので親としてはありがたい。
- ・教員同士で連携してくれて、教室以外にも学校には居場所があるようにしてくれたこと。数日、放課後登校できない日が続くと電話に出る出ない関係なく連絡をくれて本人と接触しようとしてくれたこと。
- ・先生が子供に普通に接してくれた。子供が行ける授業では声かけをして学校に誘ってくれた。自分が仕事の日も行ける授業のときは先生が家まで迎えに来てくれている。本当に感謝している。
- ・担任の先生や他の先生も子供の気持ちに寄り添ってくれ、イベントがある時は無理強いしない程度に誘ってくれたり、クラスに入れなかった時は別室で給食を食べさせてくれたり、給食のあとに自作の頭の体操になる様な右脳を使うプリントをやらせて自由に帰してくれたりしたことが良かったと思う。
- ・子供のペースを尊重し、別室登校出来る環境も整えてもらえ感謝している。学習も本人のペースを大事にしてくれ、自分で決めて学習を進められた。

## (2)中学校

- ・中学校の先生はプリントを週2回くらい届けてくれて、話をしてくれた。子どもが会いたがらない時も、プリントだけと来てくれた。小学校で休みがちになった時は、前の学年の担任の先生が、放課後や休みの日に勉強を教えてくれた。先生が家まで歩いてお話ししながら送ってくれたこともあり、ふさがちな心を数時間でも聞いてくれて、がんばれる力をくれたように感じる。優しい先生たちと出会えて、今の娘があると思っており、とても感謝している。
- ・子供の気持ちを一番に考えてくれた。家庭と学校で連携していけるように工夫してくれるなど、どの先生も親身になってくれていると思う。
- ・子供の意思に沿って見守ってくださったり、部活のみ行けるときでもきめ細かく打ち合わせし、受け入れてくれて安心して任せられた。保護者との情報交換もよくしてくれて、チャンスを逃さず必要な働きかけをしてくれた。
- ・先生が家庭訪問してくれた際に、無理に登校をすすめるのではなく、本人の興味をもてる様な活動や行事に誘ってくれた事がよかった。入学してからずっと休んでいるが、2・3回目の欠席の連絡をした時に、担任の先生から「毎日電話されるのも、お母さんの負担になるだろうから、来れそうな時に連絡ください」と言ってもらえた事で心が軽くなった。小学校の時は毎日学校に電話をするのが苦痛だった。
- ・メールでのやりとりをしてくれ、先生と子供とのやりとりができています。担任の先生以外の先生も気にかけてくれて、子供や親が孤立せずありがたい。
- ・スクールカウンセラーとのふれあい、別室登校、異学年との交流など、スクールカウンセラーをはじめ、補助の先生たちの対応が素晴らしかった。「無理にこなくてもいいよ」等の声かけにより負担軽減に努めてもらえ、とにかく熱心に本人の話を聞いてくれたことで、数時間でも登校できるようになった
- ・学校内に学校とは違う立場であるスクールカウンセラーがいてくださり、カウンセラーとしてのアドバイスももらえた。市の支援センターが小、中一貫して学校と連携してくれ、学校に連絡をとりながら支援学校に毎日通級できていること、その仕組みができていることに感謝しています。

### 3-1-17 学校の対応の不満点

【問12】昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）の学校の対応について、全体的にどのように評価していますか。特に不満を感じている点や学校からしてほしくなかった対応と、その理由について具体的に記入してください。（自由記述）

自由記述について、小学校では、403件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと375件）。中学校では、706件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと612件）。

以下に、主な回答を紹介する（原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。）。

#### (1)小学校

- ・不登校になる前、担任の先生が本人の嫌がるような対応をした。ベテランの女性の先生が「型にはめる」ような指導をしようとした。いつもダメ出しばかりされたことで、親も子どもとても傷ついた。大きなトラブルや不登校、体調不良になるまでおこまれたが、特別支援級の先生や校長、スクールカウンセラーの先生たちに救われた。
- ・休みはじめた頃、担任の先生からお友だち関係が原因ではないかと原因の追究をすぐされたが、本人はそれを望んでおらず、自分の問題だからと困っていた。子どもが休むことの原因とその解決だけが重要ではないと思う。
- ・「とりあえず学校に来てみよう。そこからまた一緒に考えよう」と言う先生の言葉が子どもにも親の私自身にも不適切だった。子どもの気持ちや心情を無視された気分になった。
- ・学校を休みがちになってしばらくした4年生の時、子供の怠慢を疑われたときは少し傷付いた。休む前までは自分で起きてきて準備もし、日頃とてもまじめだったので、もう少し違うところでの原因を考えてほしかったなと思った。昨年度は全くそのようなことはなかった。
- ・学校に行けないことが続いた時の担任の先生からの電話がとても辛かった。子どもも私も悩んでいる時にかかってくる電話が辛かった。学校に行けないのはわかっているので、待ってほしいと思った。
- ・毎日欠席連絡をしなくてはいけない。本人が行く気にならないと登校させることができないため、学校に電話できるのは9：00前になってしまう。その前に学校から連絡が来てしまうので、気が重たくなる。様子を聞かれても、「正直私にも分からない」と思ってしまう。
- ・少ないながらも、出席したりテストを受けたりしていたにもかかわらず、通知表が全て斜線だった年度があり、本人の努力を分かっていただけにとっても残念だった。

#### (2)中学校

- ・担任から、「学校に戻れることが一番良い」と言われた。

- ・親としては、段階的に登校時間や登校日を増やしたかったが、無理に学校につれていこうとしたり、話しかける先生たちがいた。学校全体で子どもに対する対応の共通理解がされていない。
- ・先生によって対応方針が異なるように感じる。担任や学年主任、学校全体で現状認識や対応方針等が共有されているのか分からない。欠席や早退、遅刻進学の際の内申評価にどう影響するかについて学校側から情報提供がない。
- ・かろうじて放課後登校が出来た時に、「せっかく来れたのだから、教室に上がって自分の席を確認しない」など、追加の行動を促され、先生との距離が遠くなった。当時は足を運ぶだけで精一杯だったので、自分から言うのを待つてほしかった。
- ・自分が不在のときに、祖父祖母と住む家に担任が来たことが、子どもは会わなかったが迷惑だった。
- ・支援クラスに在籍しているからと、交流クラスの担任の先生が子どもはいないものとしてクラス運営していた。同級生との交わりが苦手なことをもう少し意識して、クラス運営してほしかった。
- ・子供の特性を理解していない先生がいる。特にベテランといわれる年齢の先生たちは、ADHD等の子供に対する理解がとぼしいと思う。
- ・昨年の休み始めのころ、毎朝「欠席します」とTELしなければいけなかった。授業に登校せずに部活動のみ参加する事ができなかった。
- ・学校に行けなくても、試験を受けて評価されなければならない事。本人が頑張るきっかけになった事もあったが、学校以外の塾や家庭教師での授業は経済的に厳しく、将来を考えるとあきらめるしかないのかと思知らされた。
- ・テストだけは受けてほしいと言われた。ほぼ授業を受けていないため、受けても点数は取れず順位だけついてしまう。他の子の順位のためなのかと思う。中学の担任の先生は家庭訪問や電話をよくくれるが、小学校の時の先生は休みが続いても何の対応もしてくれなかった。
- ・近所の同級生が学校からのお届け物をポストに入れてくれたことが申し訳なかった。また、毎日朝欠席の連絡を入れるのもつらかった。こちらから行く日に連絡する方法にしてもらったが、こちらからは言いにくいいため、もっと早くに学校側から提案してほしかった。
- ・休む時に毎回電話連絡するのが面倒。ほとんど会ったことのないクラスメートに「がんばって学校に来てね」という手紙を書かせて渡されることはとても嫌なので、やめてほしい。
- ・いじめている相手の方を庇い、こちらが悪い様に言われた。いじめている相手にけがをさせられたのに、謝りにも来ず、先生が言い訳にきた。
- ・授業を全く受けていないのに定期テストを受けるか聞かれて困った。オンライン授業がもしあれば、テストを受けることができたと思う。学校からの便りを保護者が取りに行かなければならないのは、時間の都合がとれず、大変に感じた。
- ・いつも孤立したような状態であるため、学校へ行けなくても学習できるような何かをしてほしい。授業内容を録画して家で視聴でき、定期テストとは別に学習内容を理解しているかのチェックをしてもらえるとよいと思う。
- ・通知表を渡されたとき、「学校に来て授業ノートを取れていれば、評価になる項目もあるのですが」と言われたが、友達にコピーを頼むことなど、登校できない間の授業ノートを何とかする案は全く言われず腑に落ちない気持ちだった。



### 3-1-18 困ったこと

【問13】昨年度に限らず、お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）に困ったことなどについて、自由に記述してください。（自由記述）

自由記述について、小学校では、510件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと505件）。中学校では、872件の回答があった（このうち、特になし、わからない、などを除くと847件）。

以下に、主な回答を紹介する（原文を読みやすさの観点から一部修正して掲載。）。

#### (1)小学校

- ・勉強の遅れ。家庭教師は高額なため、学校の授業をオンラインで受けられるようになると良いと思う。
- ・学力の低下や生活リズムの乱れ。このまま学校に行かなかった場合の子どもの将来についてかなり心配した。
- ・一人親であるため、学校に行っていない時間の食事の用意や子ども本人の生活リズム、一日の過ごし方を気に掛けることが大変。
- ・仕事を休めないため、一人で家に残しておくことになる。そうすると、外に出る時間が少なくなってストレスがたまるからか、気に入らない事や気に障ることがあったときに物に当たったりする事が増えた。
- ・心配なので携帯電話を持たせていたが、親が仕事でいない間に携帯電話で悪い人とながっていないかや、一人で留守番している間に変な人が来ないかが心配だった。
- ・オンラインゲームやYou Tubeへの依存が高まり、やめさせようとすると、イライラや怒りがひどくなり、暴言、暴力に近い行為が出る。病院へ連れていこうとしても、拒否し、身体が大きく力も強いため、自分だけの受診を継続している。何か問題が起きない限り、公的機関は関与してくれないのだろうかと思う。好きなようにゲームができる環境の中で、いつまでこのような状況が続くのか心配。
- ・今年度は夏休み明けから全く学校に行けていない。学校に行かなくなった事でオンラインゲームにのめり込み、度を越えてゲームをしている。視力も悪くなり、運動不足により体重の増加も心配。日々変わる様子のない生活を見ていると、こちらの方がストレスがたまる。たまに話をするとけんかになり、本人が一番悩み、苦しんでいることは分かっているが、訳も分からず涙が出てきて感情のコントロールが難しくなる。。もう少し気軽に保護者の悩み、話を聞いてもらえる場所があるとよい。
- ・ゲーム三昧の日々で、生活リズムが大幅に乱れて昼夜逆転していたこと。どんどん授業から遅れて行き、もはや授業を受けることすら苦痛になり、不登校が継続する理由になるという悪循環に困る。
- ・子供の気持ちが不安定で、頭痛があったり、イライラしていたり、いなくなりたがったり、外に出たくないと言って誰とも遊ぼうとしなかったり、気持ちの浮き沈みが激しかったりして、親は見守ったり声をかけたりすることしか出来ず、どうしてあげたらいいのか本人も親も分からず困った。

- ・子どもに学校には行かなくてもいいと伝えても、子ども自身は学校に行きたいと思う気持ちが強く、どうしていいかわからない。「行きたいけど、ずっと行ってないから友達視線が気になり行けない」と言われ「行けるようになってからでいいよ」「気にしない方がいいよ」と言ってみるものの「私の気持ちはわからない」と言われるなど、どう声を掛ければよいか分からないことがあった。
- ・1ヶ月間、入浴、歯磨きがなく、病気になるのではと心配だった。医療センターの先生からは、何も出来る事はないとのことで、どうしてよいか分からない時期があった。母子家庭のため、会社に行けずに退職する事になり、生活費の心配の方が大きい。
- ・生活リズムが乱れ、朝起きても朝食後すぐに横になり昼頃まで寝ていた。夜寝る時間が遅く、学習はせずにテレビを観たり、スマホばかりいじっていた。自分の考えや思っている事を言えず、聞かれた事にもなかなか返事が出来ないため、学校を休みたいが体調不良の訴えが出来ず、泣いてばかりいた。
- ・休んだ日の授業内容をプリントなどで配布して欲しい。学校へ行った時「前回の続きですが」などで始められると「前回は分からず、今居ても分からないから休めば良かった」となる。先生に説明を求めようとしても何十人の相手をする先生は忙しく、子供は聞く事をやめてかかえ込んでしまった。学習や体育のルールなど理解に時間がかかる事項に関するプリント配布などがあれば家庭でフォローが出来る。こうした授業内容のプリント配付などで連携をしてほしい。
- ・学校の情報が分からず、親まで取り残される感じがして困った。話したいのに先生も来てくれず、次の面談までまだまだ日があることもあって、自由に学校に話しに行くことは遠慮してしまった。

## (2)中学校

- ・自分で学習しないため勉強が全く分からず、人と交わらないため社会性が育たない。将来が心配。
- ・学力の低下に困っている。独学ではかなり厳しい。通信やリモートで受けられる授業があればいいのかもしれない。その授業を受ける事で出席扱いにしてくれたらなおよい。
- ・勉強の遅れがとても気になる。コロナ禍でオンライン授業の環境は整っているから、日々の授業のノートなどを学校のHPに掲載してもらえると試験の対策にもなる。
- ・学習の遅れが心配。友だちからの誘いがあっても共通話題が少なく遊びが継続しない。子どもも家族も孤立感や焦りを感じるし、将来への不安が募る。
- ・グレーゾーンの子どもの進路が不安。義務教育は中学生までだし、どうすればよいか。親が元気な間はどうかやっつけていけると思うが、自立させるにはどうしたらいいかいつも考えている。
- ・学校へ行けなくなった当初は何も出来ず無力だったが、数年がたち徐々に将来のことを本人が考え、見通しを立てようとしている。しかし学力がおいつかず、どこから教えるべきか自分自身の学力も自信が無いと、どのように学習させるべきか悩む。

- ・ぐうたら生活をしてほしくなかったが、仕事のためずっとは側にいられず、生活リズムが崩れてしまった。人とふれあう事が減ってしまって、コミュニケーション能力がさらに低くなってしまい、人ごみに連れて行くと不安が強くなり、顔つきが硬くなった。朝から受け入れてくれる所がなく、普通の生活リズムを作ってあげられなかった。
- ・1日の内ほとんど眠って過ごしている。本人も生活リズムを正したいと思っている様だが、中々うまくいかない。
- ・昼夜逆転し、部屋に閉じこもっている。食事も体調が悪いからとあまり採らず部屋に食器がたまる。空気の入換えや片付けをせず、ゲームやY o u T u b eに明け暮れることが体調悪い期間が多い。親としては後ろめたい気持ちがあって、毎日学校に欠席のT E Lをしなければならないのが苦痛に感じる。
- ・暇を持て余してしまい、ゲームやインターネットにのめりこむ。家から出る事が少ないため考え方が偏り、発達しない。
- ・昼夜逆転、暴力、ケンカと続いて、とても困っている。時間をずらして登校することもあるが、なぜ続いて登校しないのか、腑に落ちない日々が続いている。心療内科では反抗期といわれたが、それだけでないような気がする。
- ・怒鳴ることや、言葉の暴力が特に母親と祖母に対してひどかった。物に八つ当たりして、家の中の物をたくさん壊された。
- ・食費や光熱費などのお金がかかる。子供が学校に行けてないのに、集金やP T Aへの参加や会費の支払などでお金がかかる。不登校で手いっぱいなのになぜP T Aや行事手伝いをしないといけないのか分からない。
- ・学校で授業が受けられず家庭教師に来てもらったが、金銭的に負担になった。提出物のプリント等を締切り近くにもらうことが困った。
- ・夫や祖母の理解が得られず、自分が責められる。育て方がよくなかったなど、過去のやり方について否定されるのがつらい。子供を信じて待つことよりも、話しても分かってもらえないことに困っている。
- ・同居の義父が不登校に理解がない。日中、義父と2人きりになることが心配。義父が「何で学校に行かないんだ」「いつから行くのか」としつこいくらい子供に言う、説明しても理解してくれない。子供は無視しているが、義父に対してストレスを感じる。

## 第4章 クロス集計

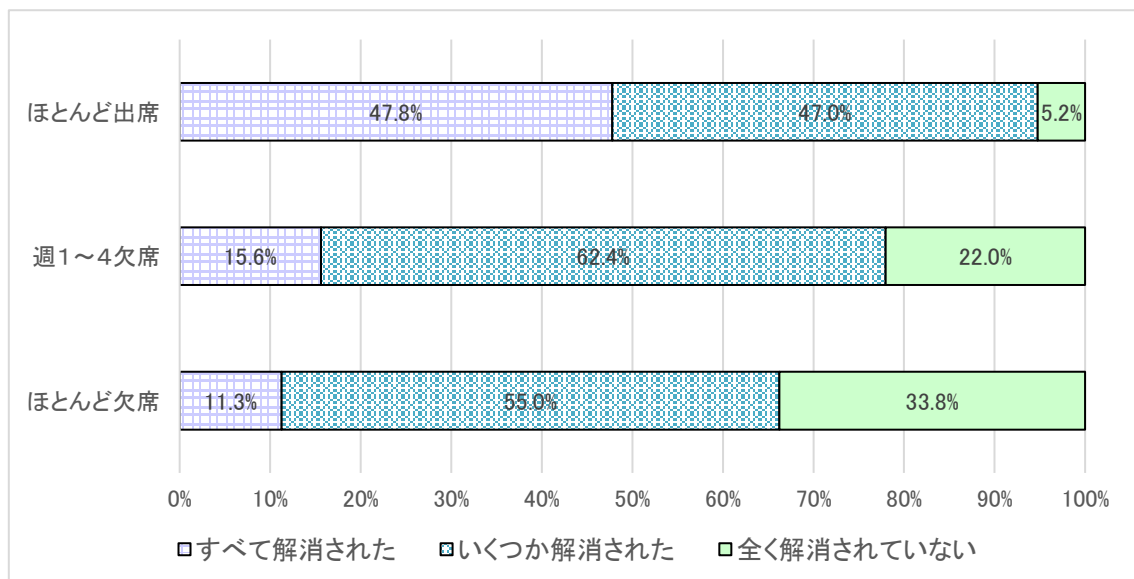
### 4-1 不登校の状況に影響を与える要素

児童生徒の現在の登校状況や不登校のきっかけについて、どのような要素が影響を与えているかについて分析する。

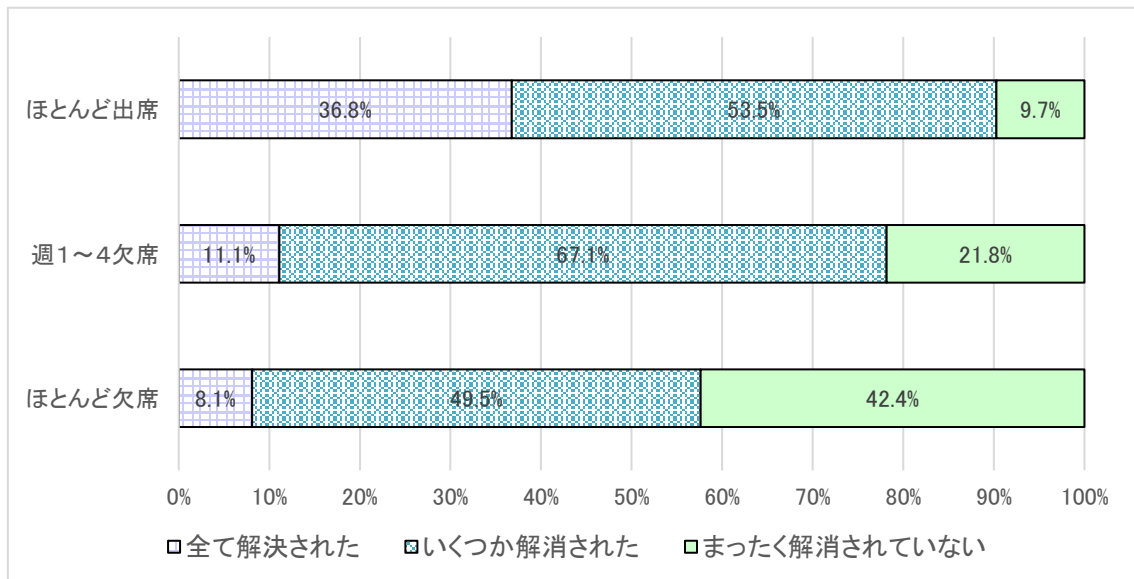
#### 4-1-1 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合

小・中学生共に、夏休み以降ほとんど出席している児童生徒は、ほとんど欠席している児童生徒よりも、休むきっかけとなった要因がすべて解消されたと回答している割合が高い。ただし、小・中学生共に現在ほとんど出席している児童生徒の過半数は、きっかけとなる要因がいくつか残っている状況にあっても出席できている。

図表 4-1 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-4-1 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合 (小学校)



図表 4-2 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-4-1 学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消度合（中学校）

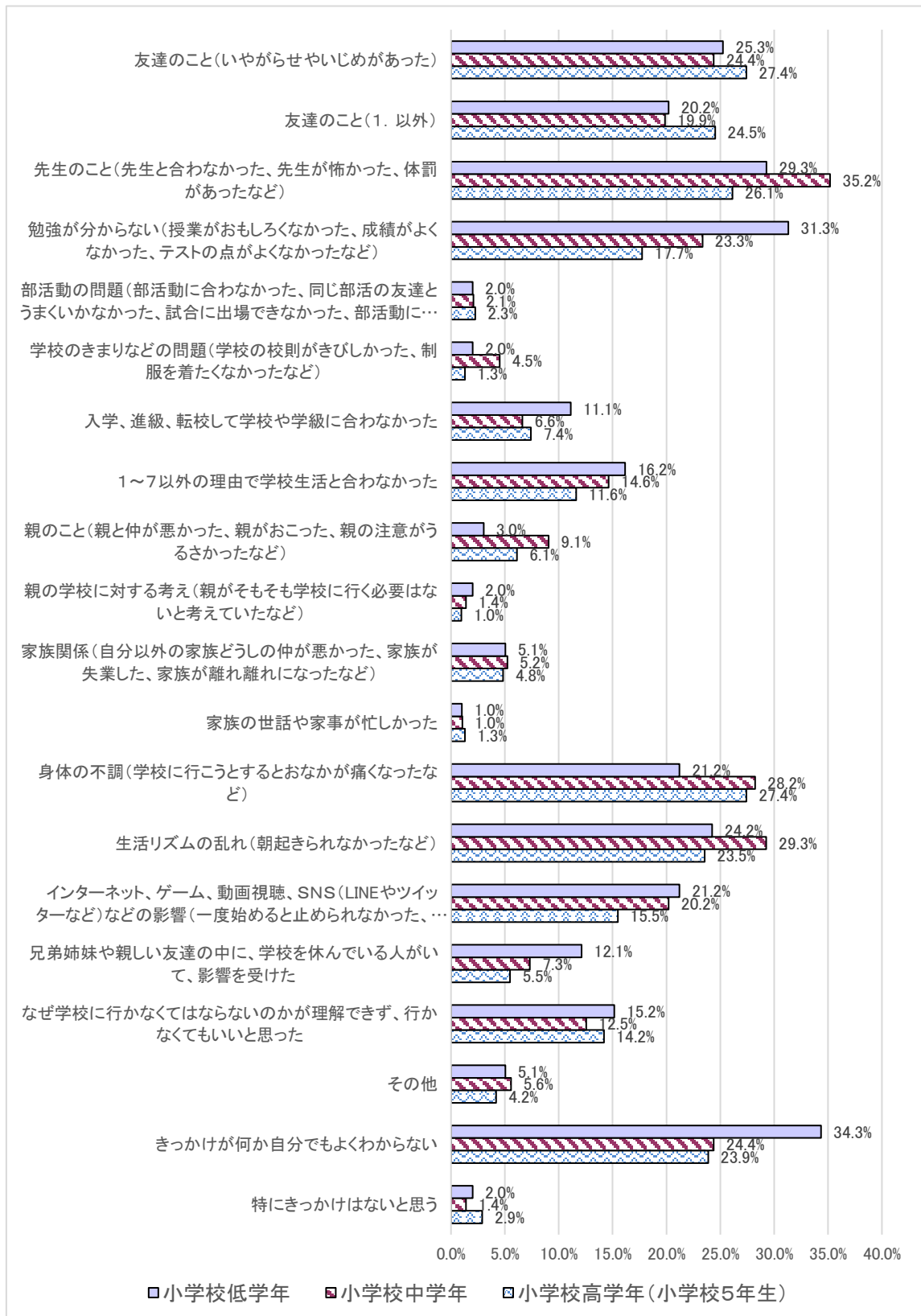


#### 4-1-2 不登校の開始時期ときっかけ

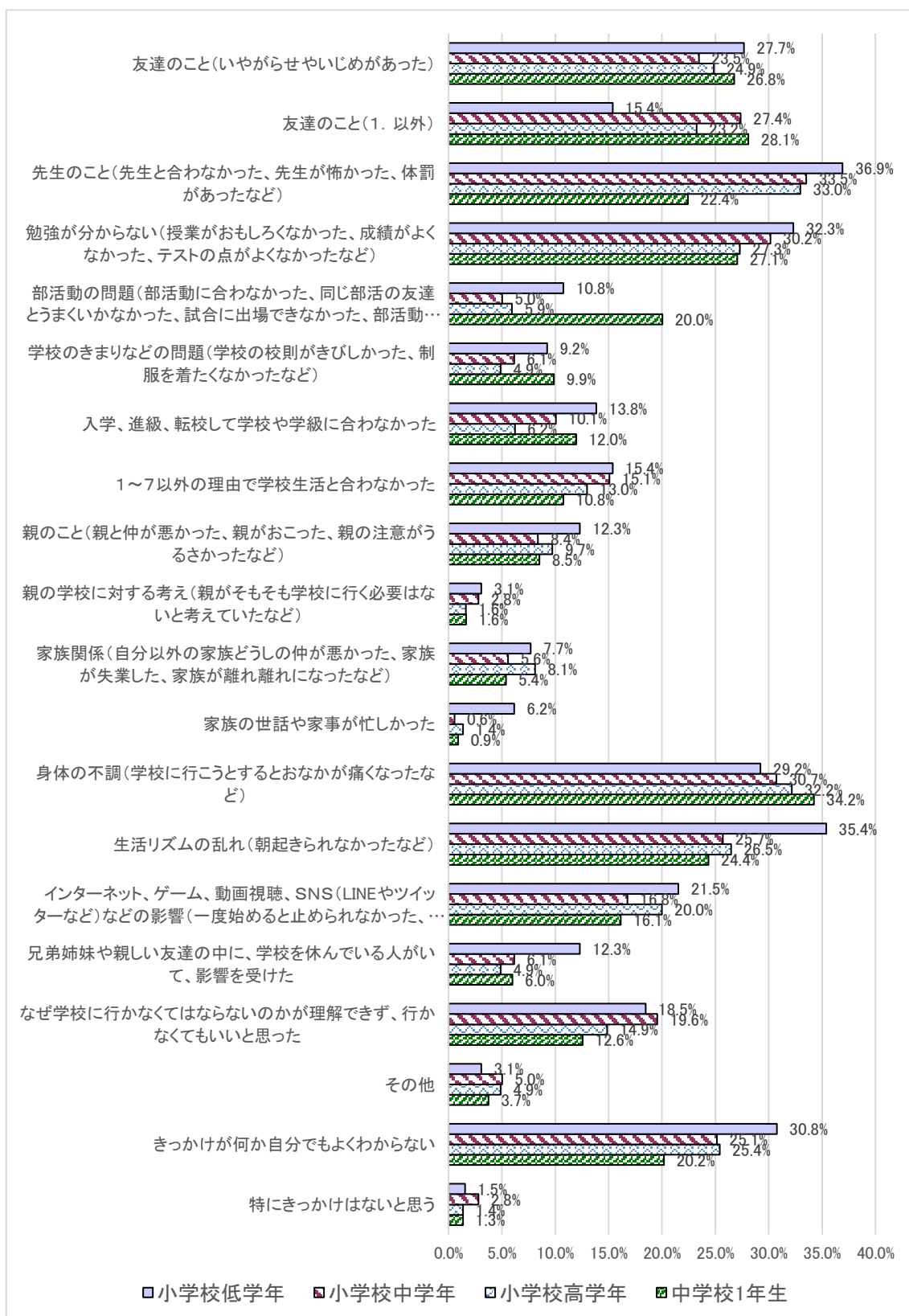
小学生からの回答によると、最初に学校に行きづらいつ感じ始めた学年が低学年からである不登校児童の方が、学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけについて「勉強が分からない（授業がおもしろくなかつた、成績がよくなかつた、テストの点がよくなかつたなど）」や「きっかけが何か自分でもよくわからない」と回答した割合が高い。

中学生からの回答では、最初に学校に行きづらいつ感じ始めた学年が小学校低学年からである生徒の方が、家庭に關係する要因の割合が高く、小学校高学年・中学校からである生徒の方が、学校に關係する要因の割合が高い。

図表 4-3 2-1-3 昨年の欠席状況 × 2-2-2 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ (小学校)



図表 4-4 2-1-3 昨年の欠席状況 × 2-2-2 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ (中学校)



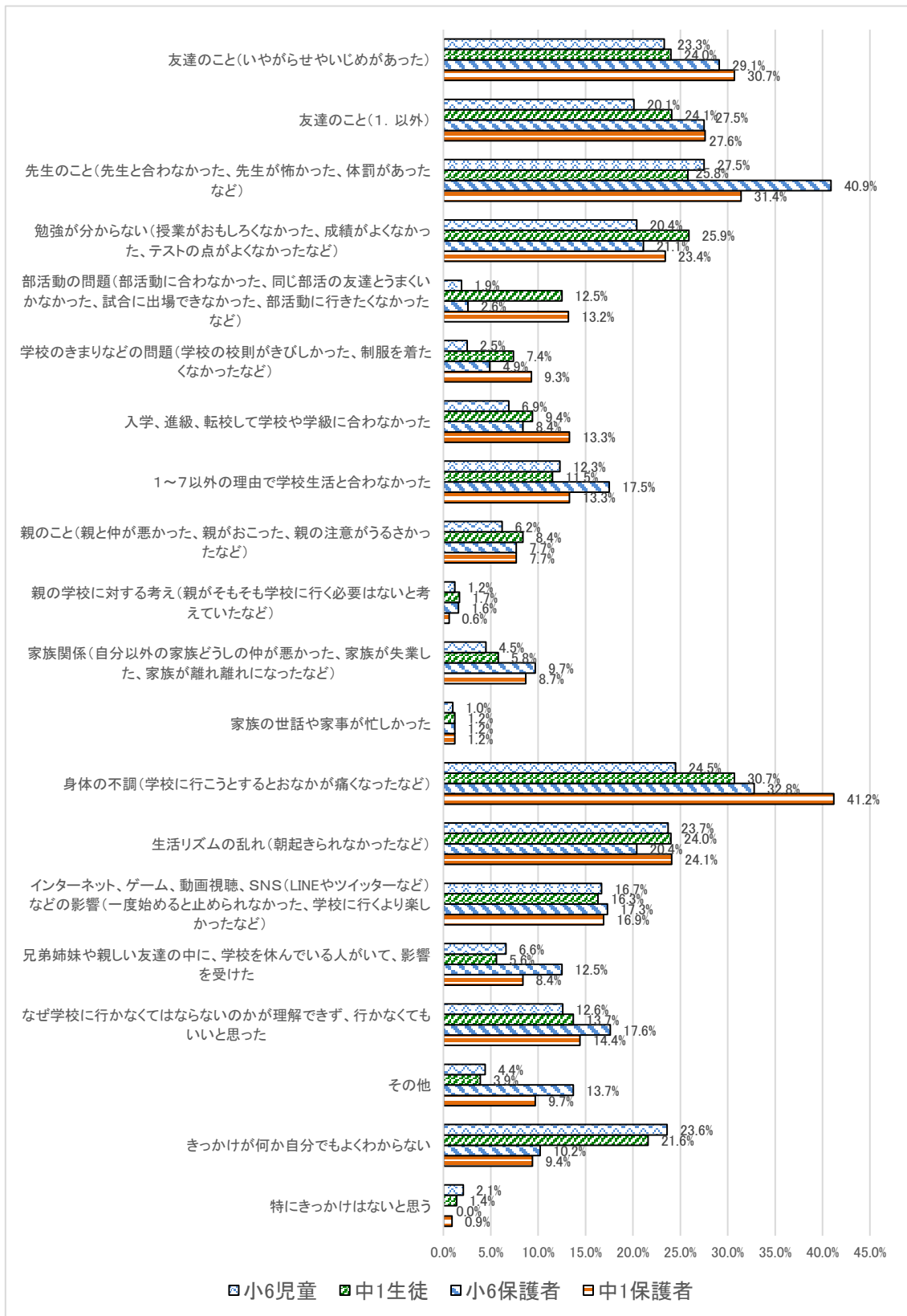


#### 4-1-3 保護者と子供が思う不登校になったきっかけ

小・中学生共に、児童生徒と比べて保護者の方が学校に関係することを要因として考えた割合が高く、一方で保護者と比べて児童生徒の方が「きっかけが何か自分でもよくわからない」と回答した割合が高い。

小学校保護者は「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」、中学校保護者は「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」と回答した割合が最も高い。

図表 4-5 2-2-2 最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ × 3-1-5 子どもが最初に学校を休むようになったきっかけ

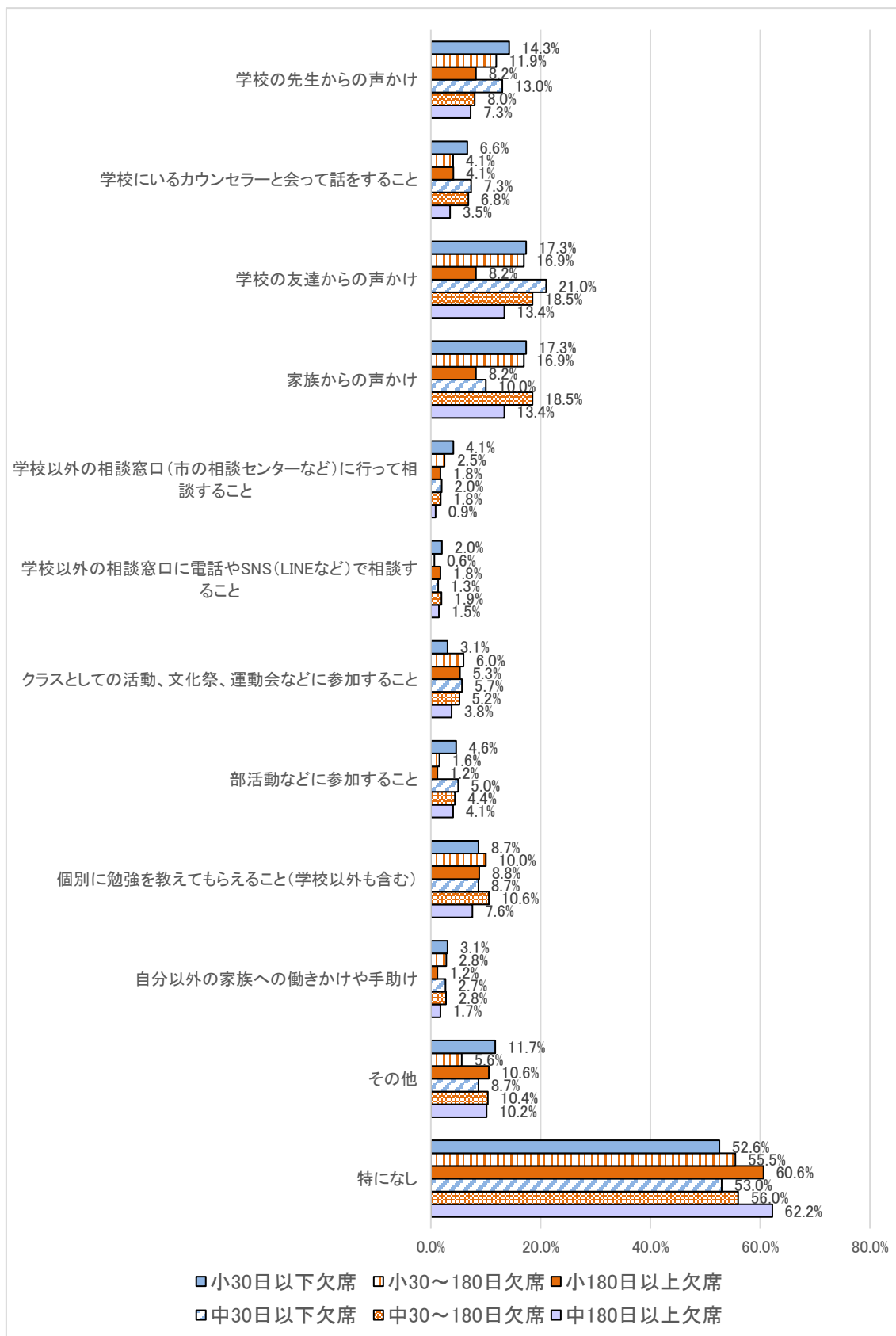


## 4-2 児童生徒の個々の状況に応じた支援策

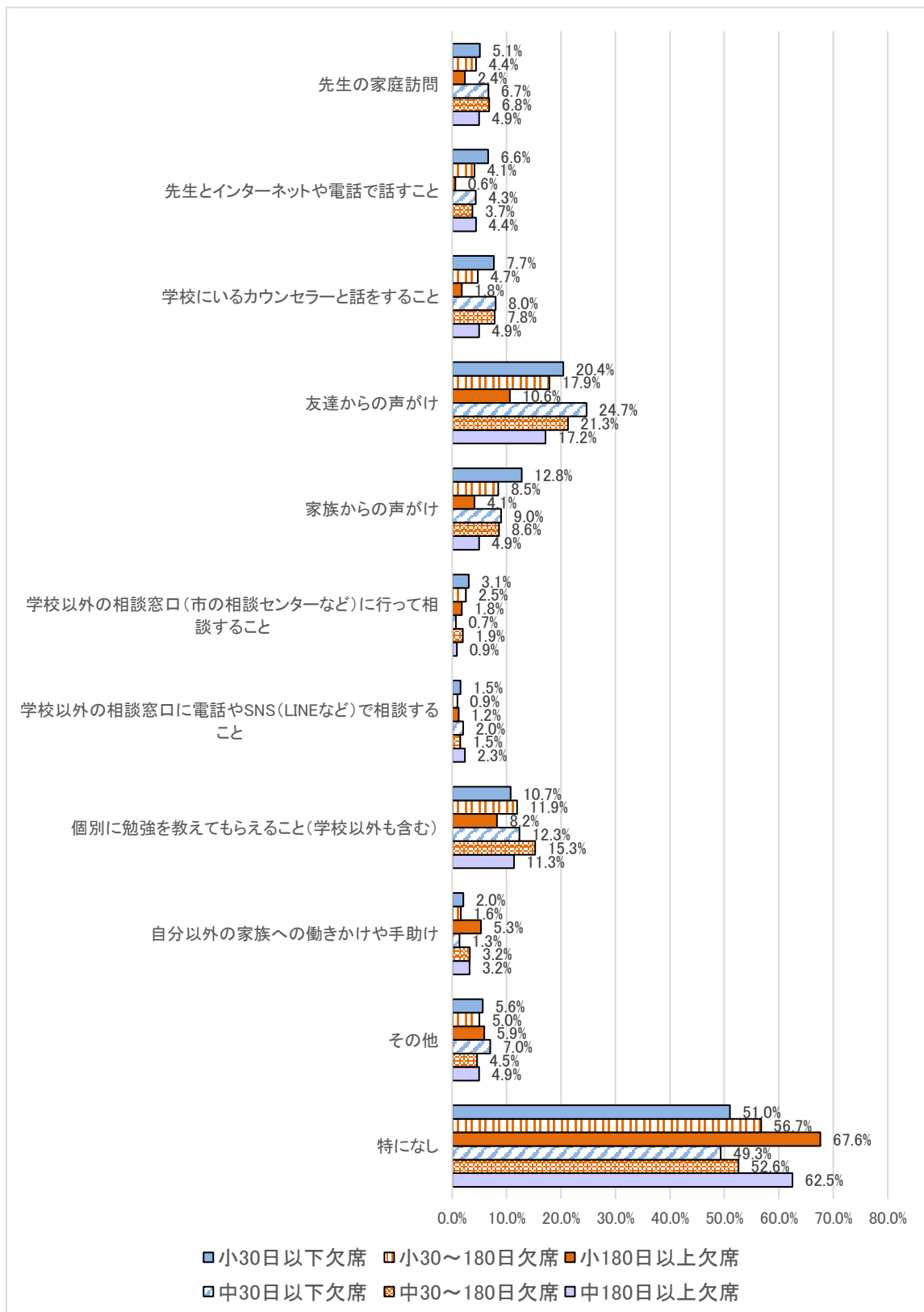
### 4-2-1 必要な支援

小・中学生共に、昨年の欠席日数が多い児童生徒ほど、必要だった支援について「特になし」と回答している割合が高く、支援に対するニーズの認知が低いことや、支援を自ら求めることが難しい状況にある可能性がある。また、「個別に勉強を教えてもらえること（学校以外も含む）」に関しては休みが継続している方がニーズは高まる傾向にある。

図表 4-6 2-1-3 昨年の欠席状況 × 2-2-13 休まなかったと思う対応



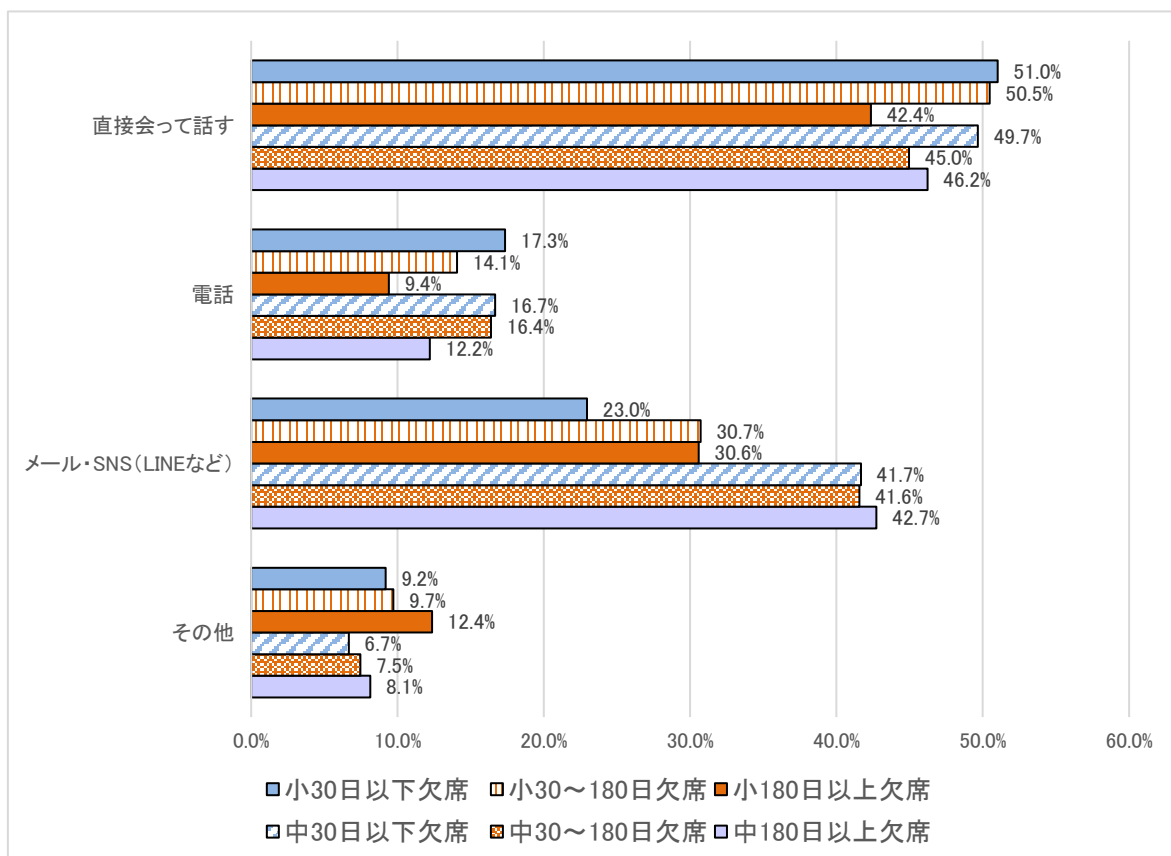
図表 4-7 2-1-3 昨年の欠席状況 × 2-3-3 学校に戻りやすいと思う対応



#### 4-2-2 休みはじめの相談

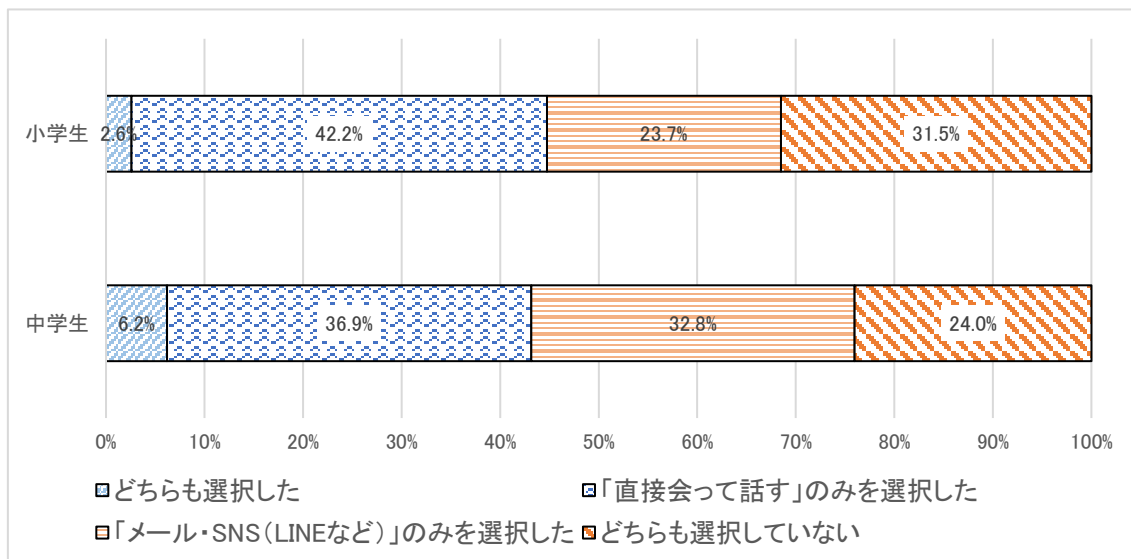
小・中学生共に昨年度の欠席日数が多い児童生徒ほど、相談しやすい方法として「直接会って話す」「電話」を選択した割合が低く、「メール・SNS（LINE など）」を選択した割合が高い。

図表 4-8 2-1-3 昨年の欠席状況 × 2-2-12 相談しやすい方法



また、中学生からの回答では「直接会って話す」のみを選択した割合、「メール・SNS (LINE など)」のみを選択した割合それぞれが4割前後と一定の割合を占めている。他方で、小・中学生共に複数選択可であるにもかかわらず「直接会って話す」「メール・SNS (LINE など)」のどちらも選択した割合は1割未満であり、相談しやすい手段はばらつきが見られる。

図表 4-9 校種 × 2-2-12 相談しやすい方法



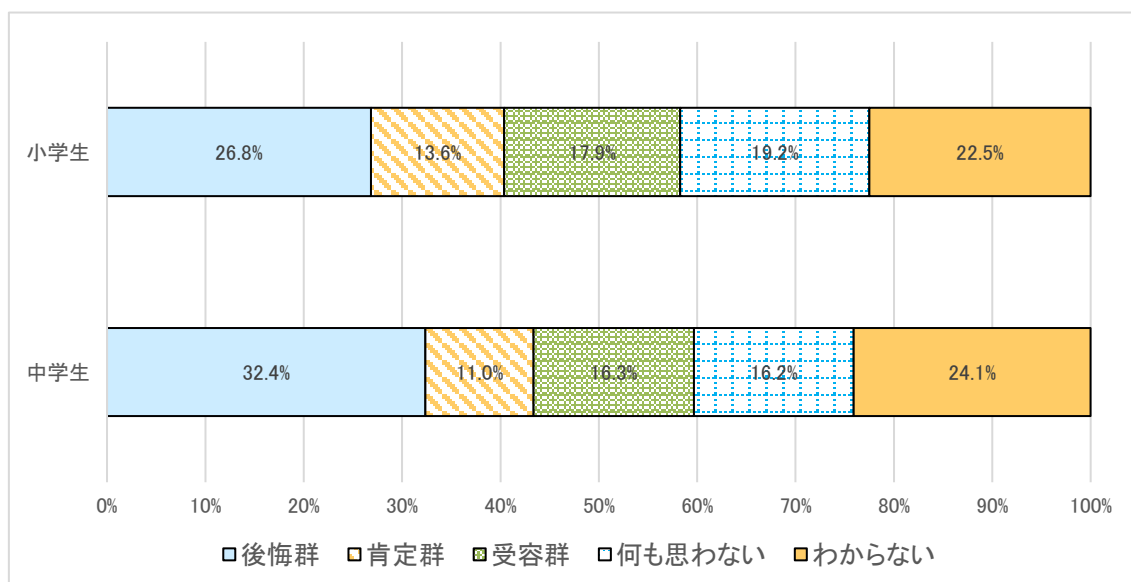
### 4-2-3 不登校への認識別の傾向

2-4-2「学校を多く休んだことに対する感想」について「もっと登校すればよかったと思っている」(後悔群)、「登校しなかったことは、自分にとってよかったと思う」(肯定群)、「しかたがなかったと思う」(受容群)等に分類をし、それぞれの傾向を見た。

#### (1)不登校への認識別の傾向

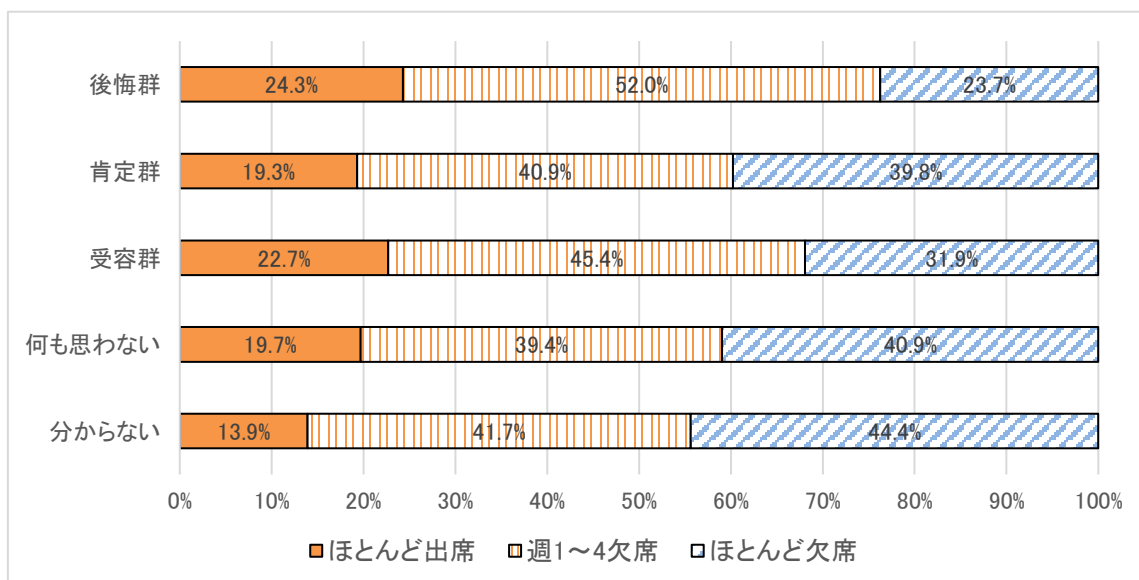
小・中学生共に、「後悔群」が最も多くなっており、小学生の回答と中学生の回答を比較してみると、中学生の方が「後悔群」の割合が高い。また、各群の出席状況を見ると、「分からない」、「何も思わない」と回答した児童生徒は、他の群と比較して、「ほとんど欠席」が「ほとんど出席」を大きく上回る傾向が顕著である。

図表 4-10 校種 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想

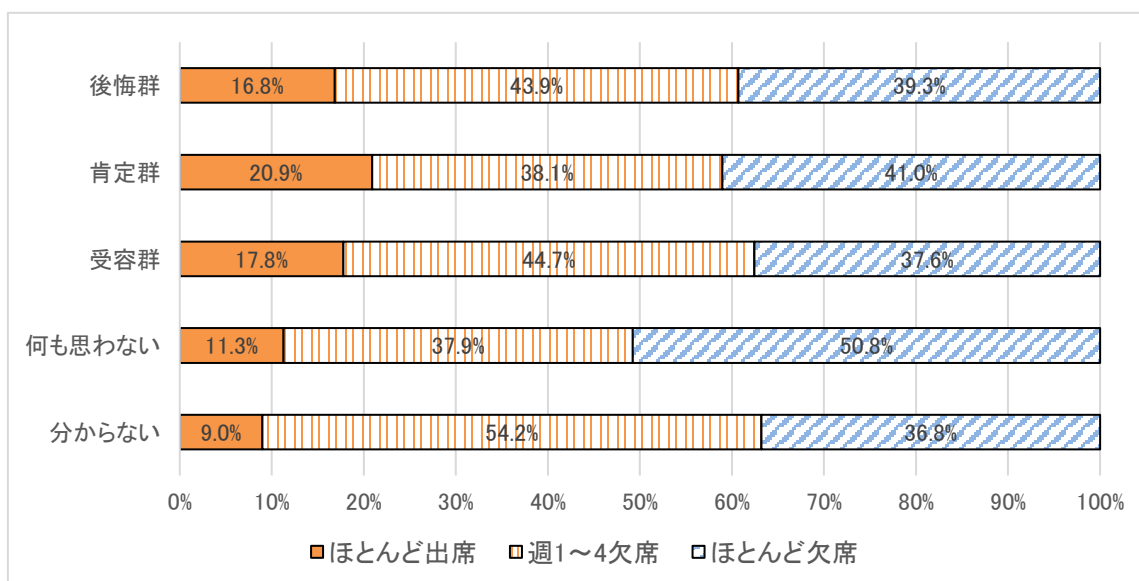




図表 4-11 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（小学生）



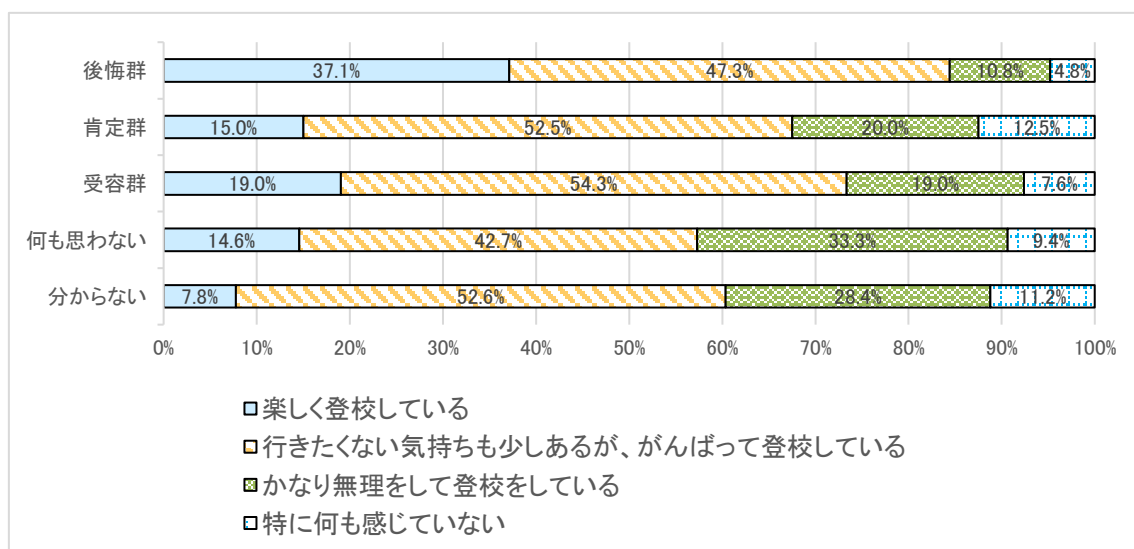
図表 4-12 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（中学校）



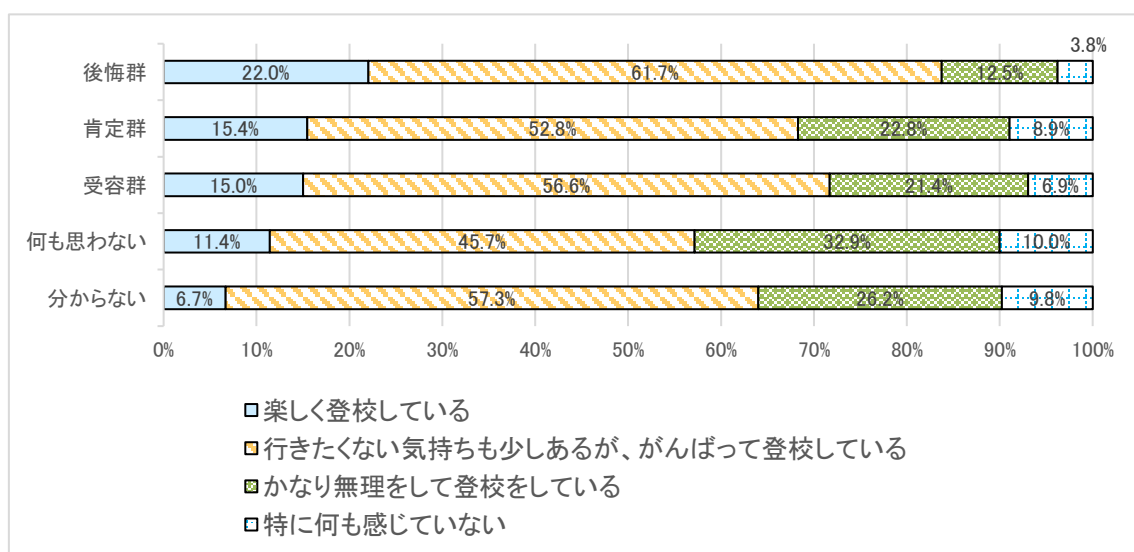
(2) 現在登校していることについて

小・中学生共に、「後悔群」では「楽しく登校している」と回答している割合の方が「かなり無理をして登校している」と回答している割合よりも高い。他方で、「肯定群」では「楽しく登校している」と回答している割合よりも「かなり無理をして登校している」と回答している割合の方が高い。

図表 4-13 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想 × 2-4-3 登校するときの今の気持ち (小学校)



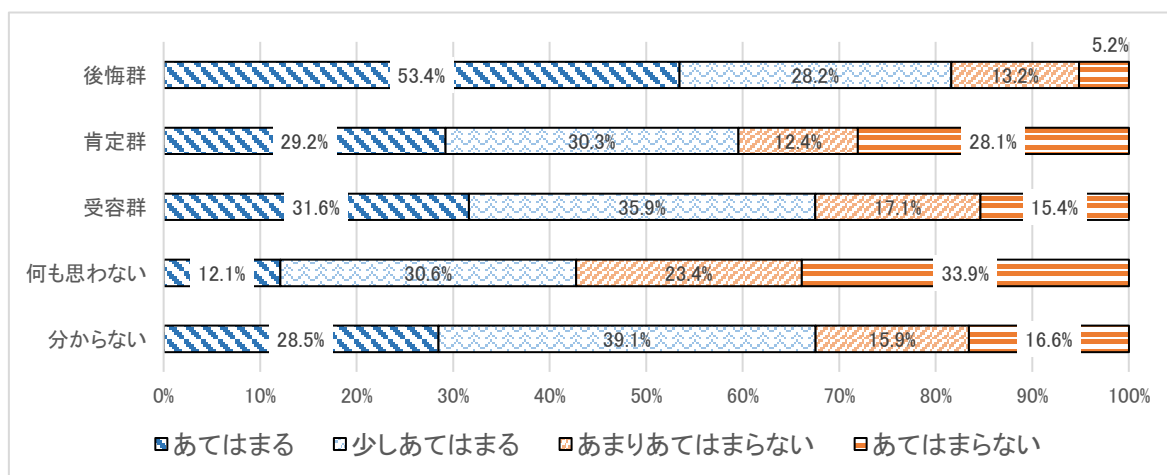
図表 4-14 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想 × 2-4-3 登校するときの今の気持ち (中学校)



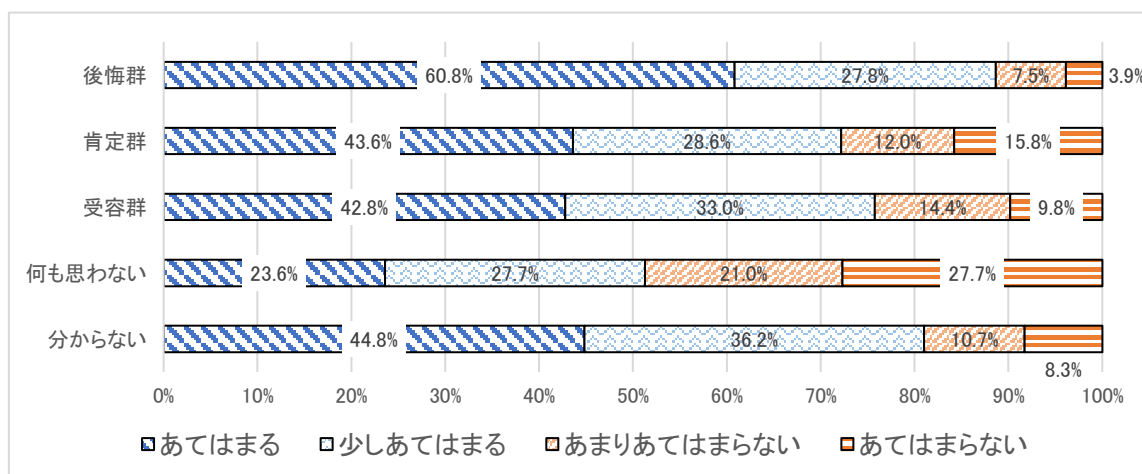
### (3) 学校を休んでいる間の気持ち

小・中学生共に、「後悔群」は休んでいることの安心や不安について「勉強の遅れに対する不安があった」に半数以上が「あてはまる」と回答し、他の群と比較して高い割合となった。「肯定群」は休んでいることの安心や不安について「ほっとした・楽な気持ちだった」に半数以上が「あてはまる」と回答し、他の群と比較して高い割合となった。

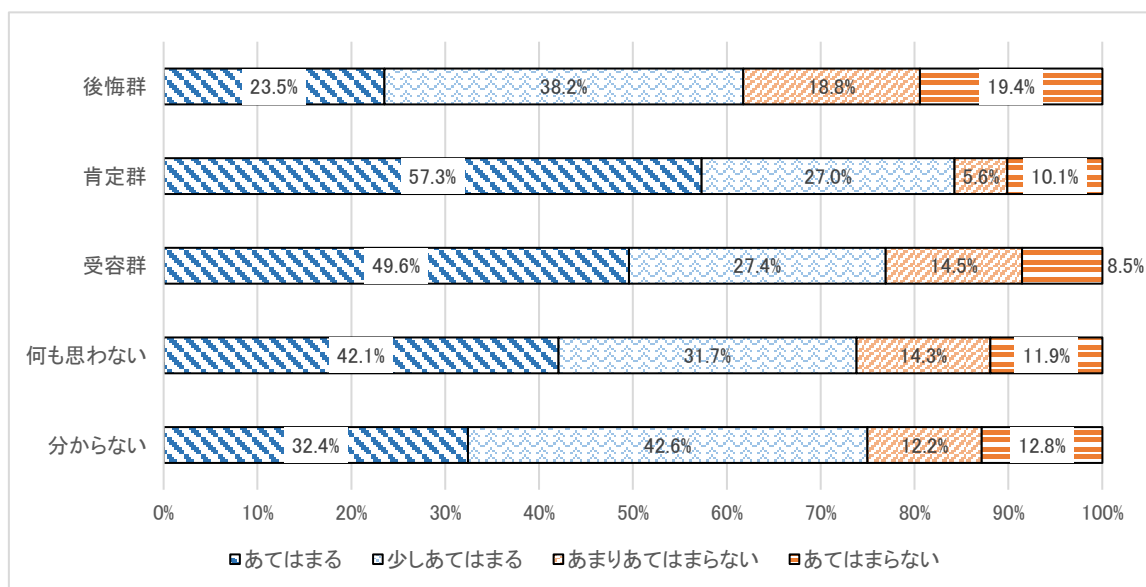
図表 4-15 2-3-1 学校を休んでいる間の気持ち【学校を休んでいることの安心や不安について】「勉強の遅れに対する不安があった」 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（小学校）



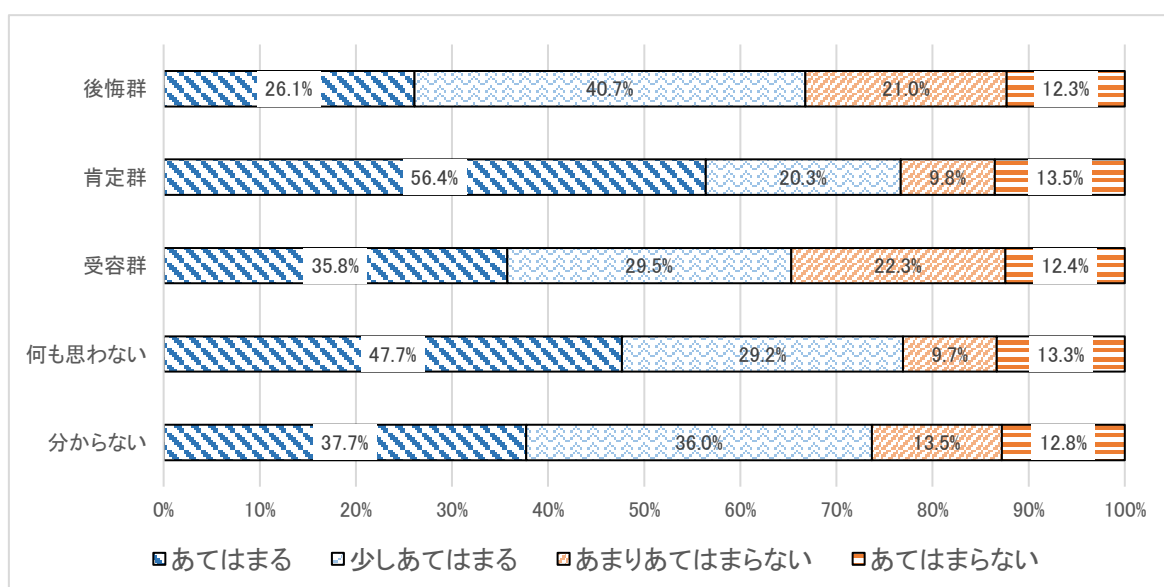
図表 4-16 2-3-1 学校を休んでいる間の気持ち【学校を休んでいることの安心や不安について】「勉強の遅れに対する不安があった」 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（中学校）



図表 4-17 2-3-1 学校を休んでいる間の気持ち【学校を休んでいることの安心や不安について】「ほっとした・楽な気持ちだった」 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（小学校）



図表 4-18 2-3-1 学校を休んでいる間の気持ち【学校を休んでいることの安心や不安について】「ほっとした・楽な気持ちだった」 × 2-4-2 学校を多く休んだことに対する感想（中学校）



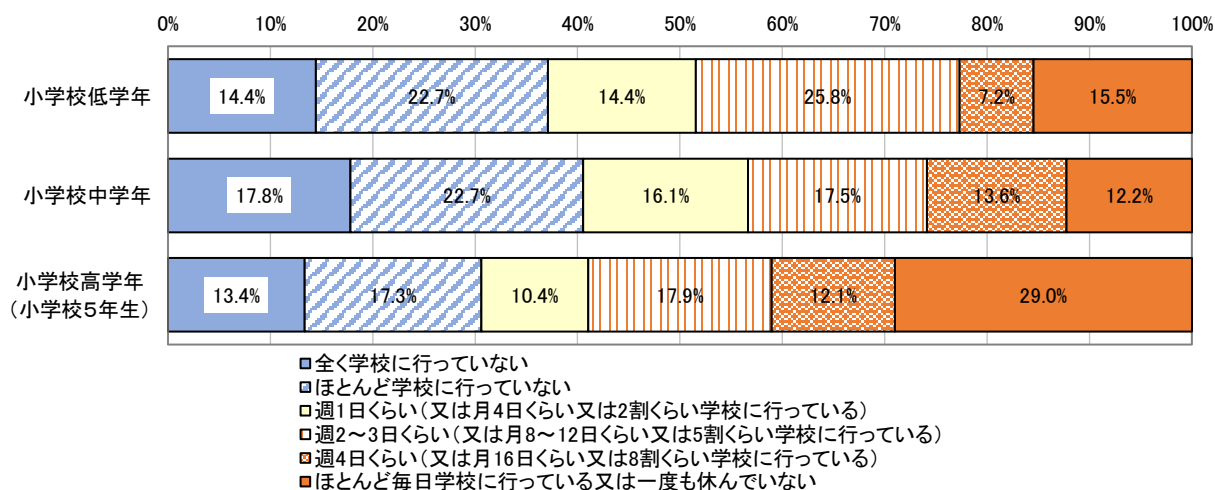
#### 4-3 児童生徒が最初に30日以上欠席をした学年別の児童生徒の状況

児童生徒が最初に30日以上欠席をした時期によって小学校低学年群、小学校中学年群、小学校高学年群、中学校群の4つに分類し、それぞれの傾向を見た。

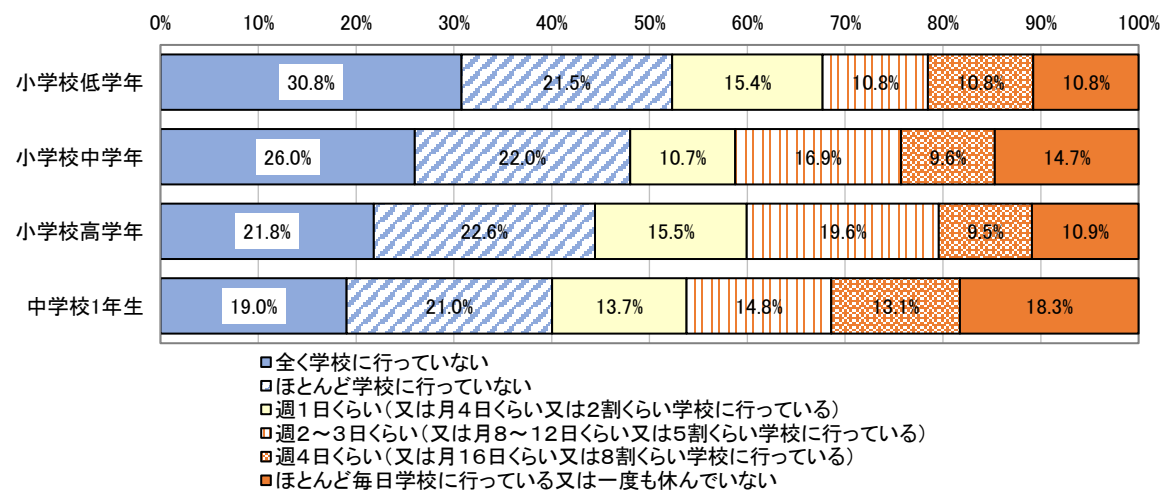
##### 4-3-1 今年の夏休み以降の出席状況

中学生からの回答によると、低学年群は他の群と比較して「全く学校に行っていない」と回答した割合が高い。

図表 4-19 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-1-5 欠席したことがある学年  
(小学校)



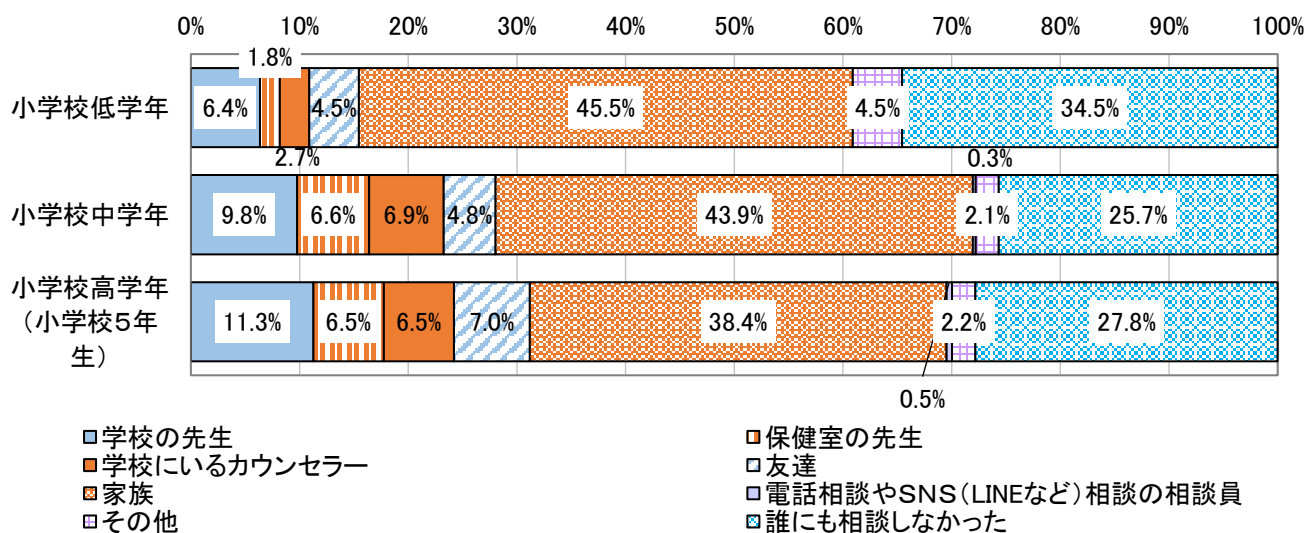
図表 4-20 2-1-2 夏休み以降の出席状況 × 2-1-5 欠席したことがある学年  
(中学校)



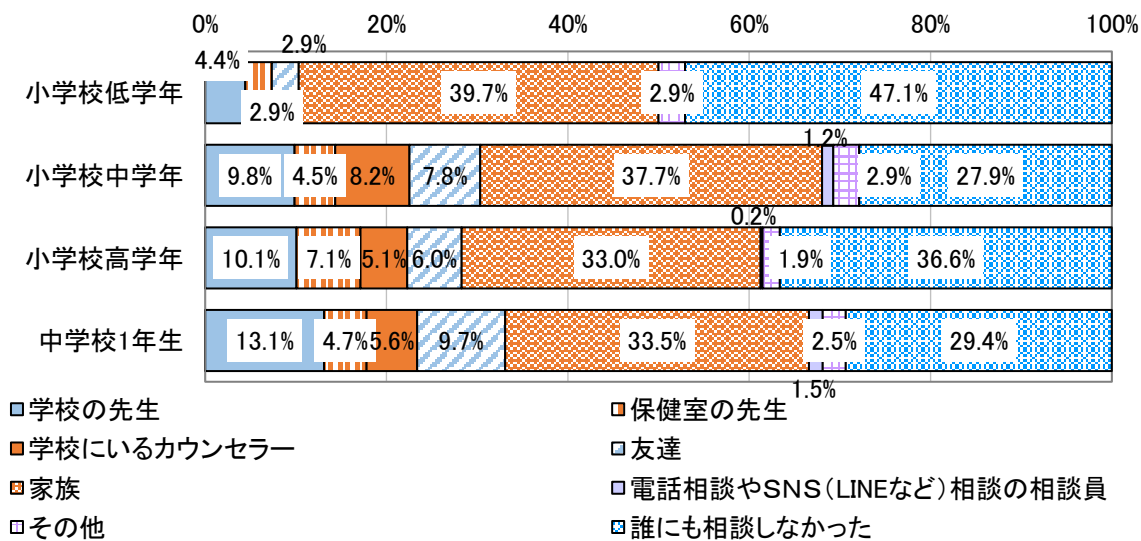
#### 4-3-2 学校に行きづらいつと感じ始めた時に相談した相手

小学生からの回答では、学校に行きづらいつと感じ始めた時に低学年群は他の群と比較して「学校の先生」「保健室の先生」「学校にいるカウンセラー」「友達」に相談したと回答した割合が低い。また、中学生からの回答からも同様のことが言える。

図表 4-21 2-1-5 欠席したことがある学年 × 2-2-11 相談した相手 (小学校)



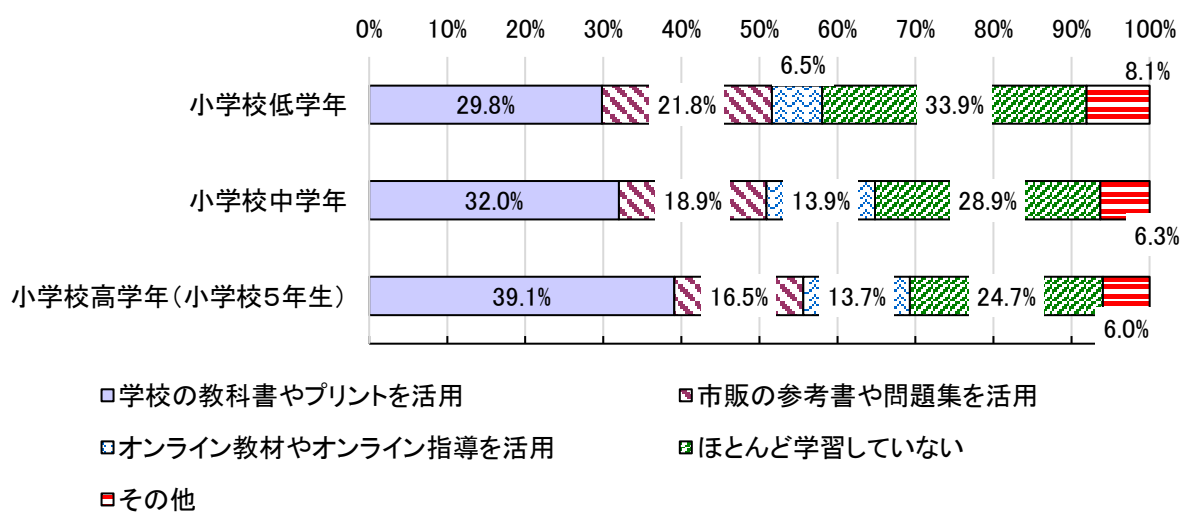
図表 4-22 2-1-5 欠席したことがある学年 × 2-2-11 相談した相手 (中学校)



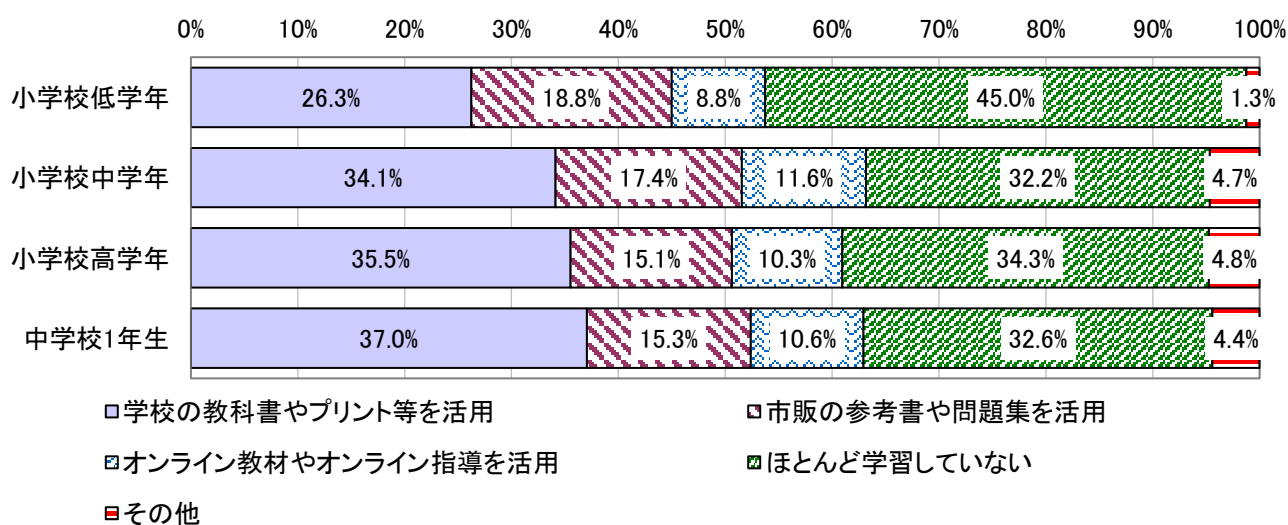
### 4-3-3 自宅での学習方法

中学生からの回答によると、自宅での学習方法について低学年群は他の群と比較して「ほとんど学習していない」と回答した割合が高い。

図表 4-23 2-1-5 欠席したことがある学年 × 2-3-7 自宅での学習方法 (小学校)



図表 4-24 2-1-5 欠席したことがある学年 × 2-3-7 自宅での学習方法 (中学校)



## 第5章 まとめ・考察

---

### 5-1 まとめ・考察

本調査では、児童生徒本人や保護者へのアンケートを通じ、学校に行きづらいつ感じ始めたとき、学校を休んでいる間、今現在のそれぞれの時点における児童生徒の状況や必要な支援の把握に努めた。なお、本調査は、不登校児童生徒のうち調査対象期間中に登校等の実績がある者を対象に、調査協力のあった学校において実施したものであるため、登校等が困難な状況に置かれた児童生徒など、全ての不登校児童生徒の傾向を捉えたものではないことに留意が必要である。

#### 5-1-1 不登校児童生徒の個々の状況

児童生徒の調査では多くの項目に回答のばらつきが見られ、不登校児童生徒の個々の状況が多様であることが浮き彫りとなった。

##### (1) 学校に行きづらいつ感じ始めたとき

児童生徒の回答をみると、「最初に学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけ」(2-2-2)は多岐にわたるものの、「先生のこと」(小学生 30%、中学生 28%)、「身体の不調」(小学生 27%、中学生 33%)、「友達のこと」(小学生 25%、中学生 26%)、「勉強がわからない」(小学生 22%、中学生 28%)などの割合が高かった。自由記述では、先生の指導が怖かったなど、教師と児童生徒の間で信頼関係を築くことができなかつた事例や、障害のある児童生徒や性の多様性等について理解を求める記述もあり、教師を含め児童生徒の支援に関わる学校関係者は、児童生徒の発達や特性を理解し、指導方法や伝え方を工夫する等の重要性が示唆される。また特に中学生の回答では「勉強がわからない」の割合が増え、学習面においても丁寧な対応が求められる。

##### (2) 学校を休んでいる間

「学校を休んでいる間の気持ち」(2-3-1)では、「学校を休んでいることの安心や不安」について、小学校・中学校ともに「ほつとした・楽な気持ちだつた」が「あてはまる」「少しあてはまる」を合わせて約7割(小学生 70%、中学生 69%)であり、休み始める前の児童生徒が抱えるストレスの大きさがうかがえる。また、「勉強の遅れに対する不安」(小学生 64%、中学生 74%)、「進路・進学に対する不安」(小学生 47%、中学生 69%)も高い割合となつており、特に中学校にその傾向が強い。これらから、児童生徒によっては欠席の期間



が休養としての意味を持つ場合がある一方で、特に学習面の遅れなどに対する不安を深める場合もあることが示唆される。

また、「学校を休んでいる間の気持ち」(2-3-1)のうち、「自分がどう思われているか」について、「学校の同級生などがどう思っているか不安だった」が「あてはまる」「少しあてはまる」を合わせて約7割(小学生64%、中学生72%)であり、不登校期間中の様々な不安を示す結果となった。

### (3)現在の状況

登校を始めた今のことについて、「学校に行きづらいつ感じ始めたときのきっかけの解消割合」(2-4-1)は、約1～2割(小学生19%、中学生13%)が「すべて解消された」、約5割(小学生53%、中学生54%)が「いくつか解消された」と回答している一方で、「全く解消されていない」と回答した児童生徒も約2～3割(小学生21%、中学生27%)存在する。さらに、「登校するときの今の気持ち」(2-4-3)について、約1～2割(小学生16%、中学生12%)の児童生徒は「楽しく登校している」と回答している一方、約6割が「行きたくない気持ちも少しあるが、がんばって登校している」(小学生40%、中学生44%)、「かなり無理をして登校している」(小学生17%、中学生17%)と回答しており、困難を抱えながら登校している様子が明らかとなった。

また、「(3)学校を多く休んだことに対する感想」(2-4-2)では、「もっと登校すればよかったと思っている」が約3割(小学生25%、中学生30%)、「登校しなかったことは自分にとってよかったと思う」が約1割(小学生13%、中学生10%)、「しかたがなかったと思う」が約2割(小学生17%、中学生15%)を占め、欠席していた期間の意義の捉え方もそれぞれに異なることが分かった。なお、「もっと登校すればよかったと思っている」と回答した児童生徒は、「学校を休んでいる間の気持ち」(4-2-3)では「ほっとした・楽な気持ちだった」が「あてはまる」(小学生24%、中学生26%)「少しあてはまる」(小学生38%、中学生41%)としているなど、児童生徒の不登校に対する思いは、休み始めた直後と現在など、時期によって変わりうることは留意する必要がある。

### (4)保護者から見た児童生徒の状況

「昨年度欠席時の子どもの状況」(3-1-6)について、約半数に「極度に落ち込んだり悩んだりしていた」(小学生55%、中学生64%)「原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった」(小学生56%、中学生64%)などが見られ、精神・身体面の不安定な状況がうかがえる。また、「インターネットやゲームを一日中していた」と回答している割合も多い。

「昨年度の子どもとのかかわり」(3-1-7)では、約8～9割の保護者が「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした」(小学生86%、中学生81%)「子供の気持ちを理解するよう努力した」(小学生96%、中学生93%)と回答した一方で、「子供の進路や将来について不安が大きかった」(小学生74%、中学生78%)「子どもにどのように対応していいのかわからなかった」(小学生61%、中学生61%)との回答も多く、また、自由記述においては、本人を気遣い「学校には行けるようになってからでいいよ」と声を掛けると、かえって「私の気持ちはわからない」と子どもから返され、何を言ってもいいか分からないといった回答もあるなど、保護者が抱える不安や困難が明らかとなった。

### 5-1-2 児童生徒の状況に応じた多様な支援

不登校児童生徒や保護者の回答から、個々の状況により必要となる支援は異なり、状況に応じた適切な相談先や多様な教育機会の確保、児童生徒の発達や特性等を踏まえた対応が重要であることが明らかとなった。また、支援を必要としていないと回答した児童生徒が半数以上いる一方で、それぞれに悩みや困難を抱えており、こうした児童生徒が支援につながるためのアウトリーチ型支援の必要性も示唆された。

#### (1)相談支援

「相談しやすい方法」(2-2-12)では、約5割(小学生49%、中学生46%)が「実際に会って話す」と回答しているが、特に中学生では約3～4割(小学生29%、中学生42%)が「メール・SNS」と回答している。この質問は複数回答可であったが、両方を重複して回答している数は少なく、対面での相談体制とメール・SNSでの相談体制のいずれも必要であり、児童生徒の状況に応じて相談方法を選択できることが重要であることが明らかとなった。

また、児童生徒の自由記述では、安心して相談できる先生がいるため登校しやすいとの回答や、スクールカウンセラーと相談することで気持ちが楽になったとの回答があったほか、保護者からの回答では、「学校の対応への評価」(3-1-11)について、「スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談」の他、「学校内に別室登校できる環境整備」や「教育支援センターなど学校外の教育機関の紹介」について約8割が「よかった」「どちらかといえばよかった」と回答しており、多様な相談体制を整備することの重要性が確認される結果となった。

## (2)学習支援

「最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由の有無」(2-5-1)について、小学校・中学校ともに「ある」と答えたのが約3割(小学生32%、中学生34%)あり、その理由は多岐に渡るが、「勉強が分からない」との回答が最も高い割合であり、学習支援等の丁寧な対応が求められる。また、「学校に戻りやすいと思う対応」(2-3-3)では「個別に勉強を教えてもらえること(学校以外も含む)」(小学生11%、中学生13%)が「友達からの声かけ」(小学生17%、中学生21%)に次いで多い割合となっている。

「自宅での学習方法」(2-3-7)を見ると、「ほとんど学習していない」が約4割(小学生36%、中学生44%)を占めているところ、保護者からの回答では、「学校の対応への評価(1)」(3-1-10)において、「学校によるオンラインを活用した学習支援」について、「実施されず残念」が約7割(小学生74%、中学生69%)となっており、自由記述においても同様の意見が見られ、オンラインを活用した学習支援の充実が望まれている。

## (3)アウトリーチ支援

「休まなかったと思う対応」(2-2-13)について、「特になし」が小学校・中学校共に約6割(小学生56%、中学生57%)を占め、児童生徒の出席状況別にみた場合(4-2-1)、欠席日数が180日以上の児童生徒は、180日未満の児童生徒と比べて必要な支援は特にないと回答する児童生徒の割合が大きい傾向にあるなど、欠席日数が多い児童生徒は自ら相談支援を求めなくなってしまうことが示唆される。また、保護者からの回答では、自由記述において、どこに相談してよいか分からず、支援機関の方から連絡がもらいたかったという回答があったほか、「支援機関等の対応への評価(1)」(3-1-12)において、約3割(小学生29%、中学生34%)が「教育支援センター(適応指導教室)等の公的支援機関」について「利用できる環境であるが利用していない」と回答しており、支援の必要性を認識していないことや、相談先が分からないことなどから支援につながっていない児童生徒及び保護者への、相談窓口の周知やアウトリーチ支援が必要である。

### 5-1-3 不登校の初期段階からの早期支援

本調査を通じて、不登校児童生徒が学校に行きづらいつ感じ始めたときからの支援の重要性や、特に小学校低学年時から不登校となっている児童生徒が一定数おり、低学年時からの早期支援の必要性が明らかとなった。

### (1) 休みはじめの段階からの支援

児童生徒が休みたいと感じ始めてから実際に休み始めるまでの期間(2-2-7)として、「1か月未満」(小学生 27%、中学生 32%)、「1か月以上6ヶ月未満」(小学生 20%、中学生 23%)を合わせて、約5割が1か月～半年程度で休み始めている。さらにその間に、学校に行きづらいことについて約5割(小学生 53%、中学生 45%)が家族には相談をしているが、約4割(小学生 36%、中学生 42%)は誰にも相談していない(2-2-11)。児童生徒側から教師や大人に相談を求めることは難しい場合も考えられ、実際に休み始めるまでに児童生徒の変化に気づき、教師や学校関係者等から児童生徒に声掛けや話を聞いたり、必要に応じてスクールカウンセラー等の相談につなぐ等、早期に児童生徒の抱える困難さに気づき、対応を実施していくことが求められる。また、約半数が家族には相談をしていることから、保護者等と信頼関係を築き、継続的に児童生徒の状況を把握することも重要である。

### (2) 低学年時からの支援

児童生徒が最初に30日以上欠席をした学年別に低学年群、中学年群、高学年群、中学群に分類し、それぞれの傾向を比較したとき、中学生の回答では、「今年の夏休み以降の出席状況」(4-3-1)について、「全く学校に行っていない」と回答している割合が低学年群(小学生 31%)は中学年群(中学生 26%)、高学年群(中学生 22%)と比べ多い。また、小学生、中学生の回答によると、「自宅での学習方法」(4-3-3)では、「ほとんど学習していない」の割合が低学年群(小学生 33%、中学生 55%)は中学年群(中学生 46%)、高学年群(中学生 45%)と他の回答と比べ高く、影響の深刻さがうかがえる。

また、「学校に行きづらいと感じ始めた時に相談した相手」(4-3-2)では、「誰にも相談しなかった」の割合が低学年群(中学生 49%)は中学年群(中学生 38%)、高学年群(中学生 46%)と他の回答と比べ高く、低学年の児童生徒への積極的な支援の重要性が明らかとなった。

## 5-2 結び

本調査は、調査を実施した年の前年度（令和元年度）という比較的直近の時期に不登校であった児童生徒やその保護者から直接回答を得たものであり、その実態や率直な意見等を把握する上で非常に意義があるものと考えている。

本調査では、児童生徒の状況や支援ニーズの把握に努め、回答から一定の傾向が見られるいくつかの点については、まとめ・考察において紹介した。他方で、回答に一定の傾向が見られる場合においても、一人ひとりの回答に目を向ければ、その実態は非常に多様であり、本調査において留意すべきは、こうした不登校児童生徒の個々の状況や支援ニーズの多様さであると考え。児童生徒一人ひとりの気持ちや様々な特性、また保護者の不安な気持ちに寄り添い、十分な信頼関係を構築しつつ個々に応じた支援を行うことが重要であり、このためには、個々の状況を把握し、適切な支援を行うための十分な相談体制や複数の支援手段が必要である。今回のこうした調査結果は、今後の不登校児童生徒への支援のあり方等について、示唆に富むものだと考える。

(参考)

不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議委員

伊 藤 美奈子 (国立大学法人奈良女子大学大学院生活環境科学系 教授)

植 山 起佐子 (C P C O M 臨床心理士コラボオフィス目黒 臨床心理士)

野 田 正 人 (立命館大学大学院人間科学研究科 特任教授)

小 野 憲 (国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官)

滝 充 (国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 客員研究員)

宮 古 紀 宏 (国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官)

(五十音順)